HONDA

取扱説明書

運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★ お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★ この車は排出ガス規制適合車です。
GOLDWING　（EBL-SC47 型）：
GOLDWING（AIRBAG·NAVI）（EBL-SC47 型）：
平成 19 年排出ガス規制適合車

運転免許について

★ この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。
この車の排気量：1832 cm^3 (cc)
排気量により必要な免許が異なります。

★ この車の乗車定員は、運転者を含め 2 人です。
なお、運転免許を取得後 1 年未満の方は、法令により 2 人乗りはできません。

お車について

★ この車は、連動ブレーキシステムおよびアンチロックブレーキシステム（ABS）を装備しています。
詳細については、21ページおよび22ページを参照ください。

〈GOLDWING（AIRBAG·NAVI）〉

★ この車は、エアバッグシステムを装備しています。
エアバッグシステムについては別冊のエアバッグシステム取扱説明書（30MCAU20）をお読みください。

★ この車は、ナビゲーションシステムを装備しています。
ナビゲーションシステムについては別冊のナビゲーションシステム取扱説明書（30MCAT10）をお読みください。

取扱説明書について

★ この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。
「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★ 車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★ 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★ 車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★ Honda販売店で取り付けられたHondaアクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

安全に関する表示について

★ 安全に関する表示
「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ 危険 **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの**

⚠ 警告 **指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの**

⚠ 注意 **指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの**

★ その他の表示

アドバイス お車のために守っていただきたいこと

知 識 知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

目　次

安全運転のために 6
触媒装置について 14
各部の名称 16
連動ブレーキシステム 21
アンチロックブレーキシステム (ABS) 22
メータの見かた、使いかた 23
　計器類 23
　　速度計（スピードメータ） 23
　　エンジン回転計（タコメータ） 23
　　燃料計 24
　　水温計 24
　警告灯・表示灯 25
　　油圧警告灯 25
　　PGM-FI 警告灯 26
　　アンチロックブレーキシステム (ABS) 警告灯 26
　　燃料残量警告灯 27
　　イモビライザーシステム (HISS) 表示灯 28
　　サイドスタンド表示灯 28
　　自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯 29
　　自動定速走行装置セット表示灯 29
　　前照灯上向き表示灯（ハイビームパイロットランプ） 29
　　ニュートラル表示灯 30
　　リバース（後退）表示灯 30
　　オーバードライブ表示灯 30
　　方向指示器表示灯 30
　マルチインフォメーションディスプレイ 31
　　昼／夜モード 32
　　イルミネーション 33
　　時計 35
　　オープニング／エンディングセレモニー 37
　　区間距離計（トリップメータ） 44
　　積算距離計（オドメータ） 44
　　外気温度計 45
　　リヤクッション調整レベル表示 45
　　トランク／サドルバッグ オープンインジケータ 47
スイッチの使いかた 50
　メインスイッチ 50
　エンジンストップスイッチ 52

スタータ／リバース（後退）スイッチ 52
前照灯上下切換えスイッチ（ヘッドライト上下切換えスイッチ） 53
パッシングライトスイッチ 53
ホーンスイッチ 53
方向指示器スイッチ 54
非常駐車灯スイッチ（ハザードスイッチ） 55
フォグライトスイッチ 55
ウォッシャスイッチ／ワイパスイッチ 56
グリップヒータスイッチ 58
シートヒータスイッチ 59
装備の使いかた 60
イモビライザーシステム（HISS） 60
ハンドルロック 64
ウインドスクリーン ベンチレーション 65
サイドベンチレーション 66
ロアベンチレーション 66
フェアリングポケット 67
トランクサイドポケット 68
トランク／サドルバッグ 69
ヘルメットホルダ 73
キーレスエントリー 74
アクセサリソケット 76
ツールバッグ 77
書類 77
ブレーキレバーの距離調整 78
クラッチレバーの距離調整 78
リヤクッション 79
前照灯（ヘッドライト）の光軸調整 84
後退装置 86
自動定速走行装置 88
オーディオシステム 92
AM/FM ラジオ 94
オーディオの機能 107
AUX 接続端子の組付け 114
ラジオアンテナ 116
サイドカバー 117
エンジンサイドカバー 118
シリンダーヘッドサイドカバー 119

目　次

燃料の補給 120
正しい運転操作 122
　エンジンのかけかた 122
　チェンジのしかた 123
　走りかた 124
　ブレーキの使いかた 127
メンテナンスを安全に行うために 130
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス 133
　日常点検 135
　定期点検 137
　簡単なメンテナンス 138
　　ブレーキ 139
　　ブレーキ液の量の点検 139
　　ブレーキパッドの摩耗の点検 140
　　タイヤ 141
　　空気圧の点検 141
　　亀裂と損傷の点検 142
　　異状な摩耗の点検 142
　　溝の深さの点検 143
　　交換タイヤの選択について 143
　　クラッチ 144
　　クラッチ液の量の点検 144
　　エンジンオイル 145
　　オイル量の点検 145
　　オイルの補給 146
　　冷却水 150
　　冷却水量の点検 150
　　冷却水の補給 151
　　バッテリ 152
　　バッテリターミナル部の清掃 153
　　バッテリの取付け、取外し 154
　　ヒューズ 155
　　ヒューズの点検、交換 155
　　エアクリーナ 157
　　エアクリーナエレメントの交換 157
　　ケーブル類・ワイヤ類 157
　　ケーブル・ワイヤ類の点検 157

ブリーザドレン 158
ブリーザドレンの清掃 158
ウォッシャ液 159
ウォッシャ液の量の点検 159
噴射位置の点検 159
ウォッシャ液の補給 160
ワイパ 162
ワイパの点検 162
ワイパブレードラバーの交換 163
車のお手入れ 166
アルミ部品の取扱い 169
つや消し塗装の取扱い 169
エキゾーストパイプの取扱い 170
ウインドスクリーンの取扱い 171
ディスプレイの取扱い 172
保管のしかた 173
地球環境の保護について 174
お車および部品等の廃棄をするとき 174
ハイマウントストップランプについて 176
色物部品をご注文のとき 177
マフラの純正マークについて 178
フレーム号機 179
オーバーヒートしたとき 180
エンジンが始動しないとき 181
主要諸元 182
サービスデータ 184

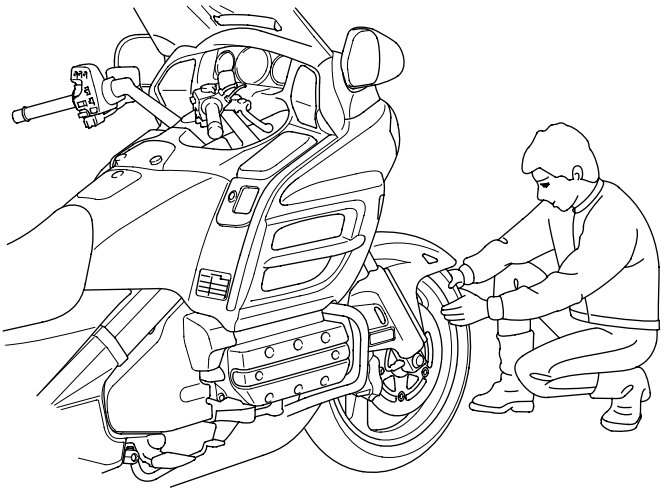
安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

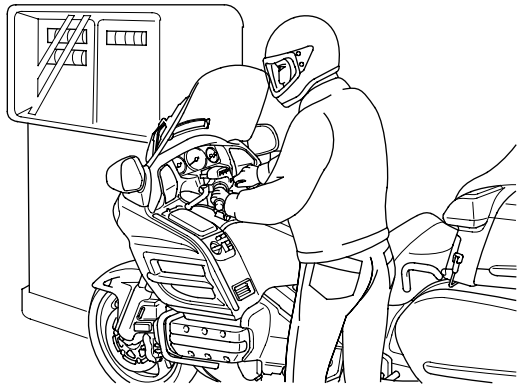
運転する前に

- 日常点検を行ってください。
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
  日常点検は、135ページ参照。

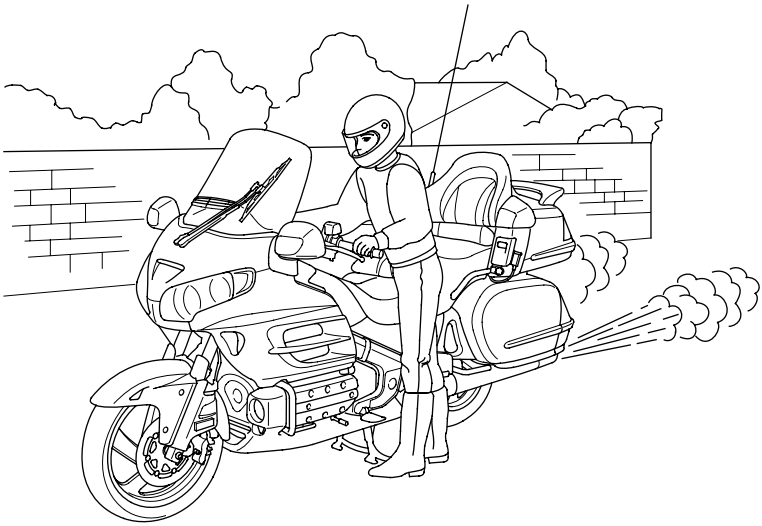
- 定期点検を実施してください。
  定期点検は、137ページ参照。



- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。
  ヘルメットは二輪車用でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっくり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
  - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
  - ・くるぶしまで覆い、かかとのある靴の着用
    － 二輪車用ブーツが望ましい
  - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
  - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
    － 明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
    － すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキやチェンジ操作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

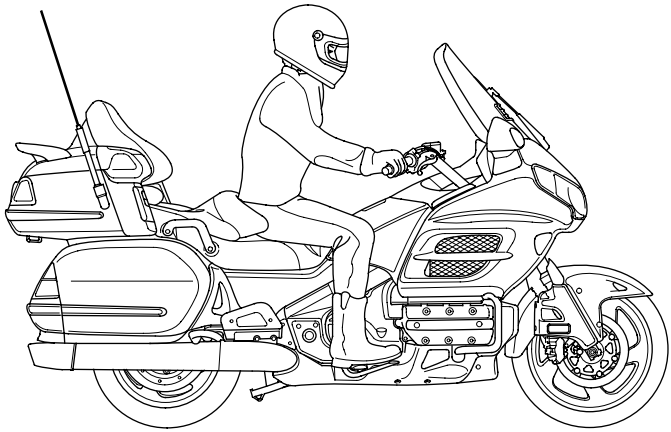
⚠ 警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

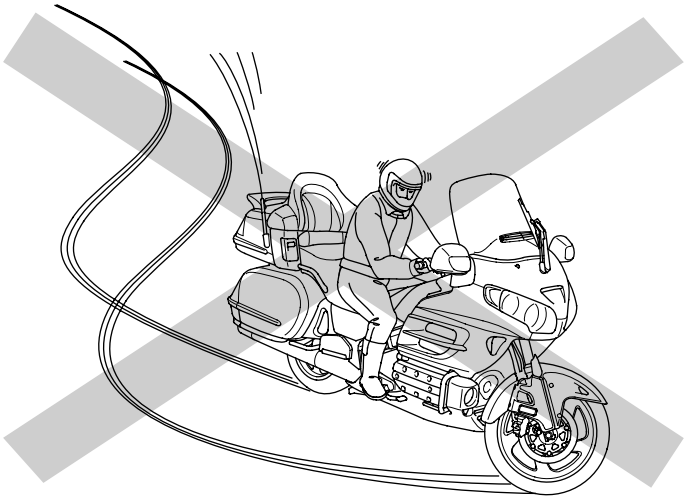
運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手でからだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。

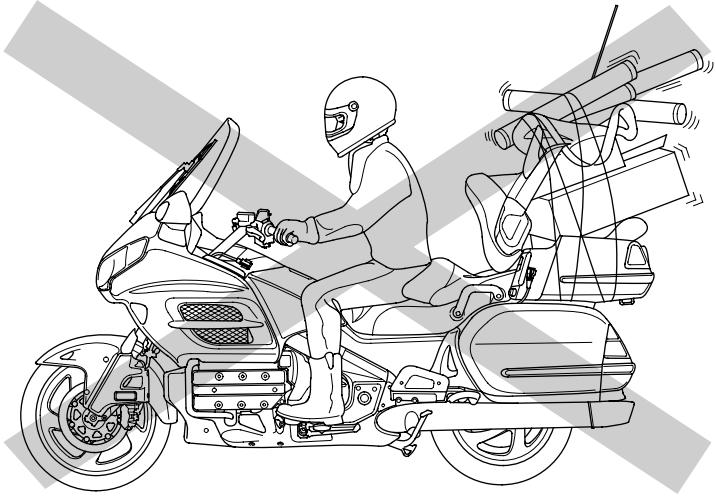


- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
  これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



荷物

- 荷物を積んだときは､積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”、“左右のバランスをとる”など十分注意し、安全に走行してください。
- ハンドルの近くに物を置くと､ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください｡過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
- レンガや鉄片等､固くて重いものをトランクやサドルバッグに入れたまま走行しないでください｡積載重量以内でもトランクやサドルバッグ本体が損傷する場合があります。



改造

- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。
  不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。
  このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成19年排出ガス規制適合車です。
  排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。
  また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。
  マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

駐車

駐車するときは

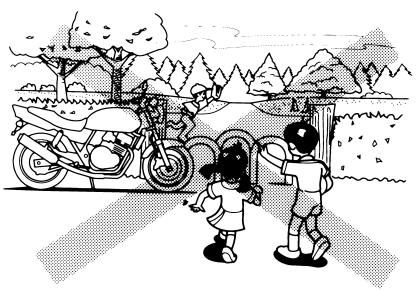
盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。

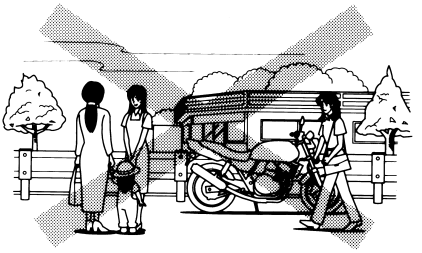
- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所で、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

サイドスタンドでの駐車について

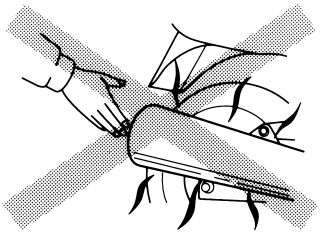
車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒する恐れがあります。

- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。





- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。



⚠ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。
触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の3つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

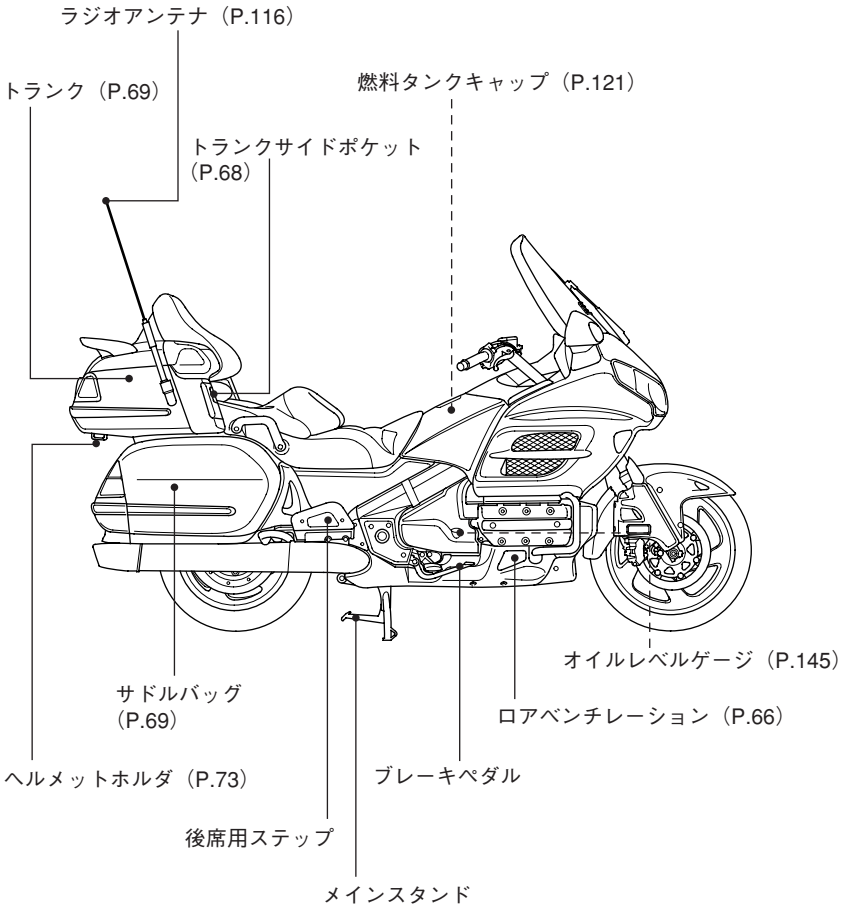
《不適切な取扱いの例》

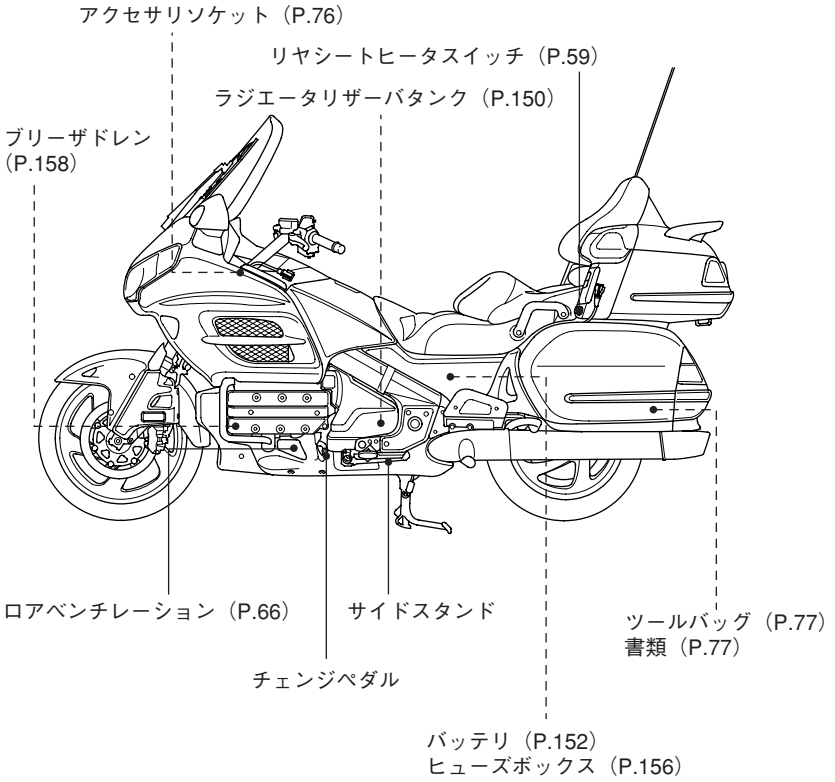
- 走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
- エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので 次のことをお守りください。

- 燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
- 定められた点検整備を実施してください。
- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

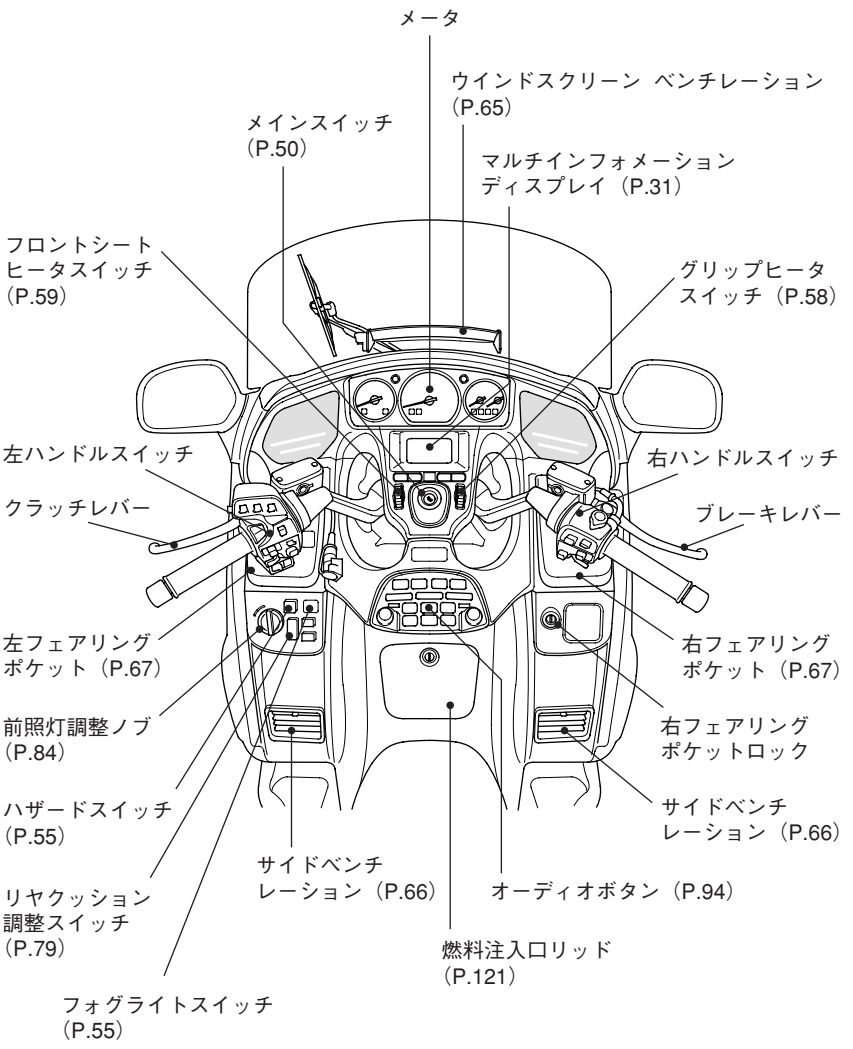
各部の名称


ラジオアンテナ（P.116）
トランク（P.69）
燃料タンクキャップ（P.121）
トランクサイドポケット
（P.68）
オイルレベルゲージ（P.145）
サドルバッグ
（P.69）
ロアベンチレーション（P.66）
ヘルメットホルダ（P.73）
ブレーキペダル
後席用ステップ
メインスタンド

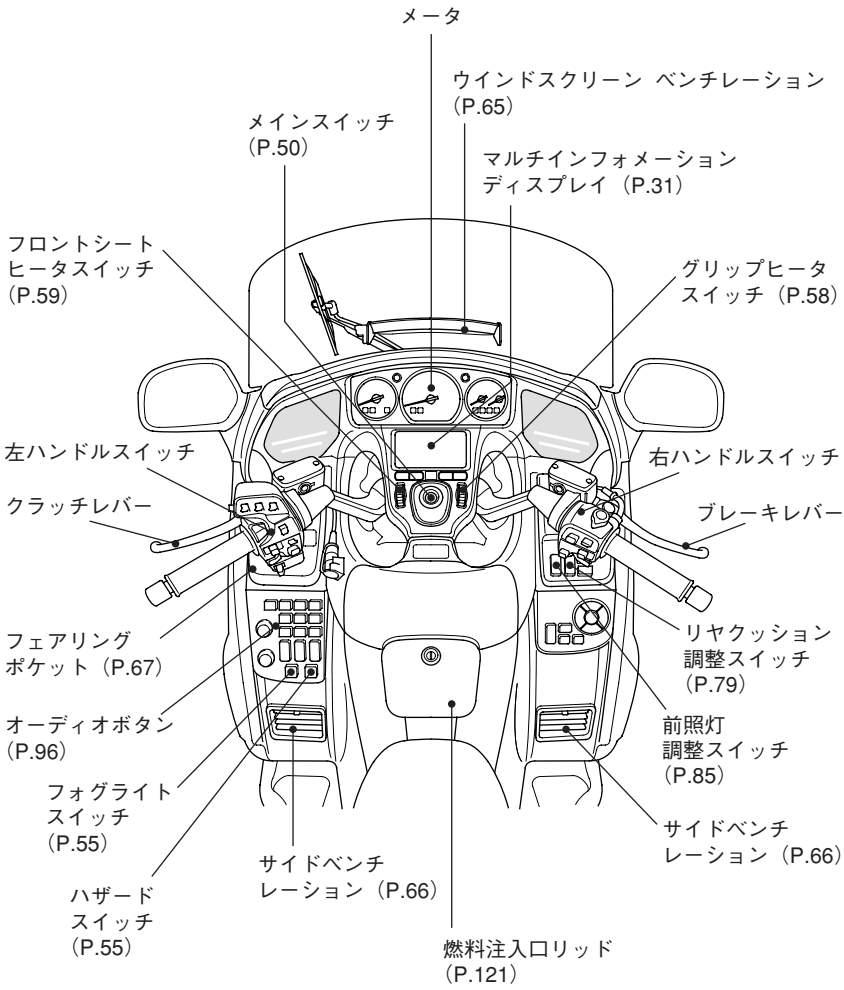

アクセサリソケット（P.76）
リヤシートヒータスイッチ（P.59）
ラジエータリザーバタンク（P.150）
ブリーザドレン
（P.158）
ロアベンチレーション（P.66）
サイドスタンド
ツールバッグ（P.77）
書類（P.77）
チェンジペダル
バッテリ（P.152）
ヒューズボックス（P.156）

各部の名称

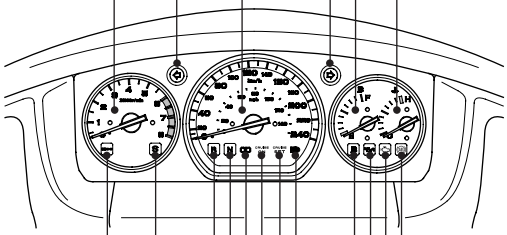
〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉



各部の名称



エンジン回転計（P.23）
（タコメータ）

方向指示器表示灯（P.30）

速度計（P.23）
（スピードメータ）

方向指示器表示灯（P.30）

燃料計（P.24）

水温計（P.24）

アンチロックブレーキシステム
（ABS）警告灯（P.26）

PGM-FI 警告灯（P.26）

油圧警告灯（P.25）

燃料残量警告灯（P.27）

前照灯上向き表示灯
（ハイビームパイロットランプ）
（P.29）

自動定速走行装置
セット表示灯（P.29）

自動定速走行装置
マスタスイッチ表示灯（P.29）

オーバードライブ表示灯
（P.30）

ニュートラル表示灯（P.30）

リバース（後退）表示灯
（P.30）

サイドスタンド表示灯（P.28）

イモビライザーシステム（HISS）
表示灯（P.28）

連動ブレーキシステム

連動ブレーキシステム

この車は、連動ブレーキシステム（Dual Combined Brake System）を装備しています。

- ブレーキレバーを操作すると、前輪ブレーキが作動すると共に後輪ブレーキが作動します。
- ブレーキペダルを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動します。

なお、ブレーキレバーのみを操作した場合とブレーキペダルのみを操作した場合では、制動力の前輪と後輪への配分比率が異なるため、ブレーキの効き具合に違いがあります。

ブレーキは、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使いましょう。
制動力を効果的に得るためには、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使う必要があります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステム (ABS)は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる“車輪ロック”を制御する装置です。

ブレーキを操作したとき、ブレーキレバーやブレーキペダルに反動が生じることがあります。
これは、ABSが作動しているときの現象で異状ではありません。そのまま、ブレーキ操作を続けてください。

知 識

- この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 車両を確実に停止させるため、低速（約10 km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- ABS作動時の反動の強さは、ブレーキを操作する力や、路面の状況によって異なります。
- タイヤは必ず前後輪とも指定タイヤをお使いください。サイズ（外径）の異なるタイヤを使用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

メータの見かた、使いかた

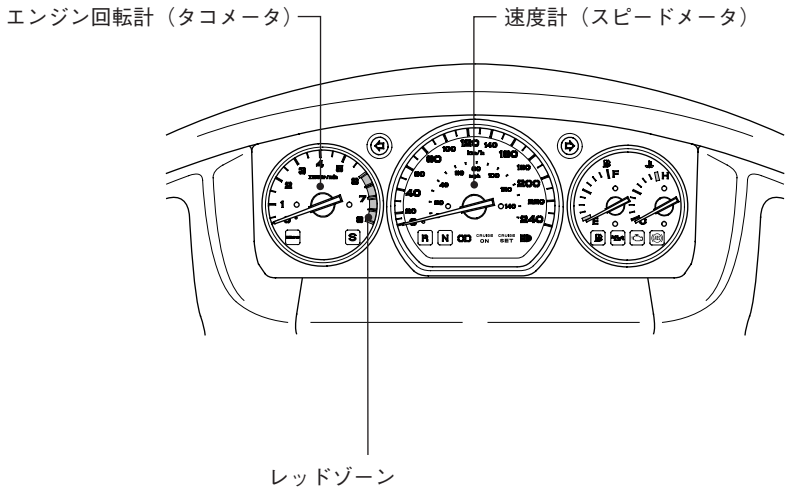
計器類

速度計（スピードメータ）
走行中の速度を示します。目盛はkm/hとmphで併記してあり、km/hは外側の目盛りで表示しています。法定速度を守り安全走行してください。

エンジン回転計（タコメータ）
エンジンの回転数を示します。
エンジン回転数がレッドゾーンに入らないようにしてください。

アドバイス

- 空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。
  レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものです。レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジンがこわれます。



メータの見かた、使いかた

燃料計

燃料計の指針は、燃料タンク内のガソリンの量を示します。
ガソリンが減ってくると、指針は“F”から“E”に移動します。
サイドスタンド状態では正確な表示はしません。
ガソリンの量を確認するときは車体を垂直にして行ってください。
指針が赤マークに入ったら早めにガソリンを補給してください。
このときの燃料残量：約 **3.0** ℓ

水温計

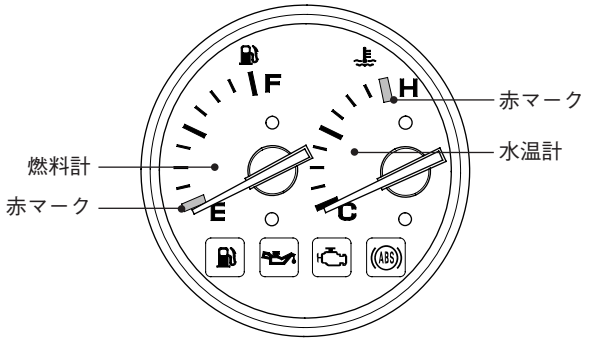
エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は、指針が目盛の赤マークより低温側にあるのが正常です。
指針が赤マークを指した場合、オーバーヒートのおそれがあります。
ただちに安全な場所に停車してください。
処置手順は、180 ページ参照。

アドバイス

- 指針が赤マークを指したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

知 識

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。



警告灯・表示灯

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店にご相談ください。

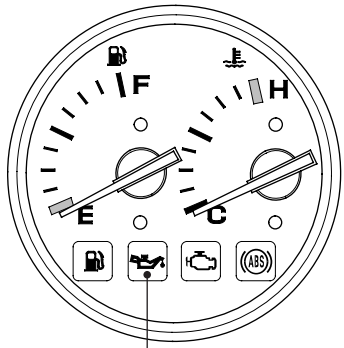
エンジンオイル量の点検は、145 ページ参照。

アドバイス

- 油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

知 識

- 油圧警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると同時に消灯するのが正常です。



PGM-FI 警告灯

エンジンストップスイッチが“ ”（RUN）、メインスイッチがONのときPGM-FIシステムに異常があると点灯します。
警告灯が点灯した場合は高速走行を避け、ただちにHonda販売店にご相談ください。

知 識

- PGM-FI警告灯はエンジンストップスイッチを“ ”（RUN）、メインスイッチをONにすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 警告灯

ABS警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、走行（車速約10 km/h以上）すると消えるのが正常です。

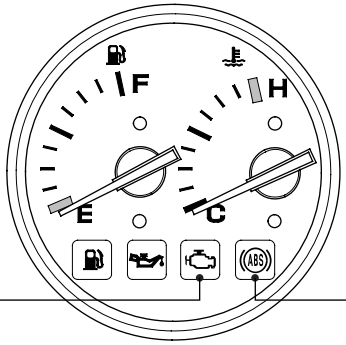
警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき。
- メインスイッチを“ON”にしても点灯しないとき。
- 10 km/h以上で走行しても消灯しないとき。

なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）

知 識

- ABS警告灯が消灯した状態でメインスタンドを立てるなどして後輪を高速で約30秒回転させた場合、点滅する場合があります。この場合一度メインスイッチを“OFF”にし、再度メインスイッチを“ON”にし警告灯が点灯し、10 km/h以上の速度で走行したあとに消灯すれば正常です。



PGM-FI 警告灯

アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯

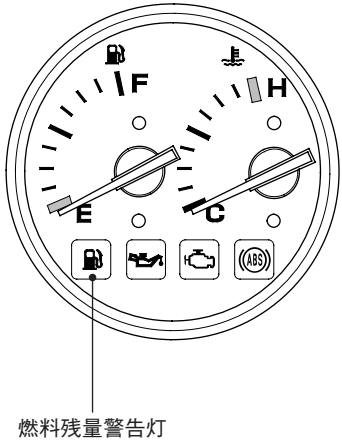
燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリンが少なくなると点灯します。燃料残量警告灯が点灯したときは、早めにガソリンを補給してください。

燃料残量警告灯が点灯したときの燃料有効残量：約 **4.4 ℓ**

知 識

- 燃料残量警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。



イモビライザーシステム (HISS) 表示灯

エンジンストップスイッチが “ ” (RUN) の状態でメインスイッチを “ON” にすると、イモビライザーシステム (HISS) の作動により表示灯が点灯し、数秒後に消灯することで、エンジンの始動が可能であることを示します。
消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”にし、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを“ON”にしてください。それでも消灯しないときは、62 ページを確認してください。

メインスイッチを “OFF” にしたあと、24 時間の間、2 秒間隔で点滅します。また、この点滅をしないようにすることもできます (61 ページ参照)。

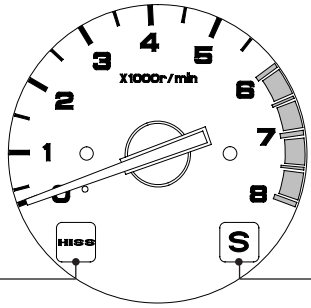
イモビライザーシステム (HISS) については、60 ページを参照してください。

知 識

- エンジンストップスイッチが “ ” (OFF) の位置ではメインスイッチを“ON”にしても、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯は点灯しません。
  エンジンストップスイッチを “ ” (RUN) にしてください。

サイドスタンド表示灯

メインスイッチのキーが “ON” の位置にありサイドスタンドが使用状態のとき点灯します。



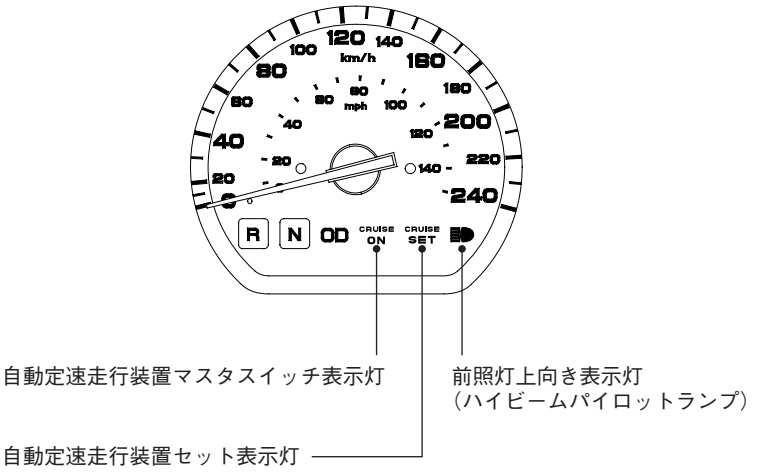
イモビライザーシステム（HISS）表示灯

サイドスタンド表示灯

自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯
自動定速走行装置マスタスイッチを押すと点灯します。
79 ページの“自動定速走行装置”を参照してください。

自動定速装置セット表示灯
自動定速走行しているとき点灯します。
79 ページの“自動定速走行装置”を参照してください。

前照灯上向き表示灯（ハイビームパイロットランプ）
前照灯（ヘッドライト）の照射角が上向きのとき点灯します。



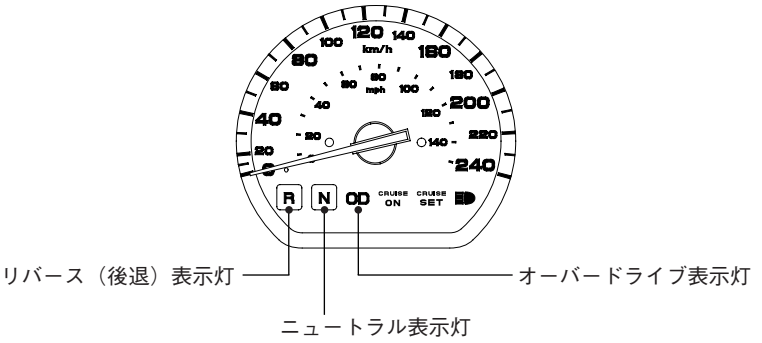
メータの見かた、使いかた

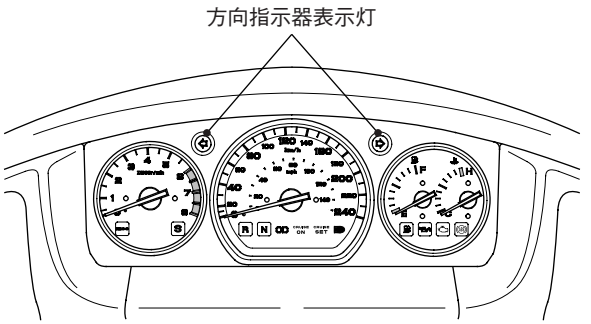
ニュートラル表示灯
メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

リバース（後退）表示灯
リバース (RVS) スイッチが“ON”のとき点灯します。

オーバードライブ表示灯
チェンジがオーバードライブ (OD) の位置にあるとき点灯します。

方向指示器表示灯
方向指示器が点滅しているときに点滅します。非常駐車灯スイッチ（ハザードスイッチ）を使用しているときは、左右の表示灯が同時に点滅します。



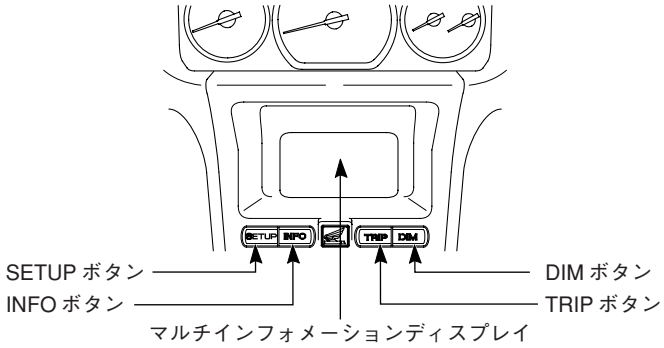


マルチインフォメーションディスプレイ

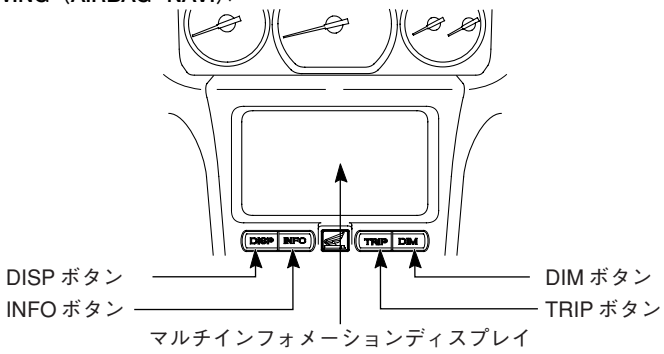
マルチインフォメーションディスプレイは下記機能の表示を行います。操作については各ページを参照してください。

- 昼／夜モード ..... 32 ページ
- イルミネーション ..... 33 ページ
- 時計 ..... 35 ページ
- オープニング／エンディングセレモニー ..... 37 ページ
- 区間距離計（トリップメータ） ..... 44 ページ
- 積算距離計（オドメータ） ..... 44 ページ
- 外気温度計 ..... 45 ページ
- リヤクッション調整レベル表示 ..... 45 ページ
- トランク／サドルバッグ オープンインジケータ ..... 47 ページ
- オーディオシステム ..... 92 ページ

〈GOLD WING〉



〈GOLD WING（AIRBAG・NAVI）〉



[昼／夜モード]

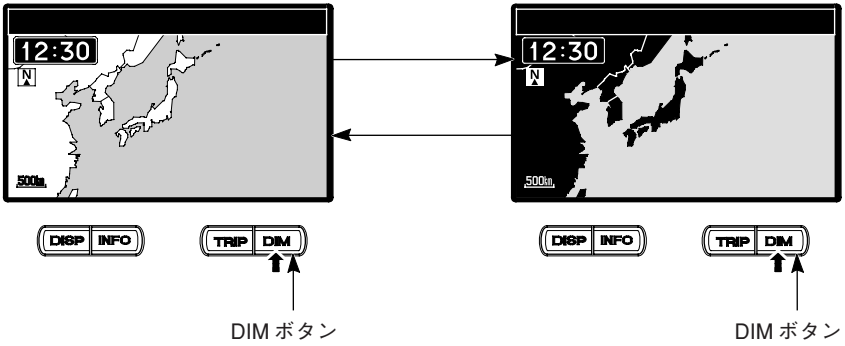
〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

ディスプレイは時間によって自動的に昼／夜モードに切り換わります。またディスプレイが見ずらい場合は任意に切り換える事ができます。

《昼／夜モードの選択》

DIM ボタンを 2 秒以上押します。

詳細はナビゲーションシステム取扱説明書（30MCAT10）をご覧ください。



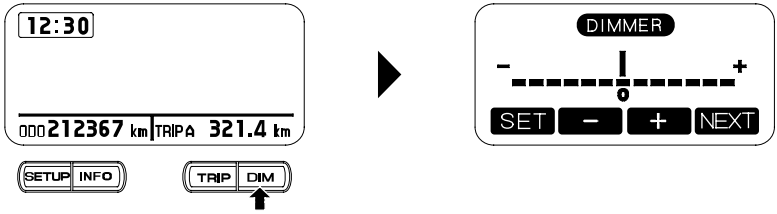
［イルミネーション］

〈GOLDWING〉

ディスプレイの表示の明るさが調整できます。

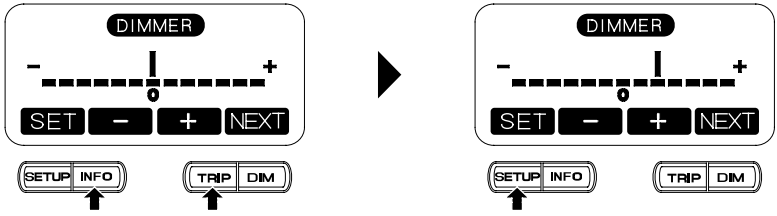
《調整のしかた》

1. メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. DIMボタンを1回押してディスプレイの表示をイルミネーション調整モードにします。



3. TRIPボタンまたはINFOボタンを押して明るさを調整します。
   明るくするとき……TRIPボタン（＋）を押します。
   暗くするとき……INFOボタン（－）を押します。

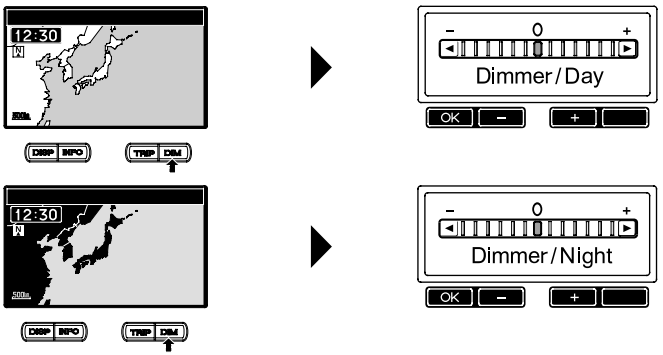
4. お好みの明るさになりましたら、SETUPボタン（SET）を押して設定します。



メータの見かた、使いかた

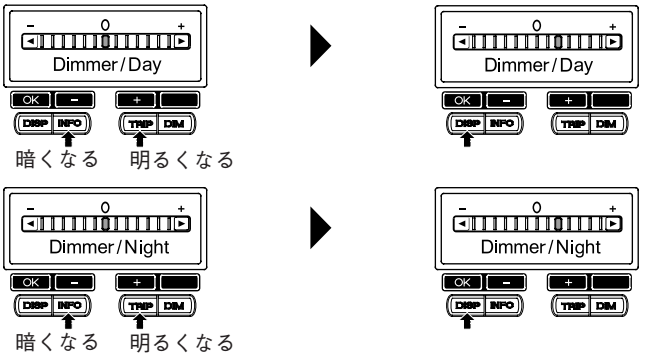
〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉
ディスプレイの表示の明るさを昼／夜モードでそれぞれ調整できます。

《調整のしかた》
1. メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. 調整したいモードを選択します。昼夜モードの選択は32ページを参照してください。
3. DIMボタンを1回押してディスプレイの表示をイルミネーション調整モードにします。



4. TRIPボタンまたはINFOボタンを押して明るさを調整します。
   明るくするとき……TRIPボタン（＋）を押します。
   暗くするとき……INFOボタン（－）を押します。

5. お好みの明るさになりましたら、DISPボタン（OK）を押して設定します。

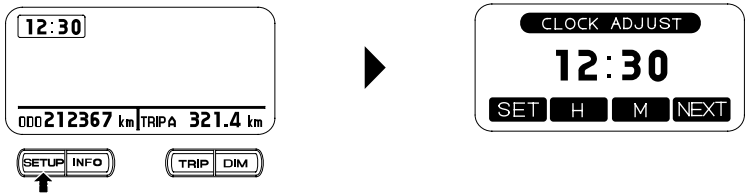


［時計］

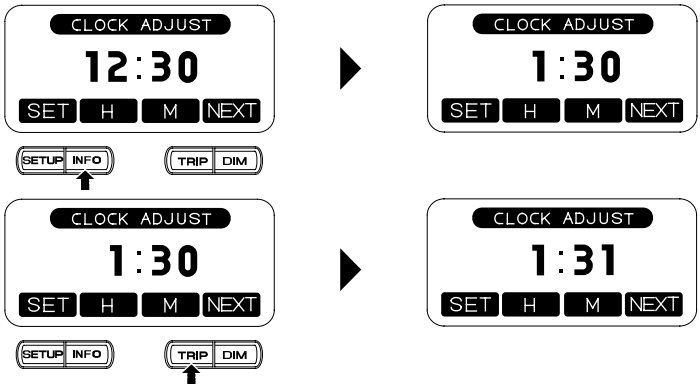
《時計の合わせかた》

〈GOLDWING〉

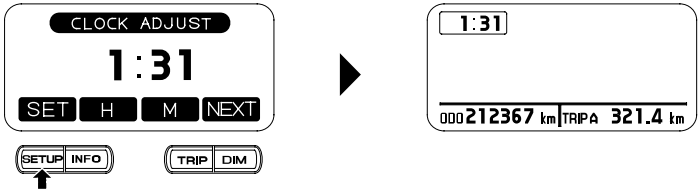
1. メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. SETUPボタンを1回押してディスプレイの表示を時刻合わせのモードにします。



3. INFOボタン（H）を押すと“時”を修正します。
   ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると数字が進みつづけます。ただし数字は12から1へ戻ります。
   TRIPボタン（M）を押すと“分”を修正します。
   ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると数字が進みつづけます。ただし数字は59から00へ戻ります。



4. 時間の設定が完了しましたら、SETUPボタン（SET）を押して設定します。その後画面は通常表示画面に戻ります。



メータの見かた、使いかた

〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉
ナビゲーションシステムがGPSからの信号を受信し自動的に時刻を表示します。また任意に時計を合わせることもできます。詳細はナビゲーションシステム取扱説明書（30MCAT10）をご覧ください。

[オープニング／エンディングセレモニー]

〈GOLDWING〉

オープニング／エンディングセレモニーにはスタンダードモードとスペシャルモードの表示があります。また、セレモニーを表示しない設定もできます。

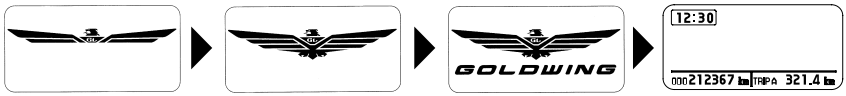
スペシャルモードでは文字や記号を入力することができます。

設定や入力については 40 ページ以降を参照してください。

オープニングセレモニー

メインスイッチのキーを “ON” または “ACC” にするとマルチインフォメーションディスプレイにオープニングセレモニーを表示します。

スタンダードモード

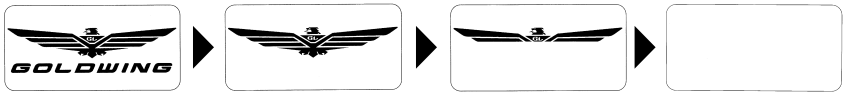


スペシャルモード

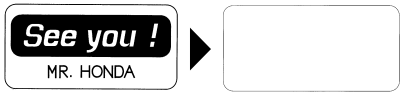
エンディングセレモニー

メインスイッチのキーを “OFF” にするとマルチインフォメーションディスプレイにエンディングセレモニーを表示します。

スタンダードモード



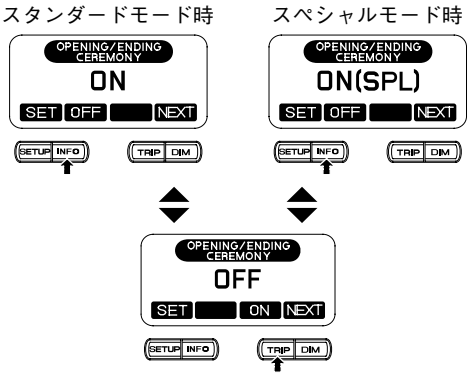
スペシャルモード



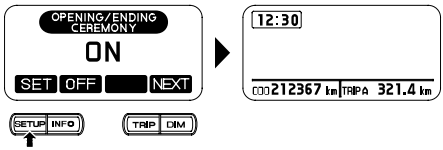
《オープニング／エンディングセレモニー表示設定》

1. メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. 通常表示画面からSETUPボタンを1回押します。
   次にDIMボタン（NEXT）を1回押してディスプレイの表示をセレモニーON/OFF選択モードにします。

3. TRIPボタン（ON）を押すと設定が“ON”になり、INFOボタン（OFF）を押すと設定が“OFF”になります。（スペシャルモードの設定方法については40ページ参照）



4. お好みの設定になりましたら、SETUPボタン（SET）を押して設定します。その後画面は通常表示画面に戻ります。



知 識

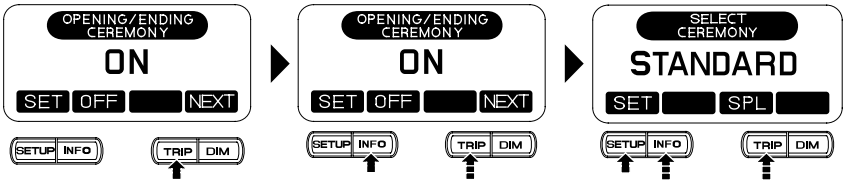
- セレモニーON/OFF選択モードを選択後、約５秒以上操作をしない場合は自動的にモードが解除され、通常表示画面に戻ります。

メータの見かた、使いかた

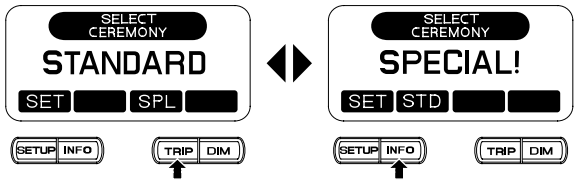
《スタンダード／スペシャルモードの選択》

1. メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”の位置にします。
2. 通常表示画面からSETUPボタンを1回押します。
   次にDIMボタン（NEXT）を1回押してディスプレイの表示をセレモニーON/OFF選択モードにします。
3. 設定がONになっている場合はINFOボタン（OFF）を押して設定をOFFにした後、TRIPボタン（ON）を押して再び設定をONにします。設定がOFFになっている場合はTRIPボタン（ON）を押して設定をONにします。

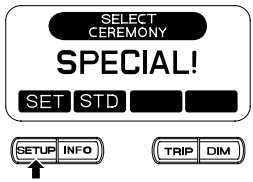
4. TRIPボタンを押しながらINFOボタンを同時に2秒以上押します。その後、TRIP、INFOボタンを押したままでSETUPボタンを1回押すとスタンダード／スペシャル選択モードを表示します。



5. スタンダードモード選択時にTRIPボタン（SPL）を押すとスペシャルモードを選択し、スペシャルモード選択時にINFOボタン（STD）を押すとスタンダードモードを選択します。ボタンを交互に押すたびにSTANDARD⇔SPECIAL!と切り換わります。



6. お好みのセレモニーを選択しましたら、SETUPボタン（SET）を押して設定します。スタンダードを設定した場合は通常表示画面に戻ります。スペシャルを設定した場合は文字入力確認モードが表示されます。（次ページ参照）



知 識

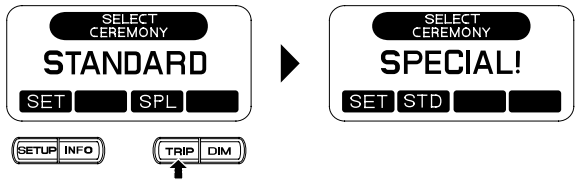
- スタンダード／スペシャルモードを選択後、約5秒以上操作をしない場合は表示が通常表示画面に戻り設定はされません。

《スペシャルモードの文字入力》
文字は、12桁まで入力することができます。

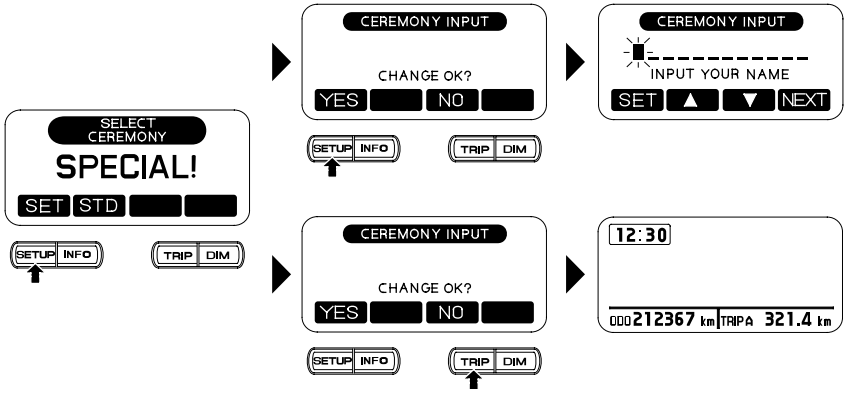
入力文字の種類
●アルファベット大文字
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

●数字・記号
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! ” # $ % & ’ ( ) ＊ + , ー . / ＞ = ＜ ? □(ブランク)

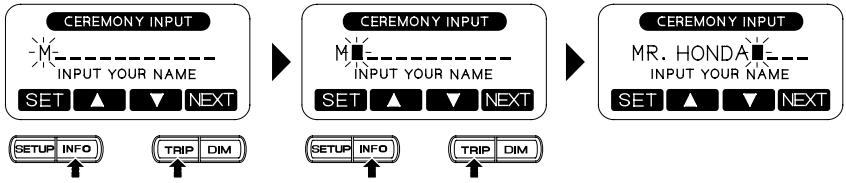
1. スタンダード／スペシャル選択モードを表示させます。(40ページ参照)
2. TRIPボタン（SPL）を押してスペシャルモードを選択します。
スペシャルモードが選択されている場合は3に進みます。



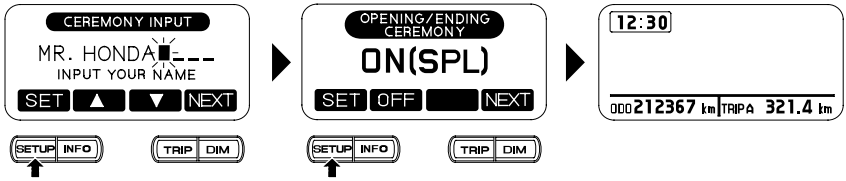
3. SETUPボタン（SET）を押すと文字入力確認モードになります。もし、現在表示されている文字を変更する場合はSETUPボタン（YES）を押して文字入力モードにします。現在の表示している文字を変更しない場合はTRIPボタン（NO）を押し、通常表示画面に戻ります。



4. INFOボタン（▲）とTRIPボタン（▼）を押して入力する文字を選択します。ボタンを1回押すと文字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると文字が進みます。選択中は文字が点滅します。
5. DIMボタン（NEXT）を押すと文字を入力します。入力した文字の点滅が消え、次の文字の入力状態となります。
6. 4,5の手順を繰り返して文字を入力します。文字入力を間違えた場合はDIMボタン（NEXT）を押して変更したい文字を選択し、再度入力操作を行ってください。
   ただし進行方向は右のみで、右端まで進むと次は左端に戻ります。一度入力した文字を消すときは、□（ブランク）を入力してください。



7. 文字入力が完了し、SETUPボタン（SET）を押して文字を登録すると、ディスプレイの表示がセレモニーON/OFF選択モードになります。SETUPボタン（SET）を押すと通常表示画面に戻ります。



知 識

- スタンダード／スペシャルモードを選択後、約5秒以上操作をしない場合は表示が通常表示画面に戻り設定はされません。

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

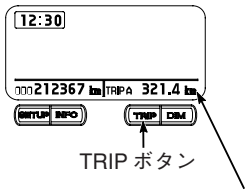
オープニング／エンディングセレモニーの設定についてはナビゲーションシステム取扱説明書（30MCAT10）をご覧ください。

メータの見かた、使いかた

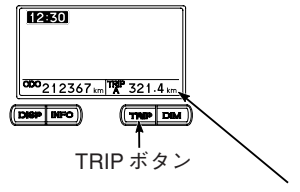
[区間距離計（トリップメータ）]

メータをリセット（“0”に戻す）した時点からの走行距離を示します。区間距離計（トリップメータ）には“TRIP A”、“TRIP B”モードがあります。

〈GOLDWING〉

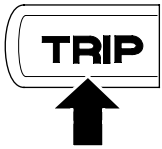


〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



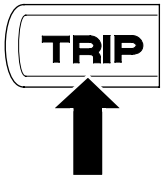
表示の切換え

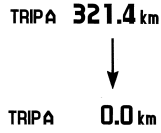
TRIP ボタンを押すごとに表示が下図のようにかわります。



区間距離計のリセット

“TRIP A”または“TRIP B”の状態でTRIPボタンを２秒以上押し続けます。リセットのときは表示されているほうだけ（例えば“TRIP A”が表示されていれば“TRIP A”だけ）がリセットされます。

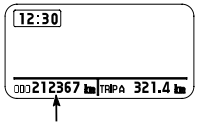




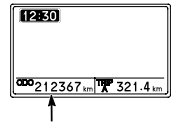
[積算距離計（オドメータ）]

走行した距離を km の単位で示します。

〈GOLDWING〉



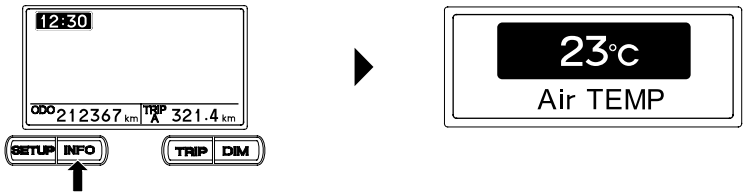
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



[外気温度計]
INFO ボタンを押すと外気温度計を表示します。
〈GOLDWING〉
外気温は－ 10℃から表示が始まり 50℃まで表示します。
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉
外気温は－ 10℃から表示が始まり 70℃まで表示します。

〈GOLDWING〉

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

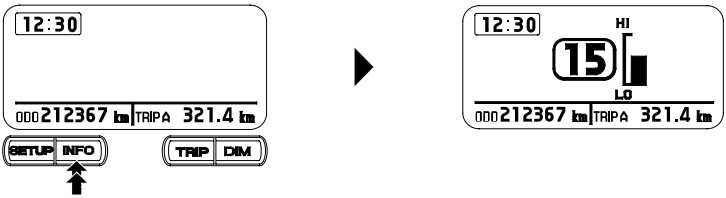


知 識

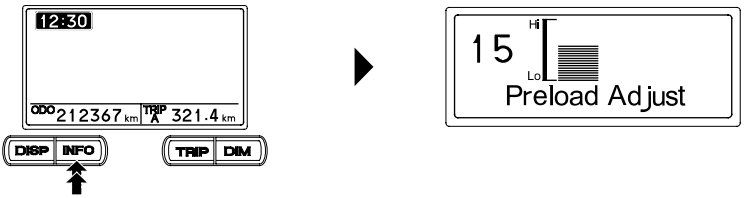
- 路面からの熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中（約 30 km/h 以下）などでは正しい外気温を表示しないことがあります。

[リヤクッション調整レベル表示]
INFO ボタン 2 回押すとリヤクッションの調整レベルを表示します。
リヤクッションの調整については 79 ページを参照してください。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

［前照灯（ヘッドライト）の光軸調整レベル表示］

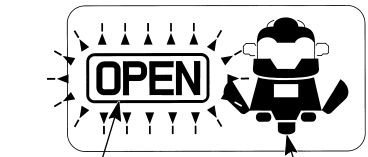
INFOボタン3回押すと前照灯（ヘッドライト）の光軸調整レベルを表示します。

前照灯（ヘッドライト）の光軸調整については85ページを参照してください。

［トランク／サドルバッグ オープンインジケータ］
メインスイッチが“ON”のとき、トランクおよび左右のサドルバッグが完全に閉まっていないと、OPENの点滅とともに閉じていない場所を表示します。
トランクおよびサドルバッグが完全に閉じると通常表示に戻ります。

安全運転のために走行する前にトランク／サドルバッグ オープンインジケータが表示していないか確認してください。

〈GOLDWING〉



オープンインジケータ
オープン場所表示

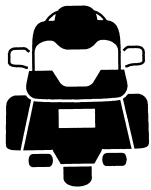
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

オープンインジケータ
オープン場所表示

左サドルバッグオープン時

右サドルバッグオープン時

トランクオープン時



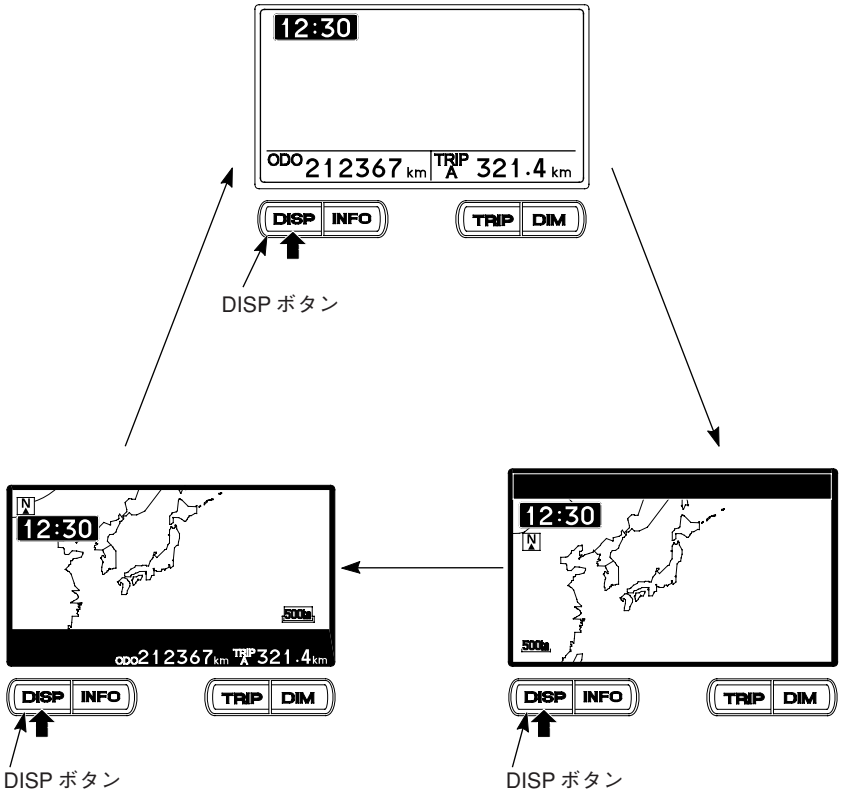
すべてオープン時

メータの見かた、使いかた

〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI)〉

［通常画面の表示切換］

DISP ボタンを押すごとに表示が下図のようにかわります。

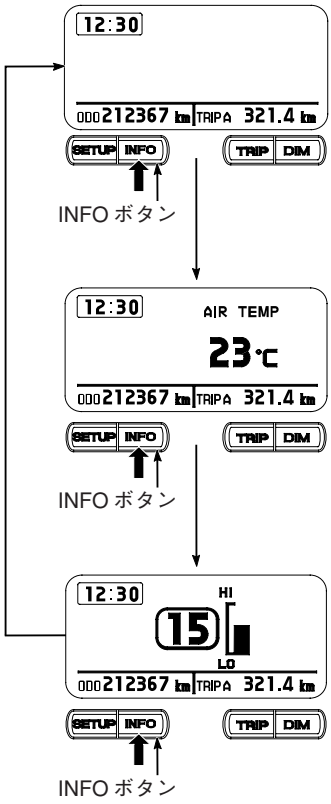


［情報画面の表示切換］

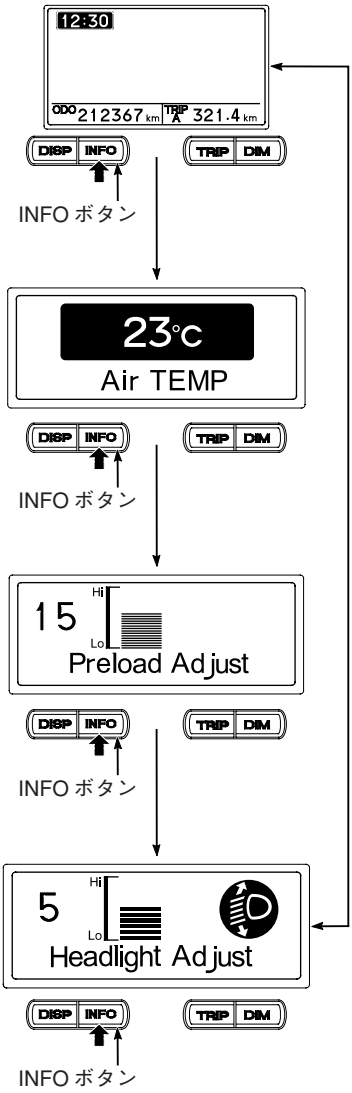
INFO ボタンを押すとディスプレイの表示が下図のようにかわります。

ボタンを操作しないまま約５秒経過するとディスプレイは自動的に元の画面に戻ります。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



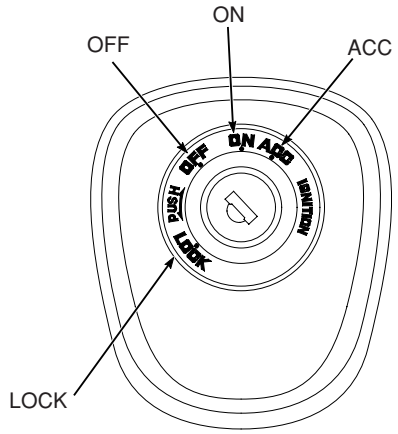
スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作　　用	キーの脱着
ACC	● オーディオシステムが使える ● エンジン始動はできない ● 非常駐車灯（ハザードスイッチ）が使える ● リヤクッションの調整ができる	抜けない
ON	● 前照灯（ヘッドライト）などが常時点灯する ● 全てのライト類が使える ● オーディオシステムが使える ● エンジンが始動ができる ● 非常駐車灯（ハザードスイッチ）が使える ● リヤクッションの調整ができる	抜けない
OFF	● 電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	● ハンドルロックができる ● 電気回路を全部遮断する	抜ける

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



アドバイス

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯（ヘッドライト）が常時点灯します。“ON”（エンジン停止）または長時間“ACC”の状態にしておくと、バッテリあがりの原因となります。

知 識

- 車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

スイッチの使いかた

エンジンストップスイッチ

エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。
通常は “ ” (RUN) の位置にしておいてください。“ ” (OFF) の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にエンジンストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。

スタータ／リバース（後退）スイッチ

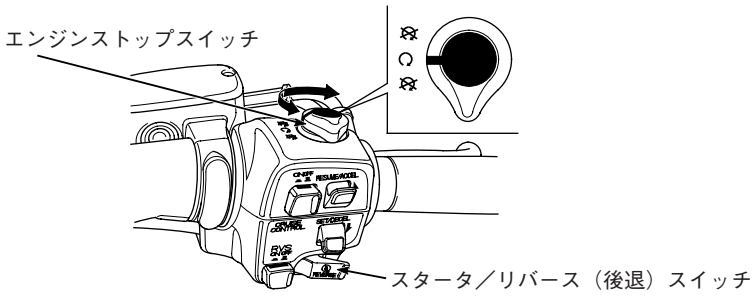
スイッチを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。

アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリがあがるおそれがあります。

知 識

- スタータモータ作動時はヘッドライトが消灯します。



前照灯上下切換えスイッチ(ヘッドライト上下切換えスイッチ)

《前照灯（ヘッドライト）の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

≡○……前照灯（ヘッドライト）が上向き

≡○……前照灯（ヘッドライト）が下向き

昼間はヘッドライトを下向き（ロービーム）にしましょう。

パッシングライトスイッチ

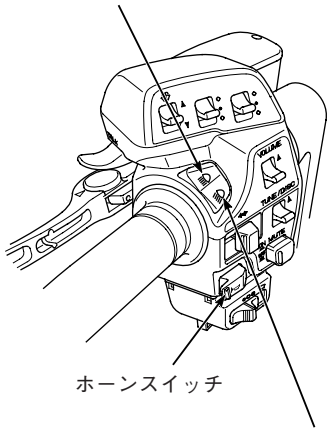
追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

前照灯上下切換えスイッチが下向きのときスイッチの下側を押して行います。

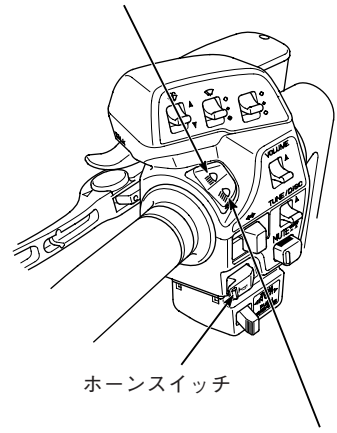
ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを右または、左に動かすと、方向指示器が作動します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

⇨ ……右折

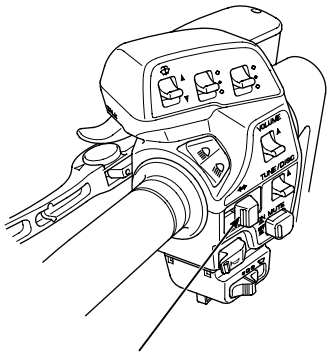
⇦ ……左折

右左折後ハンドルが直進状態になると方向指示器は自動的に解除されます。進路変更などハンドル操作角が少ない場合、方向指示器は約 7 秒後または約 120 m 走行後、自動的に解除されます。

知 識

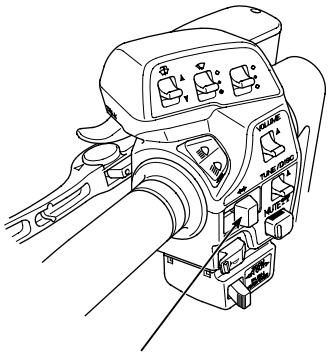
- 自動解除装置は走行状態で働く機構になっているため、停止状態では作動しません。
- 電球（バルブ）は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

〈GOLDWING〉



方向指示器スイッチ

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



方向指示器スイッチ

非常駐車灯スイッチ（ハザードスイッチ）

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。
故障等で、やむを得ず路上に駐車するときに使用します。非常時のみ使用してください。

《使いかた》
メインスイッチのキーを“ON”または“ACC”にして非常駐車灯スイッチ（ハザードスイッチ）を押します。
解除は、非常駐車灯スイッチをもう一度押して行います。

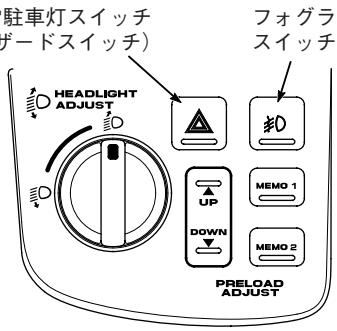
知 識

- 完全充電のバッテリでも約20分以上使用するとバッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- 非常駐車灯を使用した後は、必ずスイッチを解除してください。解除しないと方向指示器は作動しません。

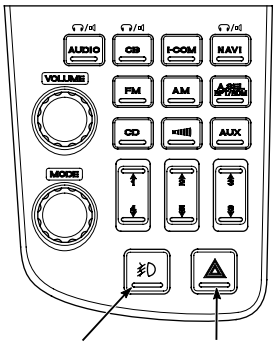
フォグライトスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、フォグライトスイッチを押すとフォグライトが点灯します。
消灯はフォグライトスイッチをもう一度押します。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



スイッチの使いかた

ウォッシャスイッチ／ワイパスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき使えます。

ウォッシャスイッチ

スイッチを上または下に押すとウォッシャ液が噴射し、ワイパが１～２回作動します。

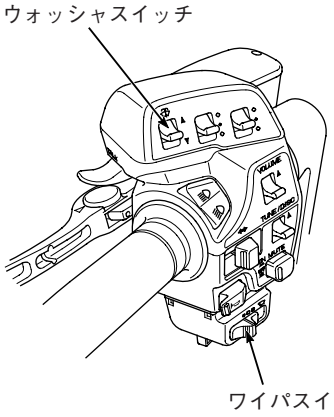
ワイパスイッチ

スイッチの位置	ワイパの作動
● (OFF)	停止
○	間欠作動
●	連続作動

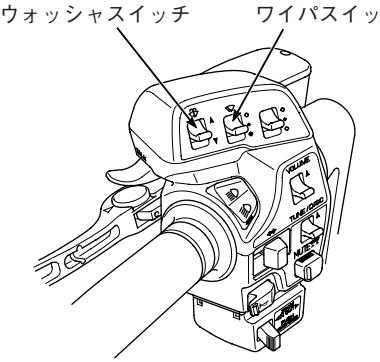
知 識

- ワイパを止めるときはメインスイッチが“ON”のままワイパスイッチを● (OFF) にしてください。また、ウォッシャスイッチ・ワイパスイッチを切るタイミングにより、ワイパの停止位置が少しずれることがあります。この場合、もう一度ワイパを動かし、タイミングを変えてスイッチを● (OFF) にしてください。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI)〉



ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目をお守りください。

- ウォッシャ液を噴射してからワイパを作動してください。空ぶきはウインドスクリーンに傷をつけたり、ワイパを傷めたりします。
- ウォッシャ液が出ないときには、ウォッシャスイッチを切ってください。ウォッシャ液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。なお、空ぶきを避けるため、早めにウォッシャ液を補給してください。
- 噴射されたウォッシャ液が走行条件により飛散し、衣服などを汚すおそれがあります。
- ウインドスクリーンに泥や虫などが固着している場合は、ウォッシャスイッチ・ワイパスイッチを使用しないでください。固着物がウインドスクリーンを傷つけます。スイッチを使用する前に固着物を水で洗い流してください。
- 寒冷時、ワイパブレード（ゴム部）がウインドスクリーンに張り付くことがあります。ぬるま湯でウインドスクリーンを暖めてからワイパを作動させてください。凍りついたまま動かすとワイパの故障の原因になります。
- ワイパブレード（ゴム部）がウインドスクリーンに張り付いた状態やウインドスクリーンに着氷、積雪した状態でワイパを動かすと、ワイパブレードを損傷したり、ワイパモータの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。

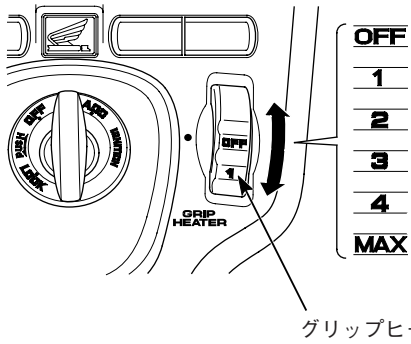
スイッチの使いかた

グリップヒータスイッチ

この車には気温の低い時期に運転する場合に、手元を暖めることができるグリップヒータが装備されています。

グリップの温度は外気温によって変化します。暖かい日に高めの温度設定のまま放置することは避けてください。
また、使用するときは手袋を着用してください。

《使いかた》
エンジンを始動して、グリップヒータスイッチを回します。スイッチを回すことで、グリップヒータのON/OFFや設定温度を変えることができます。“1”から“MAX”の5段階になっていますので気温に合わせて使い分けてください。
使用しないときは“OFF”になっていることを確かめてください。



- 走行中はグリップヒータスイッチの操作は行わないでください。

アドバイス
- アイドリング状態での長時間の使用は避けてください。バッテリあがりの原因になります。

シートヒータスイッチ

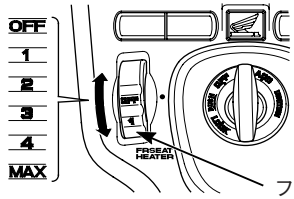
この車には気温の低い時期に運転する場合に、運転者と同乗者のシートを暖めることができるシートヒータが装備されています。

シートヒータの温度は外気温によって変化します。暖かい日に高めの温度設定のまま放置することは避けてください。

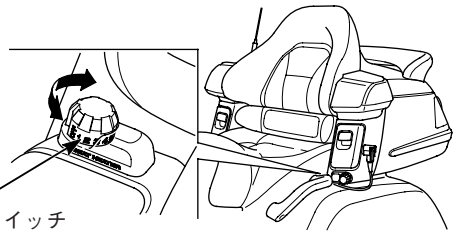
《使いかた》

エンジンを始動して、シートヒータスイッチを回します。スイッチを回すことで、シートヒータのON/OFFや設定温度を変えることができます。“1”から“MAX”の5段階になっていますので気温に合わせて使い分けてください。

使用しないときは“OFF”になっていることを確かめてください。



フロントシートヒータスイッチ



リヤシートヒータスイッチ

- 走行中はシートヒータスイッチの操作は行わないでください。
- シートが破れている状態での使用は、ヤケドの原因になります。

アドバイス

- アイドリング状態での長時間の使用は避けてください。バッテリあがりの原因になります。
- シートに重たい荷物などを置かないでください。シートに強い圧力をかけるとシートヒータの故障の原因になります。

装備の使いかた

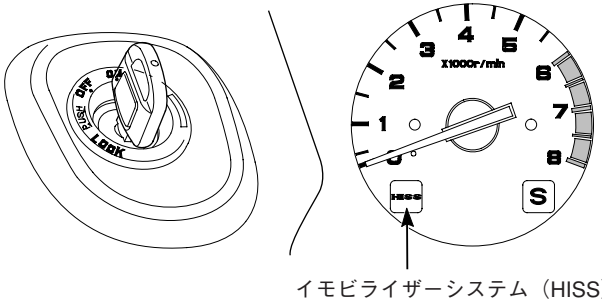
イモビライザーシステム (HISS)

この車はイモビライザーシステム (HISS) を装備しています。
イモビライザーシステム (HISS) はメインスイッチを“ON”にしたとき、キーとメインスイッチの間で微弱な電波を使用して通信を行い、電子照合によって、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

エンジンストップスイッチが “ ”(RUN) の状態でメインスイッチを“ON”にすると、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。
消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

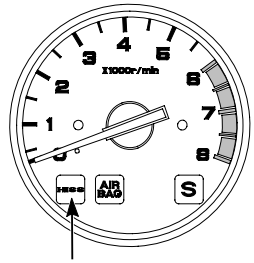
もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”にし、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを“ON”にしてください。それでも消灯しないときは、62 ページを確認してください。

〈GOLDWING〉



イモビライザーシステム（HISS）表示灯

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



イモビライザーシステム（HISS）表示灯

イモビライザーシステム（HISS）表示灯の点滅

イモビライザーシステム（HISS）表示灯は、メインスイッチをOFFにしたあと、2秒間隔で点滅し、点滅開始から24時間が経過すると自動的に点滅は止まります。

また、メインスイッチをOFFにする前に、以下の操作を行うことで、点滅／非点滅の切り換えができます。

1. メインスイッチのキーをONまたはACCの位置にします。
2. 〈GOLDWING〉INFOボタンを2秒以上押し続けます。このとき、点滅→非点滅に切り換える時は表示灯が二度点滅し、非点滅→点滅に切り換える時は表示灯が約2秒点灯します。
   〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉オーディオ画面または警告画面のときにDISPボタンを2秒以上押し続けます。このとき、点滅→非点滅に切り換える時は表示灯が二度点滅し、非点滅→点滅に切り換える時は表示灯が約2秒点灯します。
3. メインスイッチのキーをOFFにします。

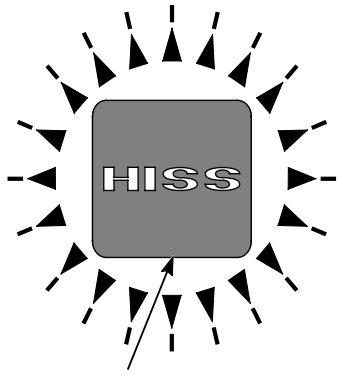
バッテリを取外すと、点滅機能の設定は“点滅する”になります。

知 識

- メインスイッチがOFFのとき、イモビライザーシステム（HISS）表示灯が点滅していなくても、イモビライザーシステム（HISS）は作動しています。

〈GOLDWING〉

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



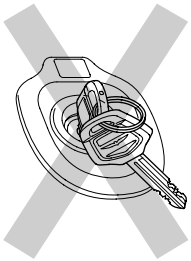
イモビライザーシステム（HISS）表示灯

イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が消灯しないとき

イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が消灯しないときは以下を確認してください。

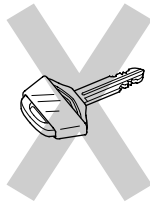
他のイモビライザーシステムのキー (予備のキーを含む) がメインスイッチの近くにある。

- 通信不良の場合があります。
  メインスイッチのキーは、他のイモビライザーシステムのキー (予備のキーを含む) と分けて使用してください。



メインスイッチのキーにシール等を貼っている。

- 通信不良の場合があります。
  金属シール等は、はがしてください。



登録された専用のキーを使用していない。

- 登録された専用のキーを使用しないと、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯は消灯しません。
  登録された専用のキーを使用してください。

壊れたキーを使用している。

- 63 ページを確認してください。
  壊れたキーを使用した場合、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯は消灯しません。
  別の登録された専用のキーを使用してください。

以上のこと以外で、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が消灯しない場合は Honda 販売店にご相談ください。

メインスイッチのキー

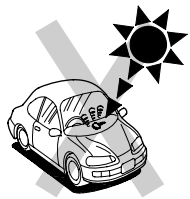
メインスイッチのキーにはイモビライザーシステム (HISS) の電子部品が内蔵されています。取扱いには次のことをお守りください。

キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。

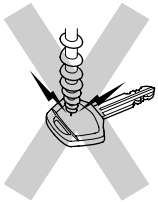
長時間、直射日光にさらしたり、高温下で放置したりしないでください。

- 電子部品のデータ異常の原因となります。



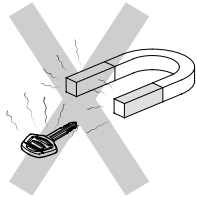
削ったり、穴を開けたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。



強い磁気を帯びた場所に置かないでください。

- 電子部品のデータ異常の原因となります。



メインスイッチのキーを紛失しないようにしてください。

- メインスイッチのキーをすべて紛失した場合、PGM-FI/IGN ユニットの交換が必要になります。
  PGM-FI/IGN ユニットの交換を避けるため、予備のキーを作成することをおすすめします。

予備のキーの作成については、専用のキーおよびイモビライザーシステム (HISS) の再登録が必要になりますので、お買い上げの Honda 販売店へご相談ください。

装備の使いかた

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

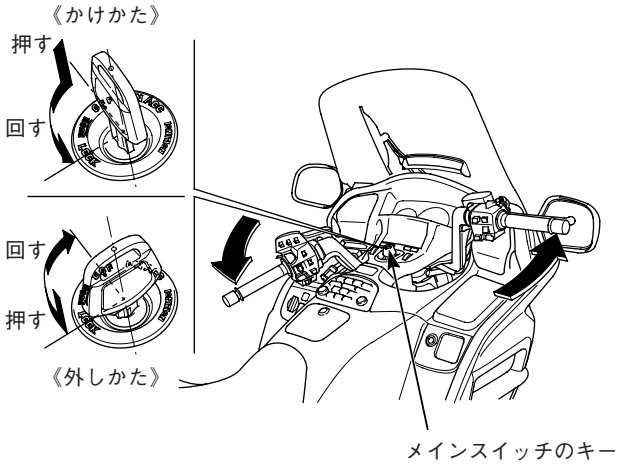
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
   ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. キーを押し込みながら、“OFF”の位置まで回します。

知 識

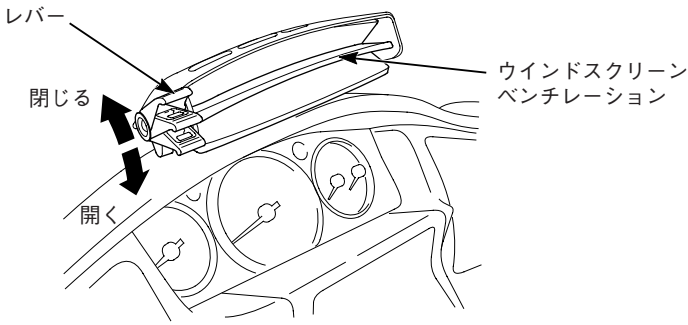
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。



ウインドスクリーン ベンチレーション

ウインドスクリーン ベンチレーションはレバーの操作により５段階に開閉します。
ウインドスクリーン ベンチレーションを開けると、走行中に外気を通します。

安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はレバーの操作は行わないでください。なお、ウォッシャスイッチの作動を必要とする状況では、走行前にウインドスクリーン ベンチレーションをしっかりと閉じてください。ウインドスクリーン ベンチレーションを開いた状態でウォッシャスイッチを操作するとウォッシャ液がかかる場合があります。

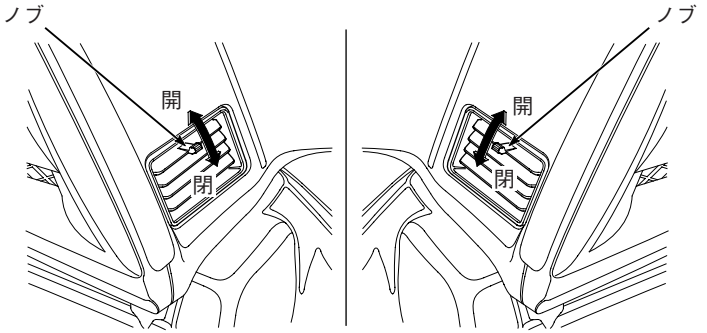


装備の使いかた

サイドベンチレーション

ノブ部を動かすと、サイドベンチレーションが開閉します。サイドベンチレーションを開けると、走行中に外気を通します。

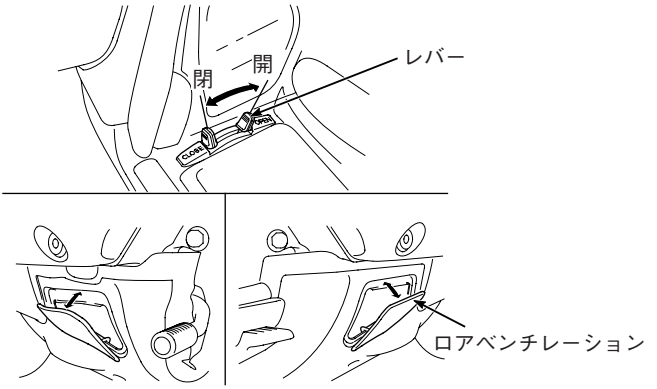
安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はノブの操作は行わないでください。



ロアベンチレーション

レバーを操作すると、左右のロアベンチレーションが開閉します。ロアベンチレーションが開いていると走行中に温風が出ます。

安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はレバーの操作は行わないでください。



フェアリングポケット

フェアリングポケット内への荷物の積載は左右ともに**2.0 kg**以下です。また、荷物は左右均等に積載してください。

走行中にフェアリングポケットの開閉は行わないでください。

右フェアリングポケット

〈GOLDWING〉

《開けかた》

メインスイッチのキーを右フェアリングポケットロックに差し込み、右に回します。

《閉じかた》

カバーを押して閉じます。

左フェアリングポケット

《開けかた》

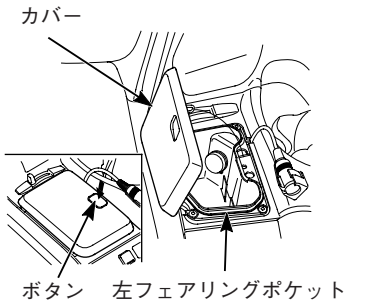
カバーのボタンを押して開けます。

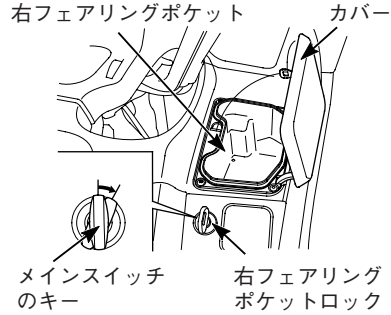
《閉じかた》

カバーを押して閉じます。

知 識

- ガソリンやブレーキオイルなどはフェアリングポケットのカバーに悪影響を与える場合があります。カバーにかからないよう、ご注意ください。
- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。





装備の使いかた

トランクサイドポケット

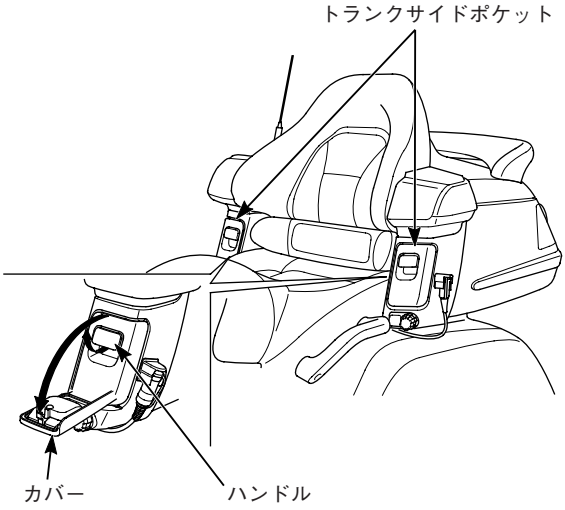
トランクサイドポケット内への積載は、**0.5 kg** 以下です。

《開けかた》
カバーのハンドルを前に引いて開けます。

《閉じかた》
カバーを後方に押して閉じます。

知 識

- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 鋭利なものや堅いものは入れないでください。カバーが開かなくなることがあります。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。



トランク／サドルバッグ

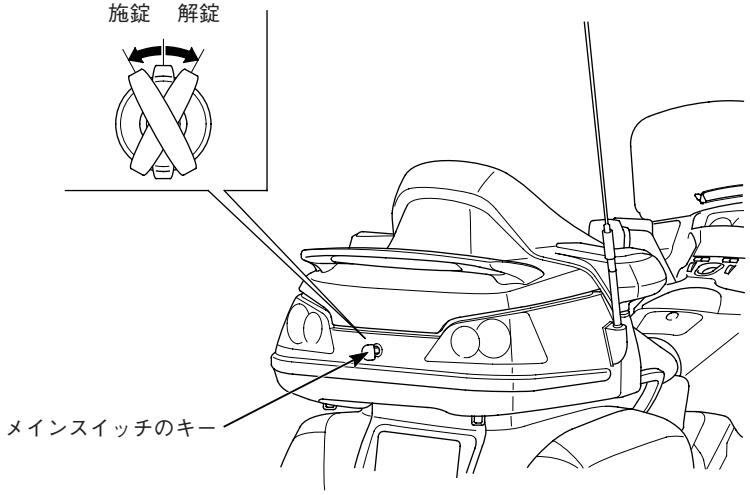
トランク内への荷物の積載は **9.0 kg** 以下です。
サドルバッグ内への荷物の積載は左右ともに **9.0 kg** 以下です。
また、サドルバッグ内への荷物は左右均等に積載してください。

トランク／サドルバッグの施錠・解錠

トランク／サドルバッグの施錠・解錠はメインスイッチのキーまたはキーレスエントリー用発信器で行います。
キーレスエントリーについては 74 ページを参照してください。

《施錠のしかた》
メインスイッチのキーを差し込み、左に回します。

《解錠のしかた》
メインスイッチのキーを差し込み、右に回します。



装備の使いかた

トランク／サドルバッグの開閉

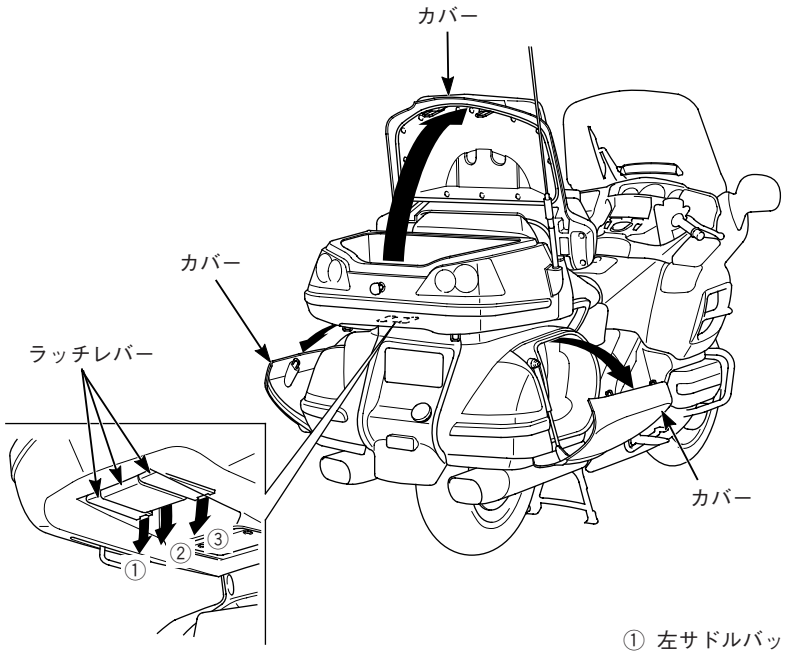
トランク／サドルバッグの開閉はトランク下のラッチレバーで行います。また、トランクはキーレスエントリー用発信器で開けることができます。キーレスエントリーについては 74 ページを参照してください。

《トランクの開けかた》

1. トランクを解錠します。(69 ページ参照)
2. 中央のラッチレバーを引き下げます。
3. トランクのカバーが少し浮き上がった後、カバーを開けます。

《サドルバッグの開けかた》

1. サドルバッグを解錠します。(69 ページ参照)
2. 右または左のラッチレバーを引き下げます。サドルバッグのカバーがゆっくり開きます。



① 左サドルバッグ
② トランク
③ 右サドルバッグ

《トランクの閉めかた》

1. トランクのカバーの後側中央部を手で押してカバーを閉めます。
2. メインスイッチのキーまたはキーレスエントリーの発信器で施錠します。

《サドルバッグの閉めかた》

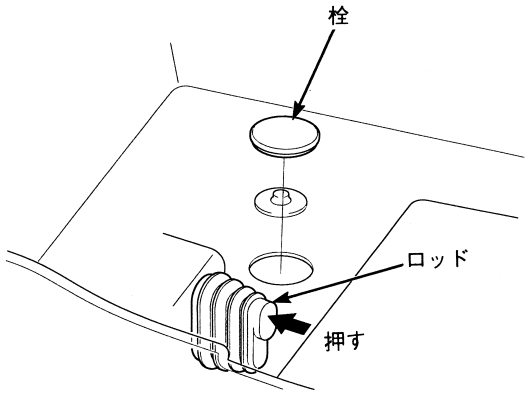
1. サドルバッグのカバーの両側を手で押してカバーを閉めます。
2. メインスイッチのキーまたはキーレスエントリーの発信器で施錠します。

トランク／サドルバッグを閉めたあと、カバーが完全に閉じているか確認してください。

サドルバッグがラッチレバーで開かないとき

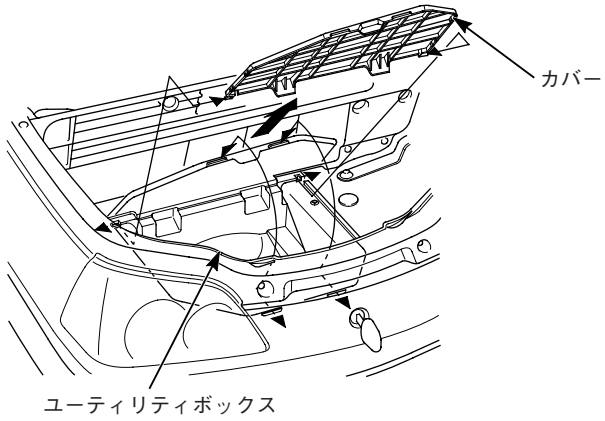
サドルバッグがラッチレバーで開かないときは下記の手順で開けることができます。

1. トランクを開けます。(70 ページ参照)
2. トランクマットをめくり、開かないサドルバッグ側の栓を取外します。
3. ロッドを押してサドルバッグのカバーを開けます。



ユーティリティボックス

トランクの中にユーティリティボックスがあります。カバーを前方に押しながら引き上げると開けることができます。



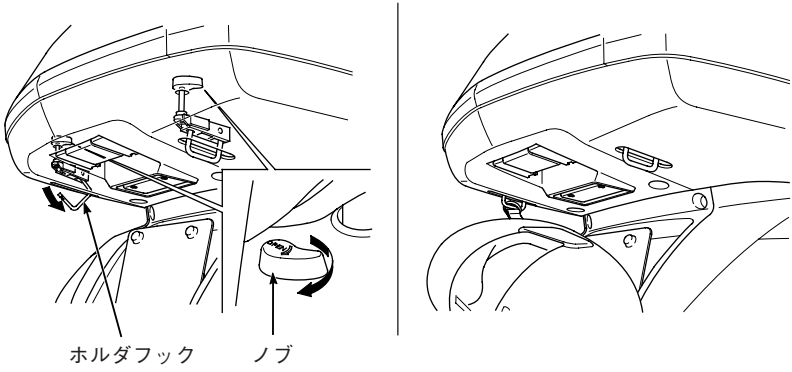
ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。
走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

ヘルメットホルダは、トランクの左右にあり個別に使用できます。

《使いかた》

1. トランクを開けます。
   トランクの開けかたは、70ページを参照してください。
2. トランク内のノブを右に回し、ロックを解除します。
3. ホルダフックにヘルメットの金具をかけます。
4. ホルダフックを押し上げロックします。
5. トランクを閉じ、施錠します。



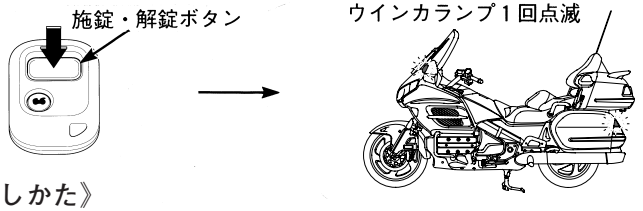
キーレスエントリー

キーレスエントリー用発信器のボタンを押すことでメインスイッチのキーを使わずトランク／サドルバッグの施錠・解錠ができます。また、ラッチレバーを使わずにトランクを開けることができます。

《施錠のしかた》

キーレスエントリー用発信器を車体に向け、発信器の施錠・解除ボタンを押します。

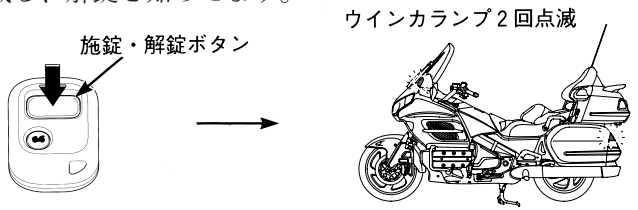
メインスイッチの位置が、“OFF”のとき、すべてのウインカランプが１回点滅し、施錠を知らせます。



《解錠のしかた》

キーレスエントリー用発信器を車体に向け、発信器の施錠・解除ボタンを押します。

メインスイッチの位置が、“OFF”のとき、すべてのウインカランプが２回点滅し、解錠を知らせます。

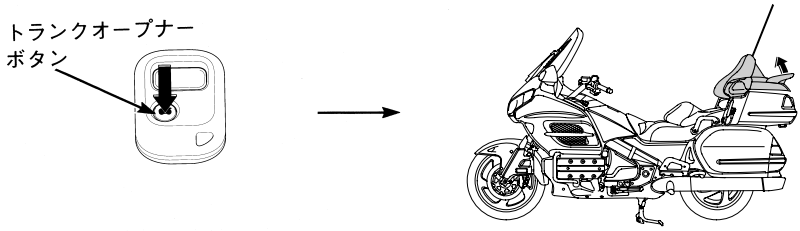


知 識

- トランク／サドルバッグが完全に閉じていないときに施錠動作を行うとすべてのウインカランプが10回点滅し、カバーが開いていることを知らせます。
- キーレスエントリー用発信器で解錠してから約30秒以内にトランク／サドルバッグを開けなかった場合は自動的に再度、施錠されます。
- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。
- 1か月以上使用されなかった場合、リモコンが効かなくなりますので、一度メインスイッチを“ON”にしてから再操作してください。

《トランクの開けかた》

1. キーレスエントリー用発信器を車体に向け、発信器のトランクオープナーボタンを約１秒以上押し続けます。
2. トランクのカバーが少し浮き上がった後、カバーを開けます。



知 識

- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

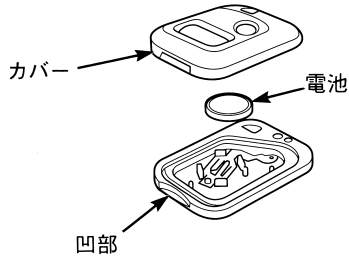
電池の交換

発信器のボタンを押しても作動しなかったり、作動距離が不安定になった場合は電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

使用電池：ボタン電池 CR1616

《交換のしかた》

発信器の凹部に布等を当て、カバーを外し、電池を交換します。

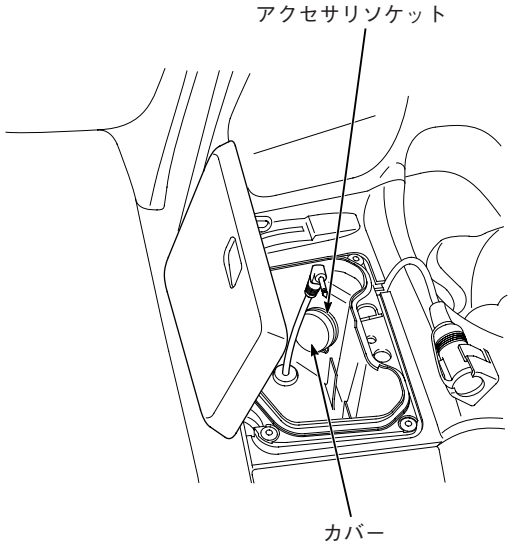


アクセサリソケット

左フェアリングポケット内にアクセサリソケットがあります。
カバーを開けて使用します。
定格36ワット（12ボルト、3アンペア）まで使用できます。

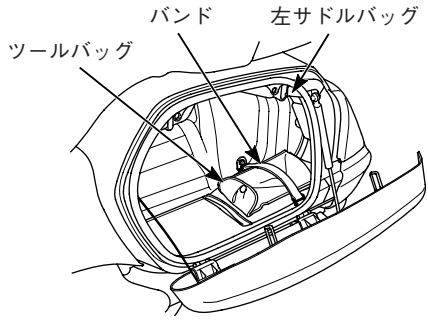
アドバイス

- バッテリあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- ヘッドライトを下向き（≣D）にしてください。上向き（≣D）での使用はバッテリあがりの原因となります。
- シガレットライタは使用しないでください。故障の原因となります。
- アクセサリソケットを使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。



ツールバッグ

ツールバッグは､左サドルバッグの底部にバンドで確実に固定し格納してください。



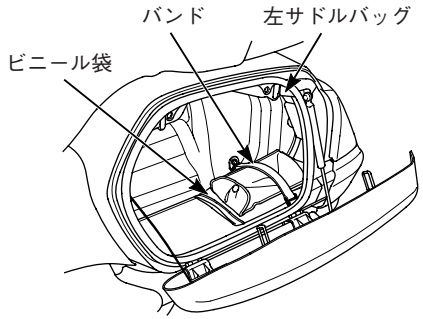
書類

〈GOLDWING〉

GOLDWING取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、左サドルバッグの底部にバンドで確実に固定し格納してください。

〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

GOLDWING取扱説明書、メンテナンスノート、エアバッグシステム取扱説明書、ナビゲーションシステム取扱説明書などは、ビニール袋に入れ、左サドルバッグの底部にバンドで確実に固定し格納してください。



装備の使いかた

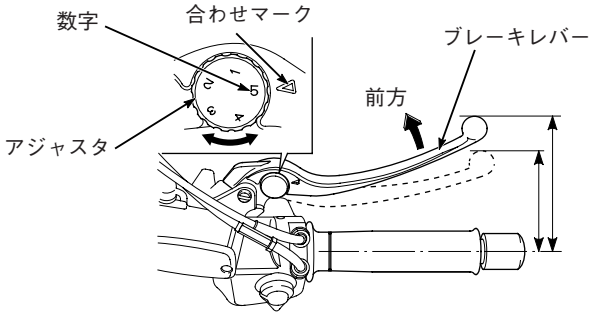
ブレーキレバーの距離調整

この車には、ブレーキレバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスタが装備されています。

《調整のしかた》

ブレーキレバーを前方に押しながら、アジャスタの数字と合わせマークを合わせます。

レバーとグリップの距離は“1”の位置が最大、“5”の位置が最小です。



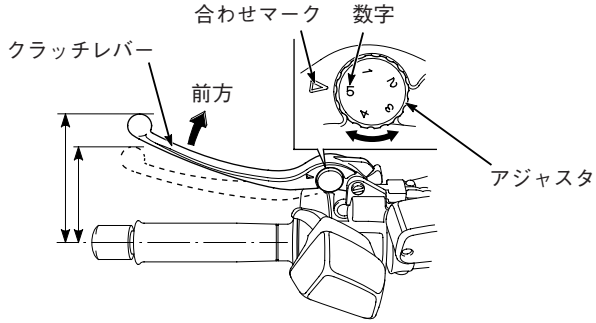
クラッチレバーの距離調整

この車には、クラッチレバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスタが装備されています。

《調整のしかた》

クラッチレバーを前方に押しながら、アジャスタの数字と合わせマークを合わせます。

レバーとグリップの距離は“1”の位置が最大、“5”の位置が最小です。



リヤクッション

この車には電動でスプリングの強さ（プリロード）が調整できるリヤクッションが装備されています。リヤクッションの強さは、0～25段階の範囲で調整できます。
運転者や荷物の重さ、路面の状況に応じて調整してください。

走行中はリヤクッションの調整は行わないでください。

バッテリあがりを防ぐためにリヤクッションを調整するときはオーディオシステムやフォグライトなどの電装装置をすべてOFFにしてください。

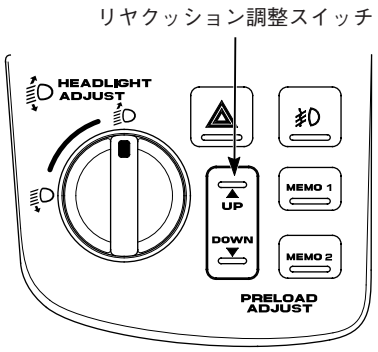
リヤクッション調整

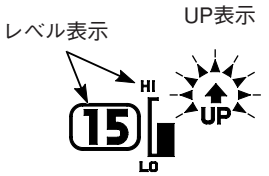
《調整のしかた》

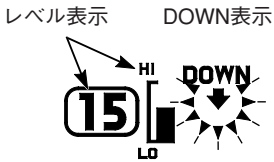
1. 平坦地で足場のしっかりした場所にメインスタンドを立てます。
2. チェンジをニュートラルの位置にします。
3. メインスイッチをONまたはACCの位置にします。
4. リヤクッション調整スイッチのUPまたはDOWNを設定したいレベルまで押し続けます。調整中はディスプレイにUPまたはDOWNの表示と調整レベルを表示します。

クッションスプリングを強くするとき：UPを押す
クッションスプリングを弱くするとき：DOWNを押す
標準レベル　　：0

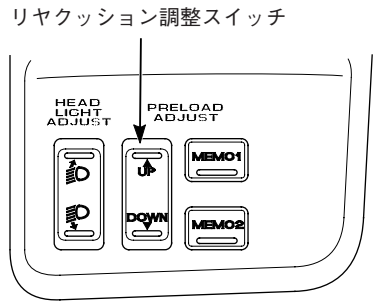
〈GOLDWING〉

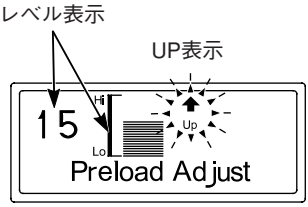


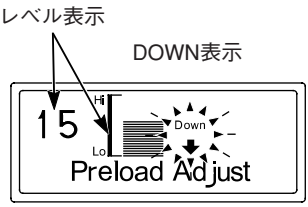




〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉







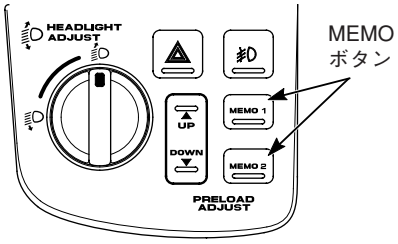
リヤクッションレベルの記憶（メモリー）

調整したリヤクッションのレベルを二つまで記憶することができます。

《記憶操作》

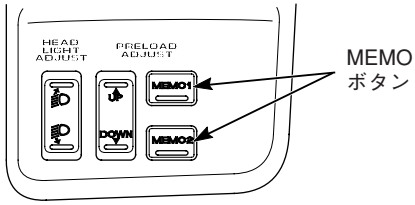
1. リヤクッションを調整します。(80 ページ参照)
2. MEMO ボタン（1 または 2）を押し続けます。
   ディスプレイにSTORE MEMO（1 または 2）の表示が点滅し、記憶が終了して通常画面に戻ります。

〈GOLDWING〉



記憶中

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



記憶中

知 識

- 記憶を変更する場合は記憶操作を繰り返すことで記憶が上書きされます。
- 一度電源が切れた場合（バッテリを外したとき、ヒューズが切れたときなど）記憶が消去されます。

装備の使いかた

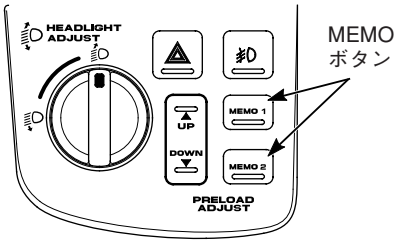
記憶（メモリー）の呼び出し

MEMO ボタン（1 または 2）を押すと記憶したリヤクッションのレベルを呼び出し、自動調整します。

《呼び出しかた》

1. 平坦地で足場のしっかりした場所にメインスタンドを立てます。
2. チェンジをニュートラルの位置にします。
3. メインスイッチを ON または ACC の位置にします。
4. MEMO ボタン（1 または 2）を押します。
5. ディスプレイに CALL MEMO（1 または 2）の表示が点滅し、調整が終了すると MEMO（1 または 2）の表示に変わり、この後 MEMO（1 または 2）は消灯して通常画面に戻ります。

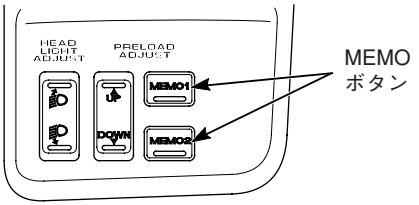
〈GOLDWING〉



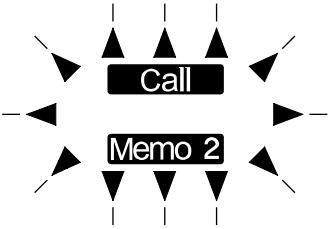
記憶呼び出し、調整中

調整終了

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



記憶呼び出し、調整中

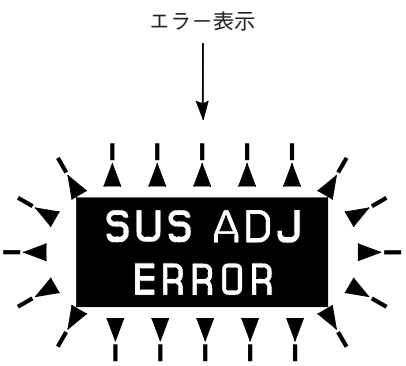


調整終了

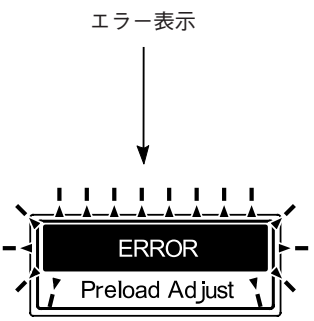
エラー表示

ディスプレイにSUS ADJ ERRORが点滅表示されたときは、Honda販売店にご相談ください。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



前照灯（ヘッドライト）の光軸調整

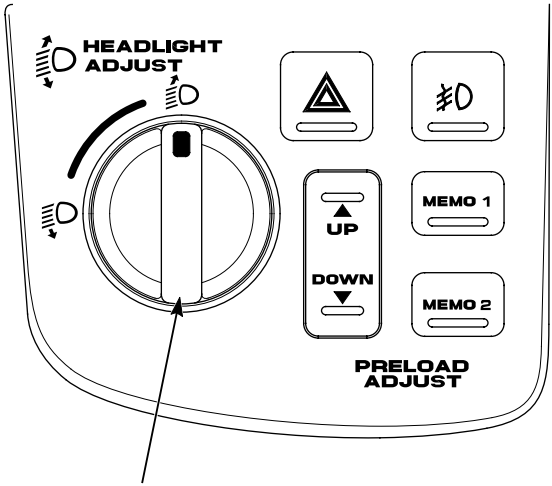
〈GOLDWING〉

この車には前照灯（ヘッドライト）の光軸を手元で上下方向に調整できる機構が装備されています。乗車条件により前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）ノブで調整してください。

走行中は光軸の調整は行わないでください。
光軸の調整はエンジンがかかった状態で行ってください。

《調整》

光軸を上げる：前照灯調整ノブを右に回します。
光軸を下げる：前照灯調整ノブを左に回します。



前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）ノブ

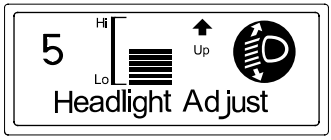
〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI)〉
この車には前照灯（ヘッドライト）の光軸を手元で上下方向に調整できる機構が装備されています。乗車条件により前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）ノブで調整してください。

走行中は光軸の調整は行わないでください。
光軸の調整はエンジンがかかった状態で行ってください。

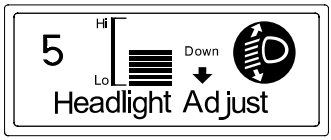
前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）スイッチには、さまざまな乗車条件に対応した11個の設定装置（0 ～ 10）があります。

《調整》
光軸を上げる：前照灯調整スイッチの を押します。
光軸を下げる：前照灯調整スイッチの を押します。
標準レベル　：10

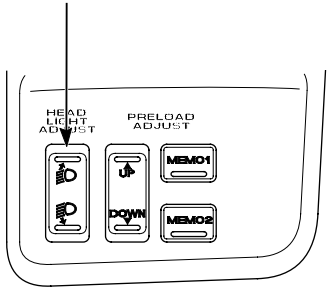
UP表示



DOWN表示



前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）スイッチ



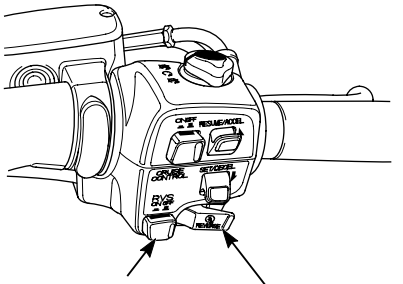
前照灯調整（ヘッドライトアジャスト）スイッチを操作をしないまま約5秒経過すると、ディスプレイは自動的に元の画面にもどります。

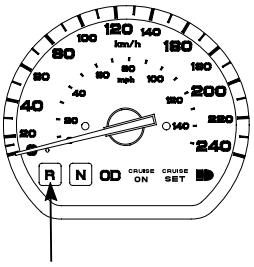
後退装置

この車には、平坦地において車を微速で後退させる装置がついています。

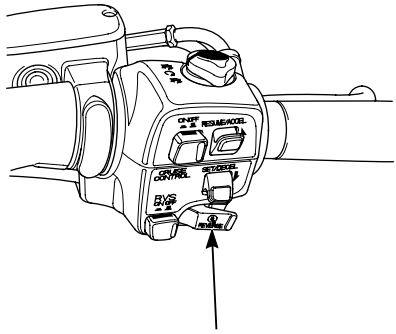
- 後退するときは、周囲に人や障害物がない場所で行ってください。
- 急な坂道やでこぼこのある路面では行わないでください。後退装置は一定速度で車を動かすよう設計されています。急な坂道や障害物のために後退しない場合、後退装置が解除され、後退表示灯が消えます。このとき車を移動させる場合は後退(RVS)スイッチをOFFにしてください。
- 後退するときは同乗者を乗せないでください。

1. エンジンストップスイッチが“ ”(RUN)になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルに入れます。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. 車にまたがりエンジンをかけます。
   エンジンのかけかたは、122ページを参照してください。
5. サイドスタンドを格納します。
6. 後退(RVS)スイッチを押してONにし、リバース(後退)表示灯が点灯していることを確認します。





7. スタータ／リバース（後退）スイッチを押すと車が後退します。
8. スタータ／リバース（後退）スイッチを放すと車は停止します。



スタータ／リバース（後退）スイッチ

9. 停止後、後退(RVS)スイッチをもう一度押してOFFにし、リバース(後退)表示灯が消えニュートラル表示灯が点灯したことを確認します。

アドバイス

- 車が動いているとき、後退(RVS)スイッチを操作しないでください。後退ギヤが損傷する場合があります。

知 識

- バッテリのあがりを避けるために、スタータ／リバース(後退)スイッチは1分以上押さないでください。
- エンジン停止中に後退(RVS)スイッチがONの位置にあるとスタータモータは回りません。

自動定速走行装置

高速道路または、発進、停止の繰り返しの少ない自動車道路などを一定速度で運転できる装置です。
4 速、OD ギヤにおいて車速が約 50 km/h 以上で設定できます。
法定速度を守って走行してください。

次のような道路では、安全のため、自動定速走行装置は使用しないでください。

- 混んでいて車間距離が十分にとれない道路
- 急なカーブ、急な下り坂のある道路
- 悪天候下の道路

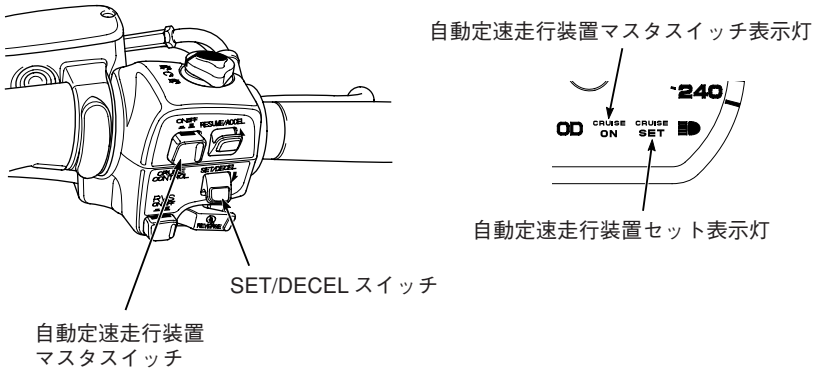
知 識

- 登坂時および降坂時は条件によっては一定車速を保てない場合があります。

希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

1. 自動定速走行装置マスタスイッチを押してONにします。
   ONのとき自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯が点灯します。
   （もう一度押すとOFFになります）
2. スロットルグリップを加減して希望の車速になったらSET/DECELスイッチを押して離します。離したときの車速にセットされます。
   自動定速走行装置セット表示灯は、SET/DECELスイッチを押したとき点灯し、自動定速走行中は点灯しつづけます。

自動定速走行をしない場合は、安全のため自動定速走行マスタスイッチを解除（OFF）しておいてください。



一時的に加速したいときの操作（自動定速走行中）

スロットルグリップを通常の加速時と同じように回すと車速が上がります。
スロットルグリップをもとの位置に戻すと設定車速に戻り、定速走行ができます。

設定車速を上げたいときの操作（自動定速走行中）

《RESUME/ACCEL スイッチによるとき》

RESUME/ACCELスイッチを押し続け、希望車速になったときスイッチを離します。離したときの車速にセットされます。

《スロットルグリップによるとき》

スロットルグリップで加速し希望車速になったときSET/DECELスイッチを一度押して離します。離したときの車速にセットされます。

設定車速を少し上げたいときの操作（自動定速走行中）

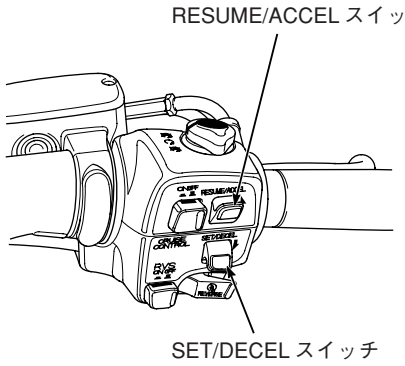
RESUME/ACCEL スイッチを瞬間的に（約 0.5 秒間）押して離します。そのときの車速に対して約 1.5 km/h 増速します。

設定車速を下げたいときの操作（自動定速走行中）

SET/DECELスイッチを押し続け、希望車速になったときスイッチを離します。離したときの車速にセットされます。

設定車速を少し下げたいときの操作（自動定速走行中）

SET/DECEL スイッチを瞬間的に（約 0.5 秒間）押して離します。そのときの車速に対して約 1.5 km/h 減速します。



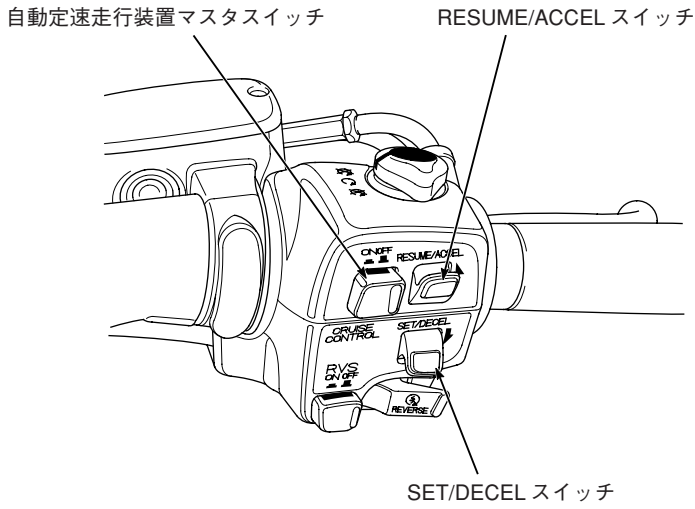
自動定速走行状態を解除したいときの操作

自動定速走行装置マスタスイッチを押して OFF にします。

自動定速走行状態の一時的な解除

- 次の場合、自動定速走行状態が一時的に解除されます。
  - ・ブレーキレバーを握ったとき
  - ・ブレーキペダルを踏んだとき
  - ・クラッチレバーを握ったとき
  - ・スロットルグリップを強制的に戻したとき

- 解除前の設定車速に戻したいときの操作
  - ・車速が 48 km/h 以上の場合、RESUME/ACCEL スイッチを押します。
  - ・車速が 48 km/h 以下の場合、48 km/h 以上まで加速後 RESUME/ACCEL スイッチを押します。



オーディオシステム

メインスイッチのキーが“ON”または“ACC”の位置でオーディオシステムが使用できます。

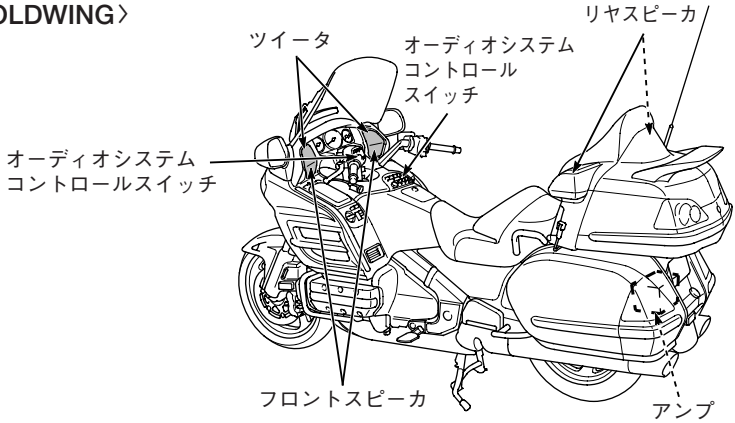
- 音量は緊急車両のサイレン、他車のホーンなどの周囲の状況が常に確認できるレベルにしてください。

アドバイス

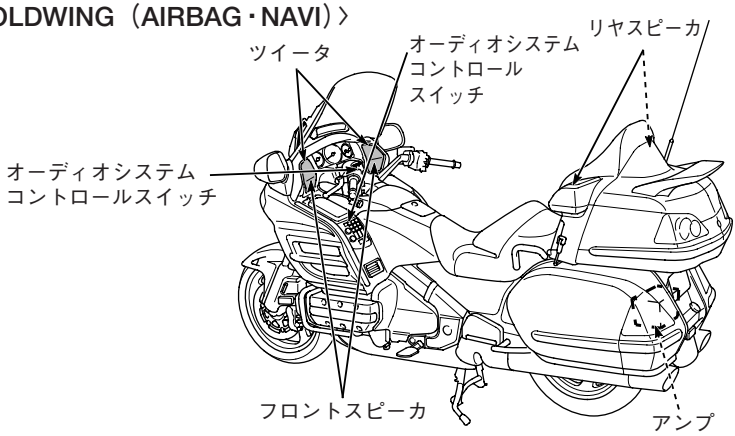
- オーディオシステムは防水設計となっていますが、水気は極力避けてください。

各部の名称

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



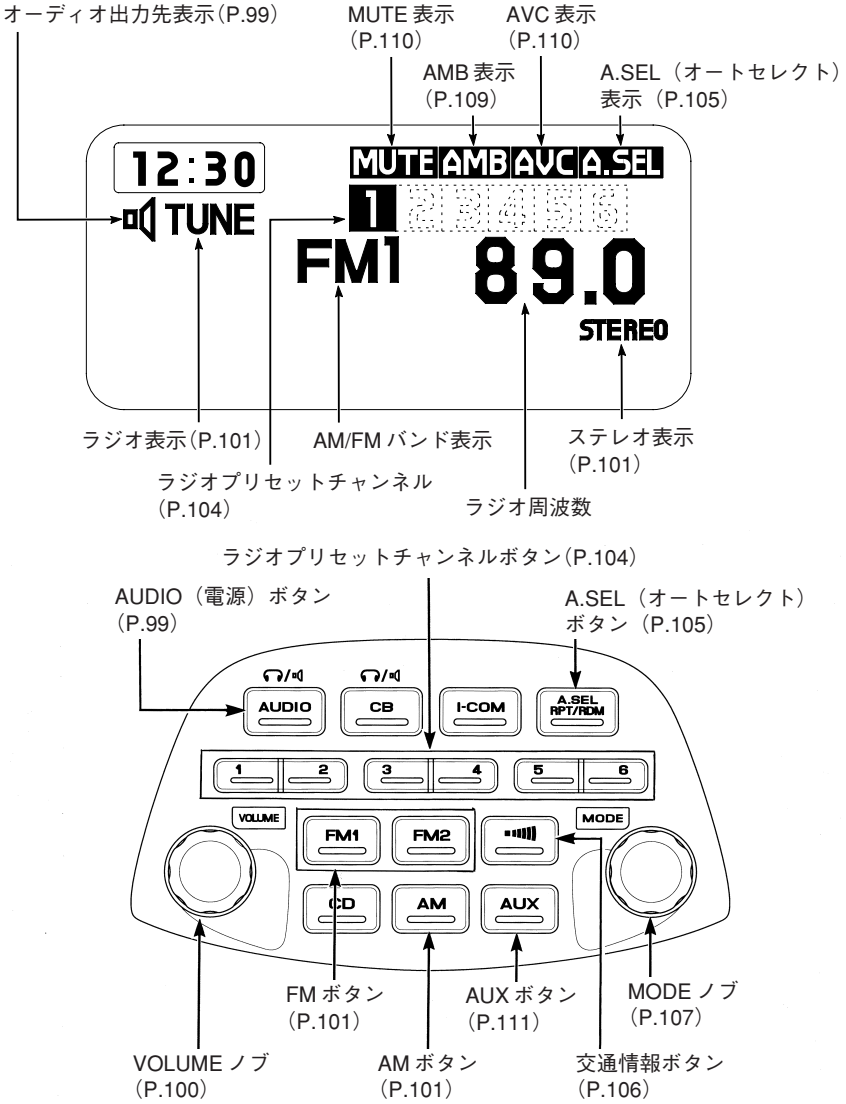
ラジオについて

ラジオの受信については車の走行にともない受信状況が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

装備の使いかた

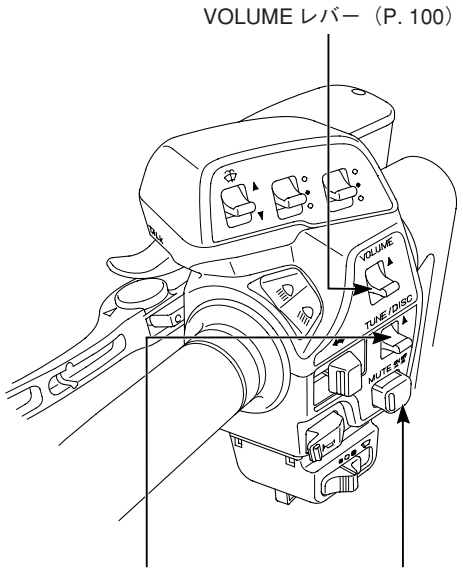
AM/FM ラジオ

〈GOLDWING〉



知 識

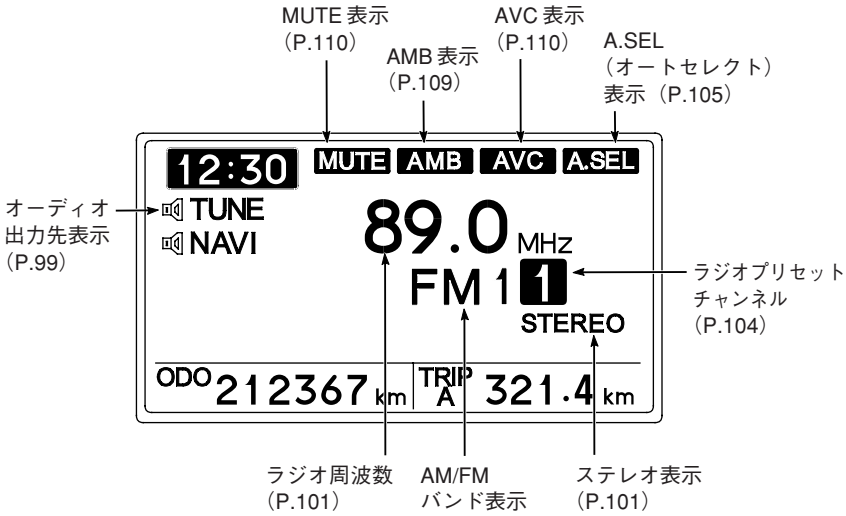
- CB ボタン、CD ボタンおよびI-COM ボタンは操作しても作動しません。

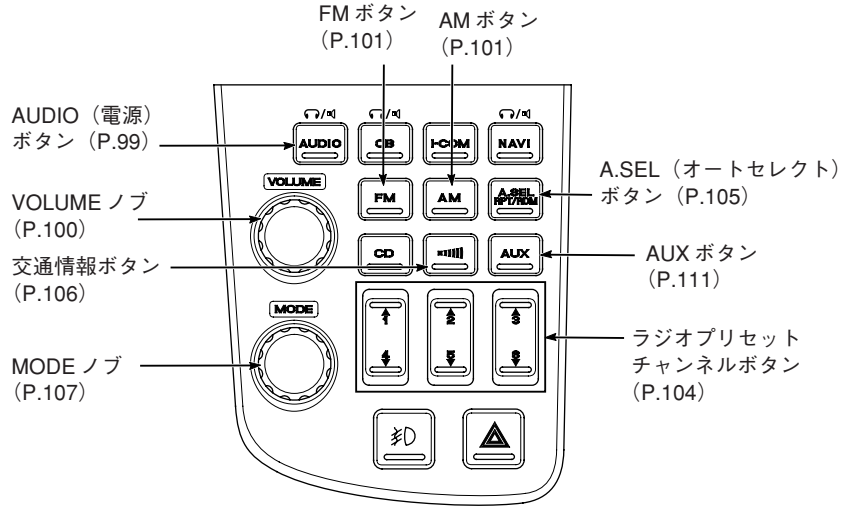


知 識

- TALK レバーは操作しても作動しません。

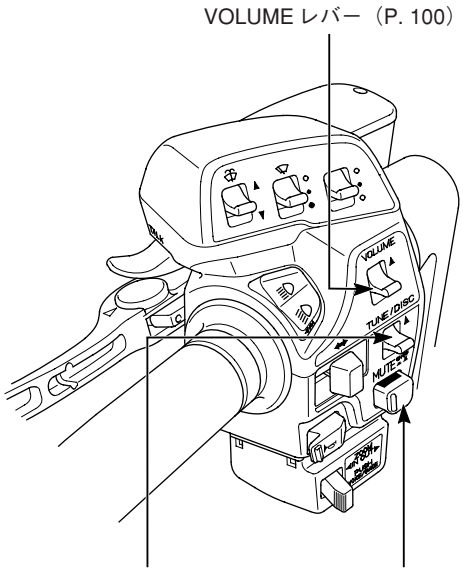
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉





知 識

- CB ボタン、CD ボタンおよびI-COM ボタンは操作しても作動しません。



知 識

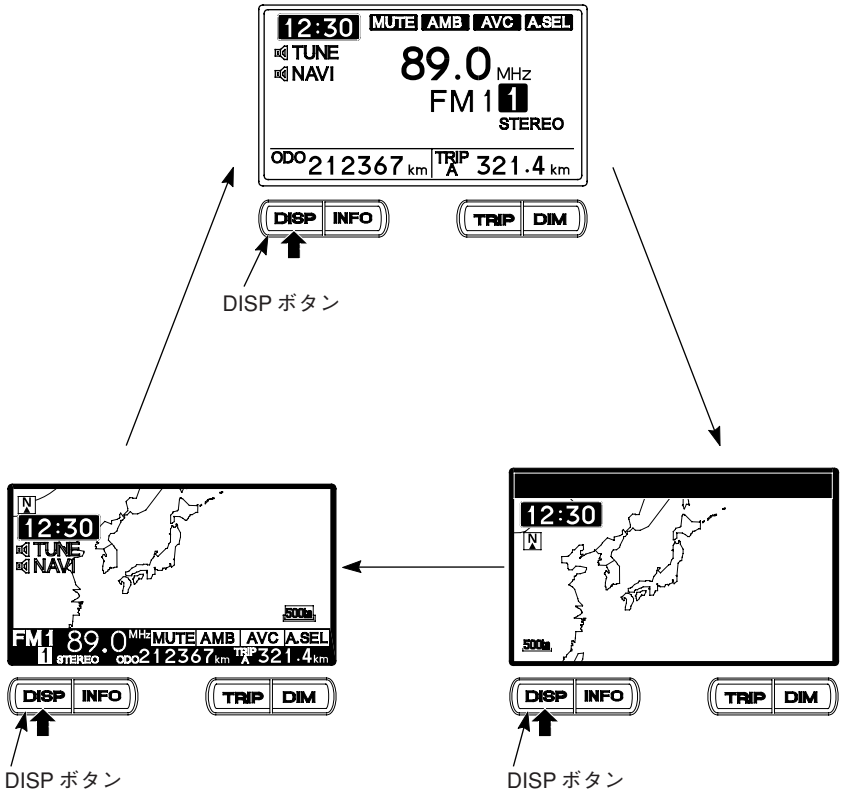
- TALK レバーは操作しても作動しません。

装備の使いかた

〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

［オーディオ表示の切換］

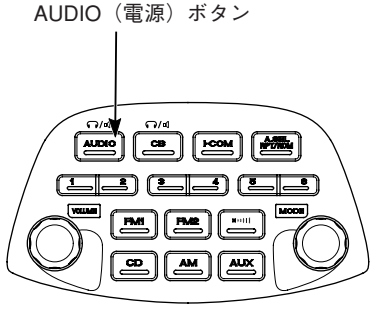
DISP ボタンを押すごとに表示が下図のようにかわります。



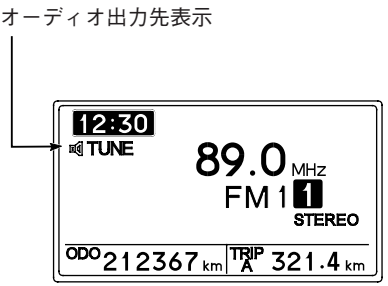
《AUDIO（電源）ボタン》
AUDIO ボタンを押すと電源が入ります。ボタンを押すたびにオーディオ出力先表示が ⇔ に切り換ります。
AUDIO ボタンを押し続けると電源が切れます。

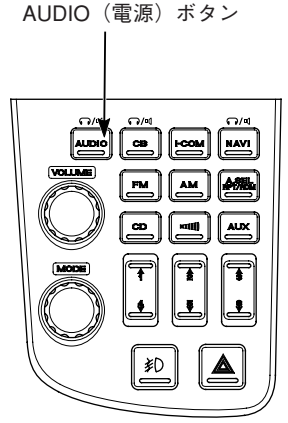
の表示のときは音が出ません。オーディオを使用するときは を表示してご使用ください。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉





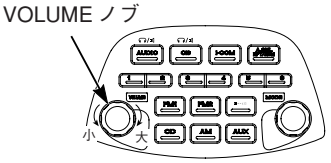
装備の使いかた

《VOLUME ノブ／VOLUME レバー》
音量はVOLUMEノブまたはVOLUMEレバーのいずれかで調整します。

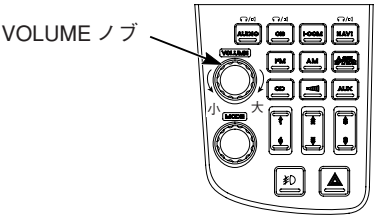
安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はVOLUMEノブの操作は行わないでください。

VOLUME ノブ：
VOLUMEノブを右に回すと音量が増加し、左に回すと音量が減少します。

〈GOLDWING〉

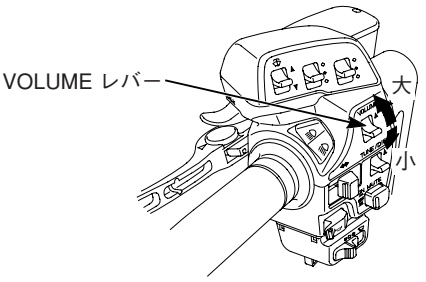


〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

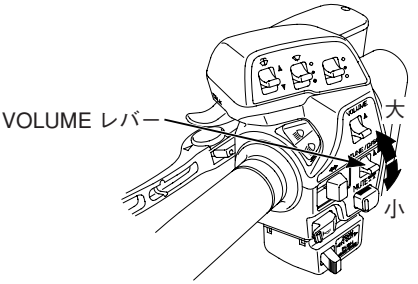


VOLUME レバー：
VOLUME レバーを上に押すと音量が増加し、下に押すと音量が減少します。

〈GOLDWING〉



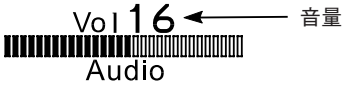
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



VOLUMEノブ／VOLUMEレバーを操作するとディスプレイに音量を表示します。音量は 0 ～ 30 の間で調整できます。

〈GOLDWING〉

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



《FM1/FM2/AM ボタン》

〈GOLDWING〉

FM1/FM2/AM ボタンを押すとラジオモードになりディスプレイにTUNE を表示します。

FM1/FM2 ボタンを押すと FM 放送を受信します。

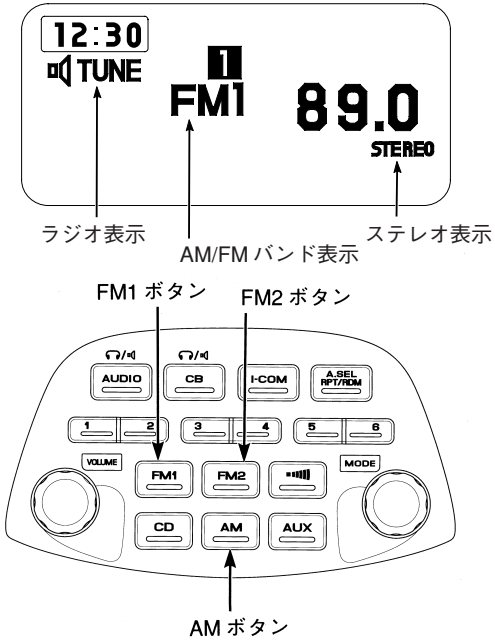
AM ボタンを押すと AM 放送を受信します。

ディスプレイには選択した放送局を表示します。

FMのステレオ放送を受信したときはディスプレイにSTEREOを表示します。

知 識

- FM のステレオ放送で受信が弱くなると、音質を維持するためにディスプレイに“STEREO”を表示していてもモノラルに近い音になります。
- ステレオ放送の受信は FM 放送のみです。AM 放送はモノラル受信となります。



《FM/AM ボタン》

〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

FM/AMボタンを押すとラジオモードになりディスプレイにTUNEを表示します。

FM ボタンを押すと FM 放送を受信します。

FM1、FM2 の切換えは FM ボタンを押して行います。

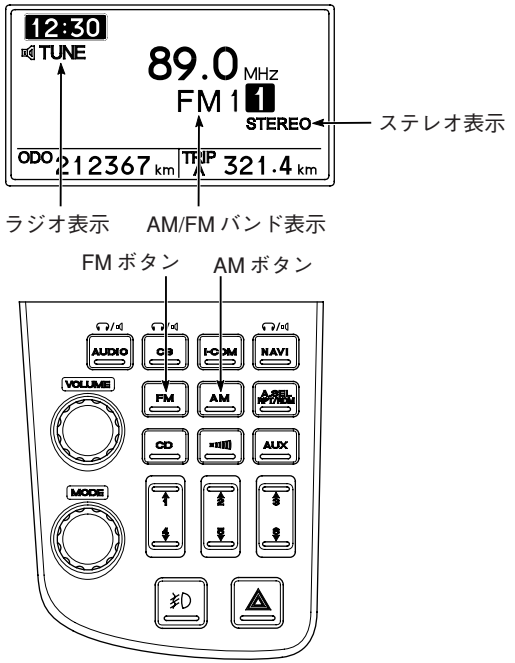
AM ボタンを押すと AM 放送を受信します。

ディスプレイには選択した放送局を表示します。

FMのステレオ放送を受信したときはディスプレイにSTEREOを表示します。

知 識

- FM のステレオ放送で受信が弱くなると、音質を維持するためにディスプレイに“STEREO”を表示していてもモノラルに近い音になります。
- ステレオ放送の受信は FM 放送のみです。AM 放送はモノラル受信となります。



《TUNE/DISC レバー》
TUNE/DISC レバーの操作で選局します。
TUNE/DISCレバーを上に押すと周波数が上がり、下に押すと周波数が下がります。

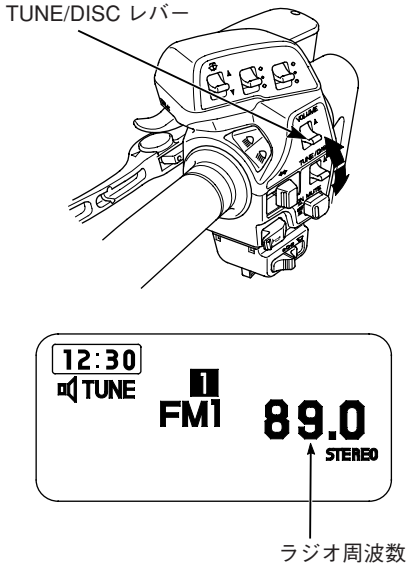
選局には手動選局と自動選局の二つの方法があります。

手動選局：
TUNE/DISC レバーを短く押すと、押すたびに受信周波数が AM で 9kHz、FM で 0.1MHz ずつ変わります。

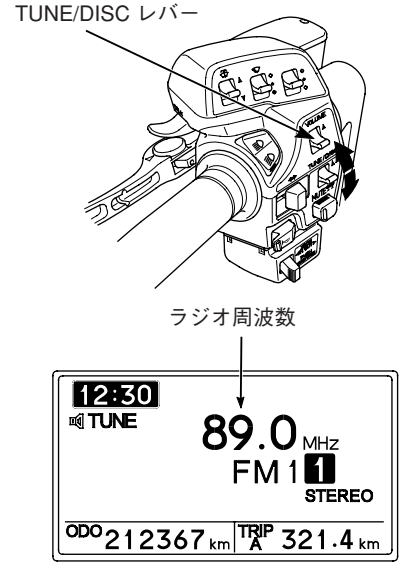
自動選局：
TUNE/DISC レバーを“ピッ”と音がするまで押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識
- 受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



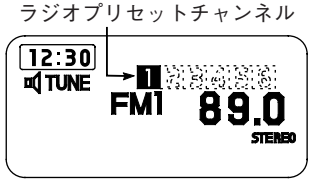
《ラジオプリセットチャンネルボタン》
ラジオプリセットチャンネルボタンを押すと、あらかじめセットされた放送局が受信できます。
ディスプレイには選択したチャンネルが表示されます。

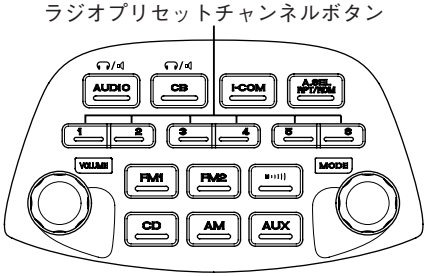
FM12局（FM1、FM2それぞれ6局）AM 6局まで記憶できます。

セットのしかた：
1. ディスプレイに“A. SEL”の表示がある場合はオートセレクトを解除してください。
2. TUNE/DISC レバーで希望する放送局を探します。
3. セットするラジオプリセットチャンネルボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けます。
4. ラジオプリセットチャンネルがディスプレイに表示され、放送局が記憶されます。

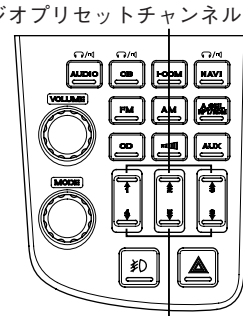
知 識
- バッテリの脱着などで一度電源が完全に切れたときは記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

〈GOLDWING〉





〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



《A. SEL（オートセレクト）ボタン》

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

オートセレクト使用時はディスプレイに“A. SEL”を表示します。

操作のしかた：

A. SEL（オートセレクト）ボタンを長押しします。（“A. SEL” が点滅）自動選局された電波の強い放送局が、ラジオチャンネルボタンにFM12局、AM 6局まで自動的に記憶され“A. SEL”が点滅から点灯に変わります。

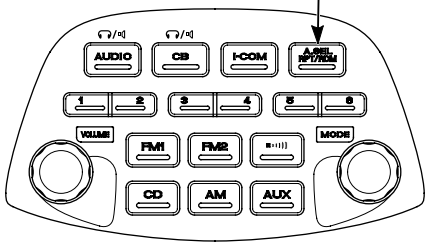
解除するときはA. SEL（オートセレクト）ボタンをもう一度押します。解除するとディスプレイから“A. SEL”の表示が消え、ラジオチャンネルボタンの記憶はオートセレクトを操作する前の状態に戻ります。

知 識

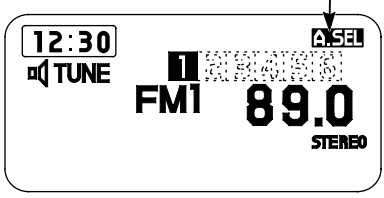
- 放送局が6局または12局にみたない場合、残りのラジオチャンネルボタンには記憶されません。

〈GOLDWING〉

A. SEL（オートセレクト）ボタン

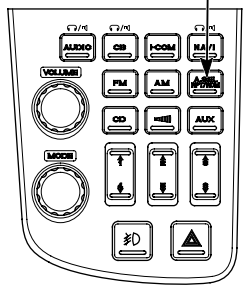


A. SEL（オートセレクト）表示

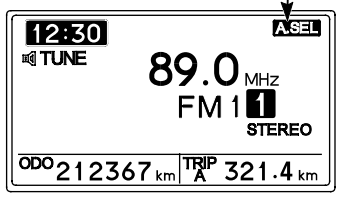


〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

A. SEL（オートセレクト）ボタン



A. SEL（オートセレクト）表示



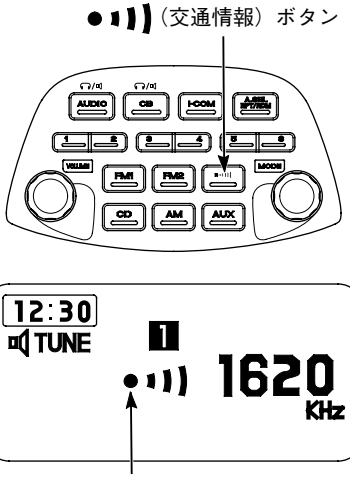
《●ıı))(交通情報）ボタン》

●ıı))（交通情報）ボタンを押すとあらかじめセットされた交通情報放送局を受信できます。

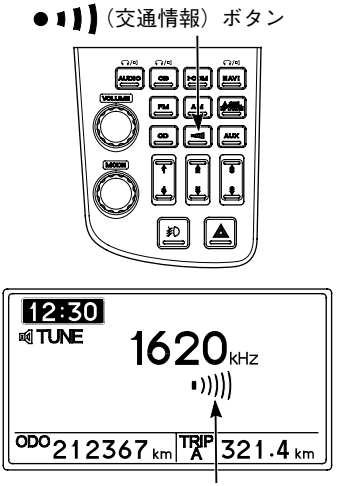
ディスプレイには“●ıı))”と周波数が表示されます。

解除するときは●ıı))(交通情報）ボタンをもう一度押します。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



知 識

- ●ıı))(交通情報）ボタンを押して、ラジオを受信しているときは、ラジオプリセットチャンネルボタン、A. SEL（オートセレクト）ボタンを押しても、周波数は切り替わりません。

セットのしかた：

1. AM ボタンを押して、AM を選択します。
2. TUNE/DISC レバーで記憶させたい周波数を選択します。
3. ●ıı))(交通情報）ボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

知 識

- バッテリの脱着などで一度電源が完全に切れたとき、周波数は 1620 kHz になります。

オーディオの機能

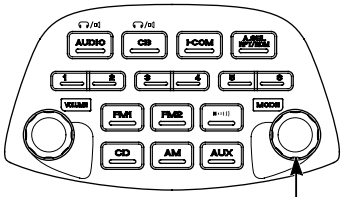
《MODE ノブ》

MODE ノブの操作により BASS（低音音質）、TREBLE（高音音質）、FADER（スピーカ前後バランス）の調整、AMB（アンビエンス）、BEEP（ビープ）の設定ができます。

MODEノブを押すたびにモードが切り換わりディスプレイにモードを表示します。

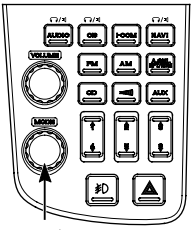
> **知 識**
> - モードを選択後、約５秒以上操作をしない場合は自動的にモードが解除されます。

〈GOLDWING〉

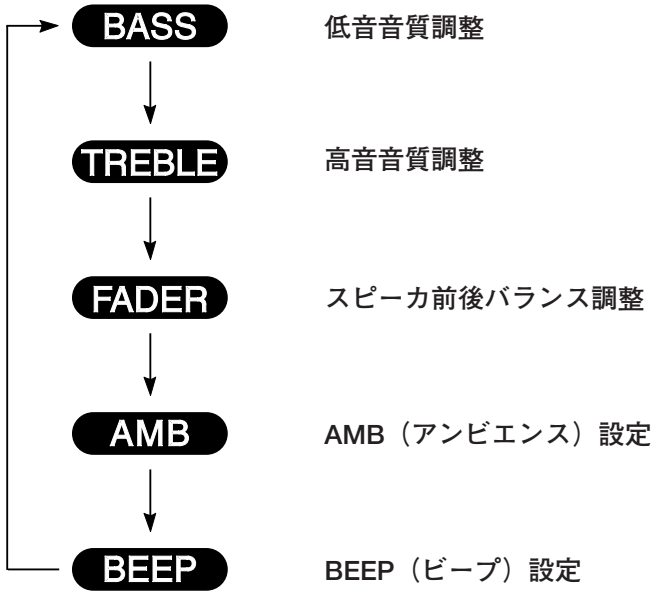


MODEノブ

〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



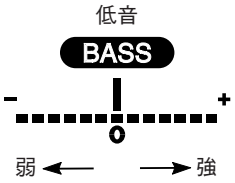
MODEノブ

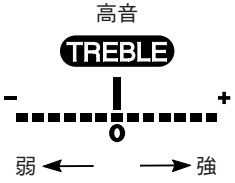


《音質調整》

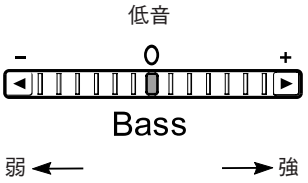
BASS（低音）と TREBLE（高音）の音質が調整できます。
MODE ノブを右に回すと音が強まり、左に回すと音が弱まります。
調整後、ノブを押すと設定されます。

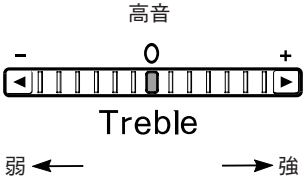
〈GOLDWING〉





〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

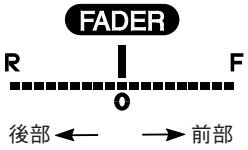




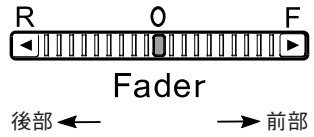
《FADER（フェーダー）調整》

スピーカ音量の前後配分が調整できます。
MODEノブを右に回すと前部スピーカの音が大きくなり､左に回すと後部スピーカの音が大きくなります。調整後、ノブを押すと設定されます。

〈GOLDWING〉



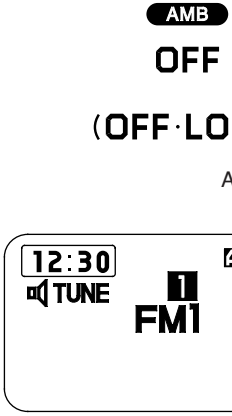
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



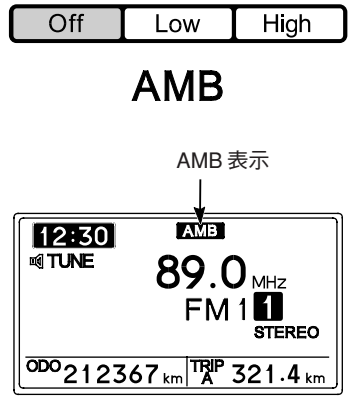
《AMB（アンビエンス）設定》

AMB（アンビエンス）とはステレオ信号のある音域に、時間差をつけてブレンドし、臨場感溢れる音質にするものです。MODE ノブを回すと、OFF, LO, HI の選択ができます。選択後、ノブを押すと設定されます。AMB の設定時はディスプレイに AMB を表示します。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



《BEEP（ビープ）設定》

ボタン操作時の BEEP（ビープ）の音の設定ができます。

MODE ノブを回し OFF または ON を選択後、ノブを押すと設定されます。

〈GOLDWING〉

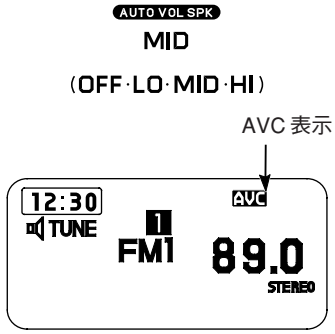
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

《AVC（自動音量）設定》

オーディオシステムには車速が増すと自動的に音量が増加する機能が装備されています。VOLUME ノブを 3 回押すと設定モードになり VOLUME ノブを回すと OFF, LO, MID, HI の選択ができます。選択後、ノブを押すと設定されます。

AVC 設定時はディスプレイに AVC を表示します。

〈GOLDWING〉



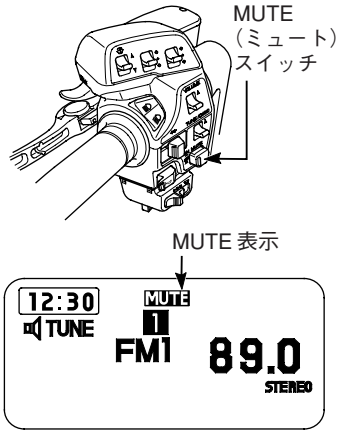
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉

《MUTE（ミュート）スイッチ》

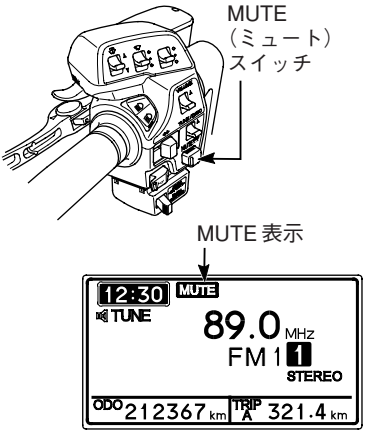
オーディオシステム使用中にMUTE（ミュート）スイッチを押すと音量が減少し、ディスプレイにMUTEを表示します。

スイッチをもう一度押すと音量がもとに戻りディスプレイの表示は消えます。

〈GOLDWING〉



〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



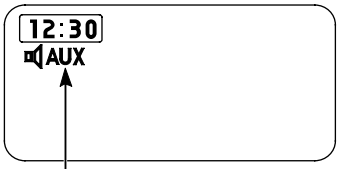
《AUX（外部入力）ボタン》

AUX(外部入力)ボタンを押すとAUXモードになりディスプレイにAUXを表示します。AUX接続端子に接続した外部のオーディオシステムを聞くことができます。AUX接続端子は左フェアリングポケットの中にあります。

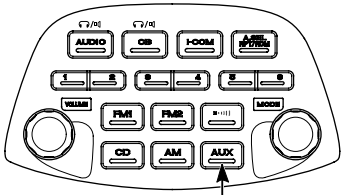
知 識

- 接続するオーディオシステムによってはノイズが発生する場合があります。
- 接続したオーディオシステムの音量が本機のオーディオシステムの音量より大きい場合、音が歪むことがあります。音量を調整して使用して下さい。

〈GOLDWING〉

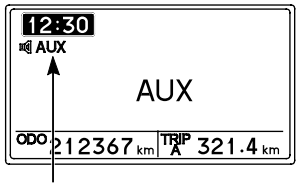


AUX表示

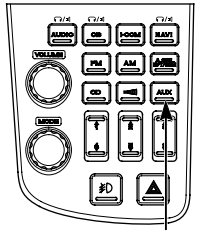


AUX（外部入力）ボタン

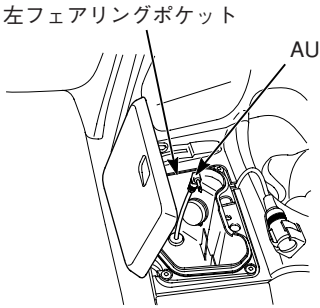
〈GOLDWING（AIRBAG・NAVI）〉



AUX表示



AUX（外部入力）ボタン



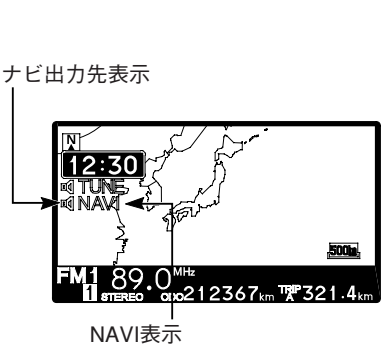
〈GOLDWING（AIRBAG･NAVI）〉

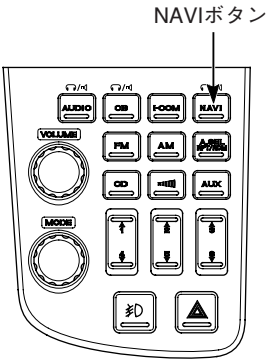
ナビゲーションシステム

《ナビ音声案内の切換え》

NAVIボタンを長押しするとナビゲーションシステムの音声案内の切換えができます。画面にNAVI表示が出ているときは音声案内をきくことができます。ボタンを押すたびにナビ出力先表示が 🔊 ⇔ 🎧 に切換わります。

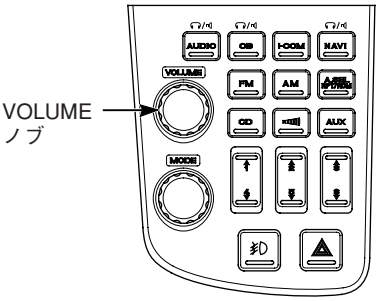
🎧 表示のときは音が出ません。音声案内を使用するときは 🔊 を表示してご使用ください。

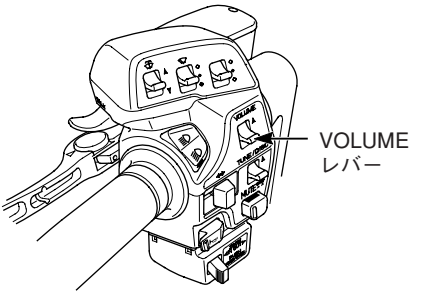


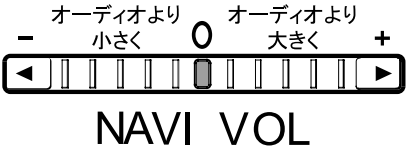


《NAVI VOL（ナビ音量）設定》

ナビ音声案内の音量を調整します。VOLUME ノブを 4 回押すと設定モードになり VOLUME ノブまたは VOLUME ボタンで調整します。VOLUME ノブを上に押すと音量が増加し、下に押すと音量が減少します。VOLUME ボタンを右に回すと音量が増加し左に回すと音量が減少します。選択後、ノブを押すと設定されます。







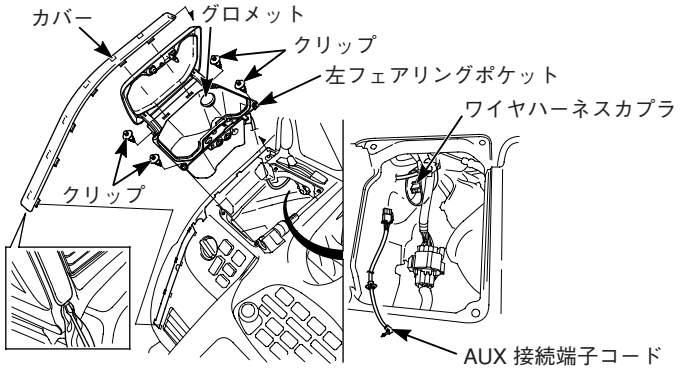
NAVI VOL

AUX 接続端子の組付け

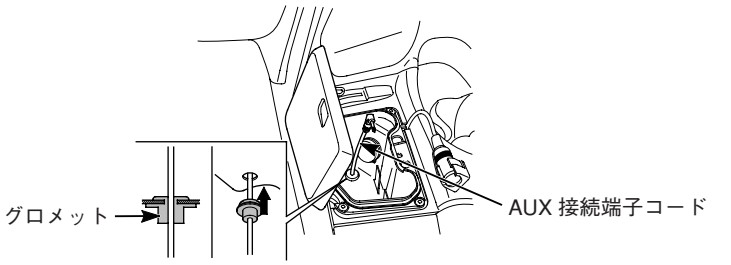
AUX 接続端子は下記の手順で組付けてください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

《組付けかた》

1. カバーの溝に薄いウエスをあてたマイナスドライバを差し込み、カバーを外します。
2. 左フェアリングポケットを開け、クリップを取外します。
3. 左フェアリングポケット底のグロメットを取外します。
4. 左フェアリングポケットを持ち上げ、車体のワイヤハーネスカプラにAUX接続端子コードのカプラを接続します。コードは左サドルバッグにあります。



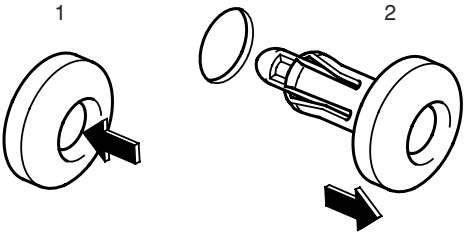
5. AUX 接続端子コードを左フェアリングポケットの底の穴に通し、コードのグロメットを組付けます。
6. 左フェアリングポケットを取付け、クリップを組付けます。
7. カバーを組み付けます。



《クリップの取外し、取付けかた》

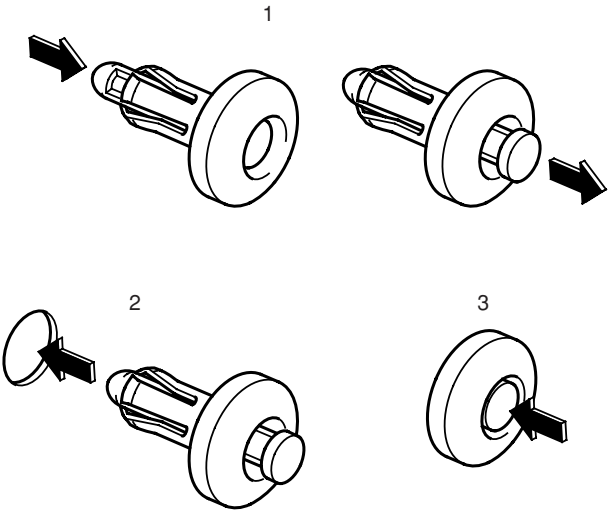
取外し

1. 中央部のピンを押し込んでロックを解除します。
2. クリップを引き抜きます。



取付け

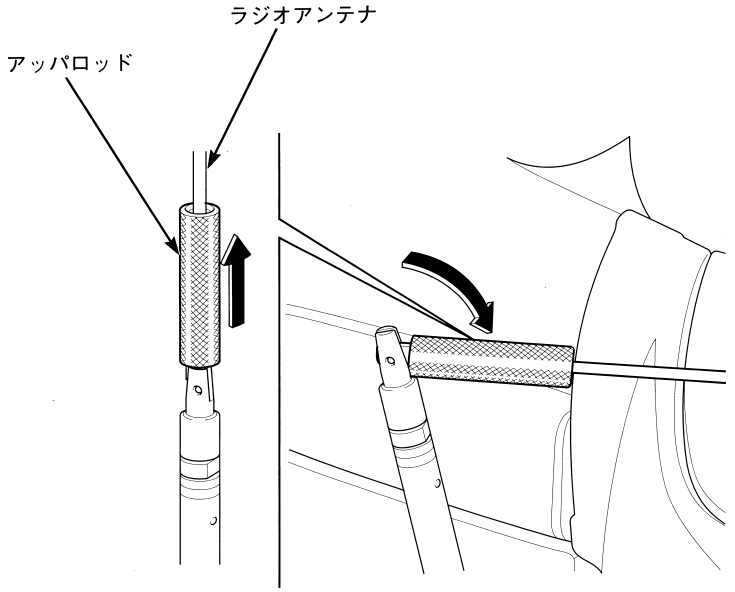
1. ピンの下端を押し戻して取付け状態にします。
2. クリップを穴に差し込みます。
3. ピンを軽く押してロックします。



装備の使いかた

ラジオアンテナ

ラジオアンテナの折りたたみはアッパロッドを引き上げて行います。



サイドカバー

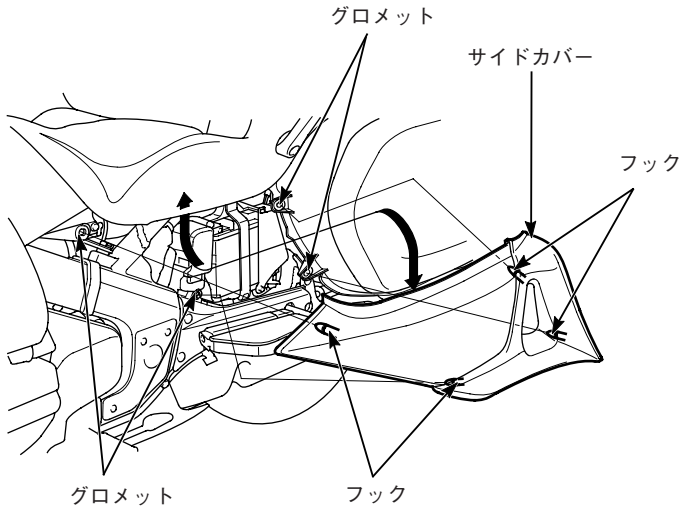
下図は左サイドカバーを示しています。右サイドカバーも同じ要領で行ってください。

《取外し》

1. サイドカバーの両側を手前に引き、フックをグロメットから外します。
2. サイドカバーを取外します。

《取付け》

1. サイドカバーの上部をシートの下に差し込みます。
2. サイドカバーのフックをグロメットに合わせ､サイドカバーを取付けます。



エンジンサイドカバー

エンジン停止直後はエンジン本体、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

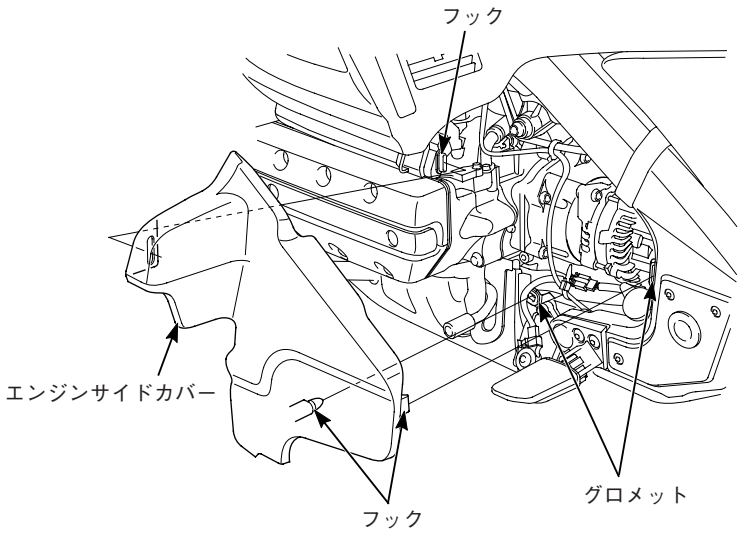
下図は左サイドカバーを示しています。右サイドカバーも同じ要領で行ってください。

《取外し》

1. エンジンサイドカバーの後側を手前に引き、フックをグロメットから外します。
2. エンジンサイドカバーを後方にずらし、エンジン側のフックからエンジンサイドカバーを取外します。

《取付け》

- 取付けは取外しの逆手順で行います。



シリンダヘッドサイドカバー

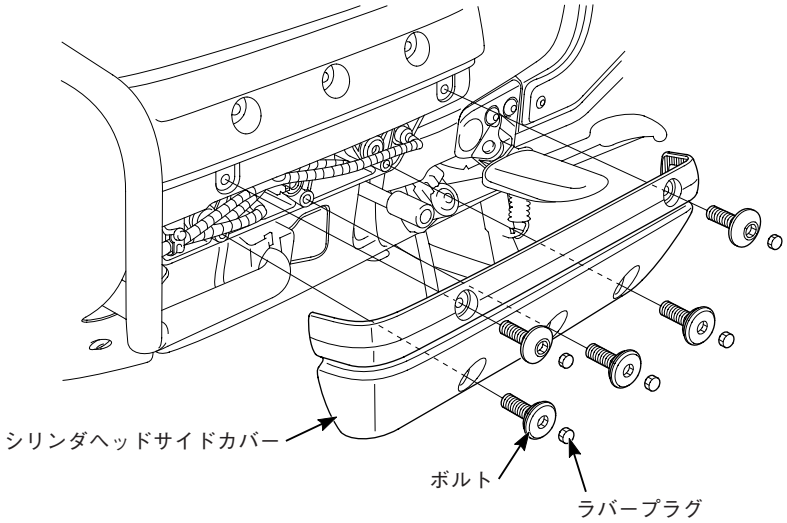
エンジン停止後はエンジン本体､エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《取外し》

1. ラバープラグを外して、ボルトを外します。
2. シリンダヘッドサイドカバーを取外します。

《取付け》

- 取付けは取外しの逆手順で行います。



燃料の補給

《使用燃料》
無鉛レギュラーガソリン

アドバイス
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。
  補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）などを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

⚠ 警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

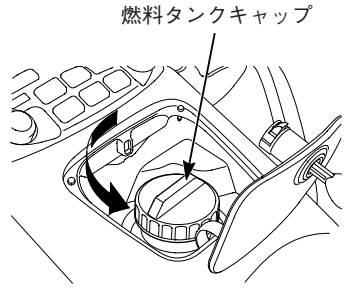
ガソリンを取扱う場合は、
- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、
- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行ってください。

《補給のしかた》

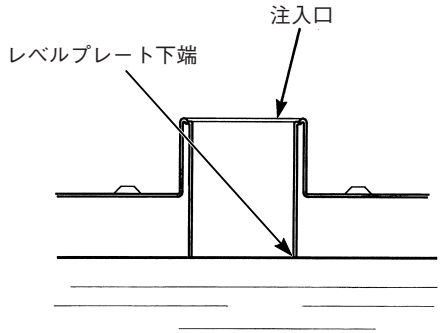
1. メインスイッチのキーを差し込み右に回して燃料注入口リッドを開けます。
2. 燃料タンクキャップを左に回して取外します。



3. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

   ガソリンをレベルプレート下側以上に入れると、燃料タンクのブリーザチューブからガソリンがにじみ出ることがあります。

4. 燃料タンクキャップを“カチッ”という音が2回以上するまで右に回します。
5. 燃料注入口リッドを閉め、キーを抜き取ります。



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、次ページの「始動手順」に従い行ってください。

アドバイス

- スタータ／リバース（後退）スイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
  これはバッテリ電圧を回復させるためです。
- 無用の空ふかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを“OFF”にしてください。再度、走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障がないかを十分に確認してください。

知 識

- この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
- エンジンをかけるときには、スロットルを全開にしないでください。
  スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとすると、PGM-FIユニットが燃料の供給を停止します。
- この車は、セーフティスタータ機構を採用していますので、チェンジが入った状態では、エンジンは始動しません。但しこの状態でも、クラッチレバーを握ればエンジンは始動します。

《始動手順》

この車にはオートチョークが装備されていますのでエンジンが冷えているとき、暖まっているときにかかわらず以下の始動手順に従ってください。

1. エンジンストップスイッチが “ ” (RUN) になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. スロットルグリップを閉じ、スタータ／リバース (後退) スイッチを押します。
5. エンジンがかかったら、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

- エンジンがかからないときは、181ページ記載の要領で確認してください。

知 識

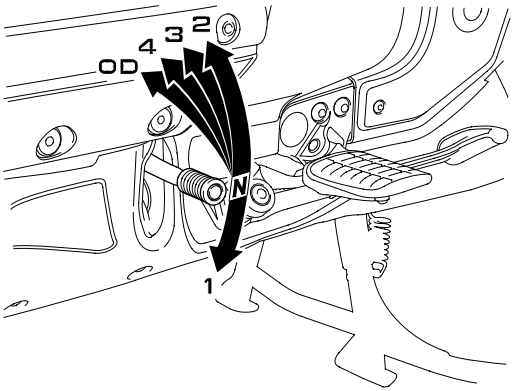
- この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。
  エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度“OFF”にしてください。

正しい運転操作

チェンジのしかた

チェンジは、下記の図のような5段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- チェンジペダルの操作は、つま先で軽く行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



走りかた

- 走行前に、サイドスタンドおよびメインスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。下記の表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

	速度範囲
1速	**0～55 km/h**
2速	**20～95 km/h**
3速	**30～135 km/h**
4速	**40～180 km/h**
OD	**50 km/h以上**

アドバイス

- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにHonda販売店で調べましょう

知 識

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り始めてから500 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

《シフトダウンのしかた》
追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因やエンジンの回転が上がり過ぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジン、ミッションがこわれます。下記の表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
OD→4速	**170 km/h 以下**
4速→3速	**120 km/h 以下**
3速→2速	**85 km/h 以下**
2速→1速	**50 km/h 以下**

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効き具合が悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンブレーキ》
スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは4速、3速……とシフトダウンを行ってください。

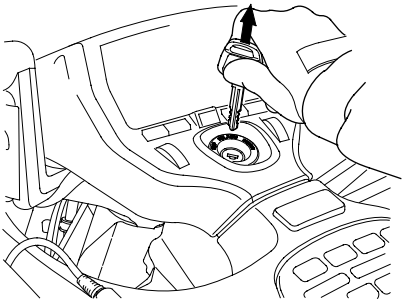
急激なシフトダウンは、尻振りなどやエンジン、ミッションに悪影響を与える原因となります。126ページの表にしたがって行ってください。

長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

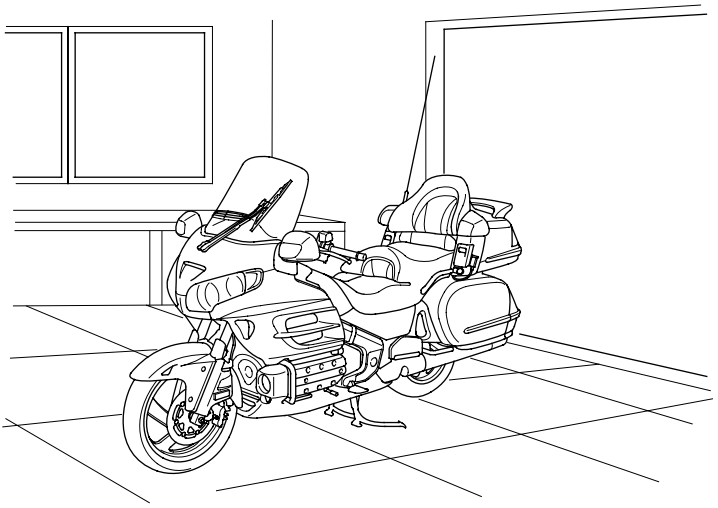
ー メモ ー

メンテナンスを安全に行うために

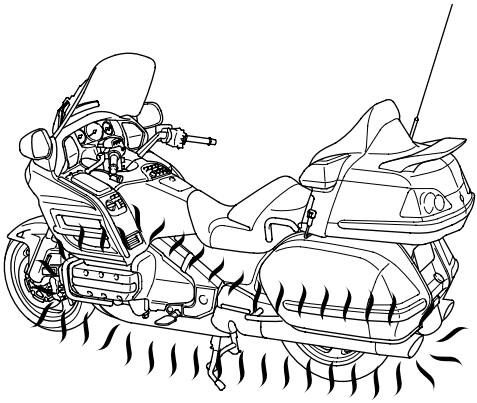
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



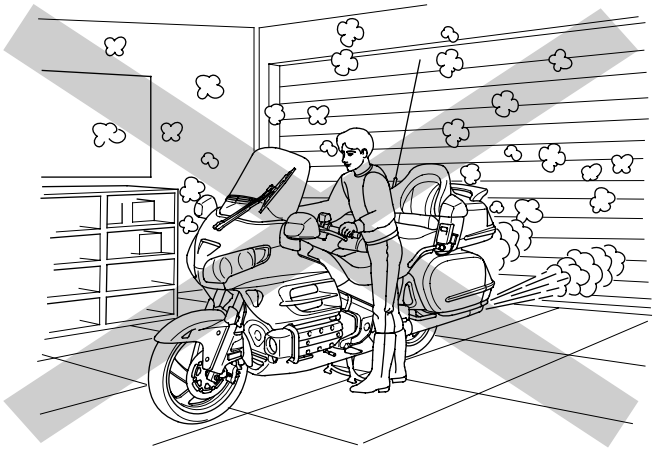
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

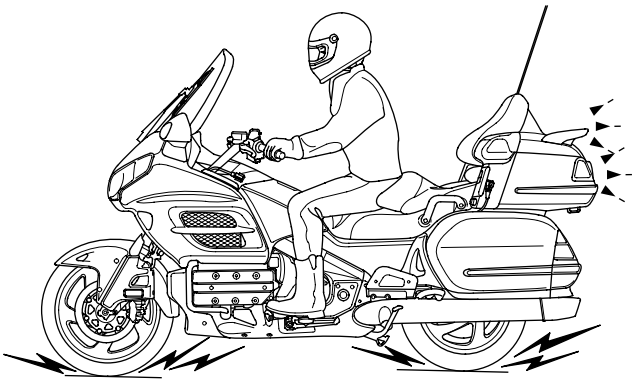


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行うために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年毎（12か月毎）、2年毎（24か月毎）の定期点検整備が義務づけられています。
安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠ 警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備，未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について 134
交換部品について 134
日常点検 136
　メンテナンス部品配置図 136
定期点検 137
簡単なメンテナンス 138
　ブレーキ 139
　タイヤ 141
　クラッチ 144
　エンジンオイル 145
　冷却水 150
　バッテリ 152
　ヒューズ 155
　エアクリーナ 157
　ケーブル類・ワイヤ類 157
　ブリーザドレン 158
　ウォッシャ液 159
　ワイパ 162

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。
お買いあげの Honda 販売店で行ってください。
他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。
また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

小型自動車［250 cm^3 (cc) を超えるもの］は、1 回目を登録日から 3 年後に、2 回目以降は、2 年毎に国で定める継続検査を受けなければ使用できません。
期間満了前に必ずお受けください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda 純正部品”をご使用ください。
純正部品は、厳しく検査を実施し、Honda 車に適合するように作られています。
お求めは、Honda 販売店にご相談ください。
純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令にしたがって、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

この車に適用される点検項目は、下記「日常点検項目」です。
下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。138 ページ以後を参照してください。
また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

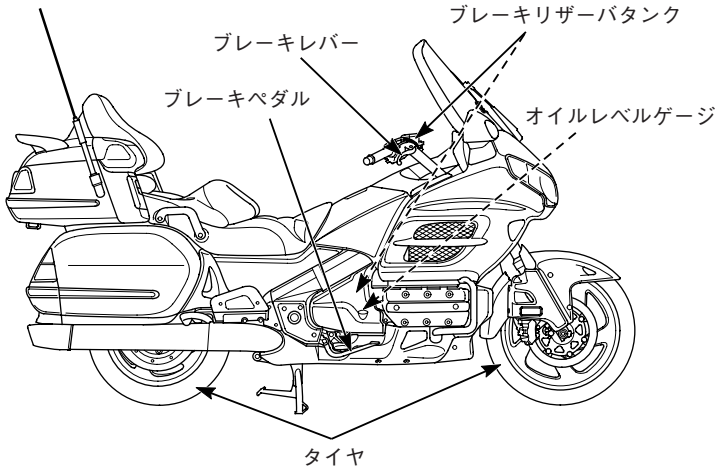
日常点検項目

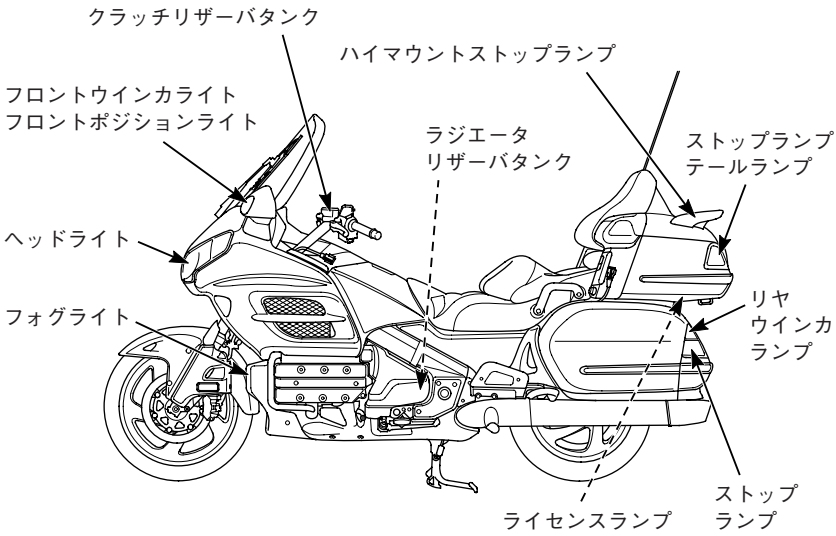
- ブレーキ
  - ・レバーの遊び（油圧式）
  - ・ペダルの遊び（油圧式）
  - ・ブレーキの効き具合
  - ・ブレーキ液の量
- タイヤ
  - ・空気圧
  - ・亀裂、損傷
  - ・異状な摩耗
  - ・溝の深さ
- エンジン
  - ・冷却水の量
  - ・エンジンオイルの量
  - ・かかり具合、異音
  - ・低速・加速の状態
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異常が認められた箇所

日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。





定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法で定められた1年毎（12か月毎）、2年毎（24か月毎）の点検と、使い始めてから1か月目（または、1,000 km時）に行う点検があります。
また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。
点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、184ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス（点検整備）について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》
［ブレーキレバー側］
平坦地でメインスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。
液面が下限(LOWER)以上にあることを確認してください。
［ブレーキペダル側］
右エンジンサイドカバーを外します。(118ページ参照)
平坦地でメインスタンドを立て車体を垂直にして､ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態にします。
液面が上限と下限の間にあることを確認してください。

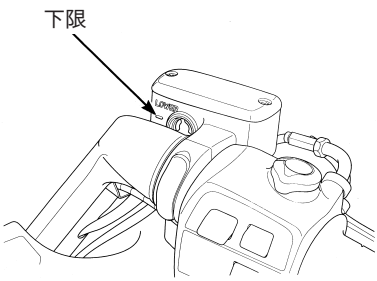
液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます｡パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

ブレーキパッドが摩耗していない場合は､ブレーキ系統の液漏れが考えられます。
異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

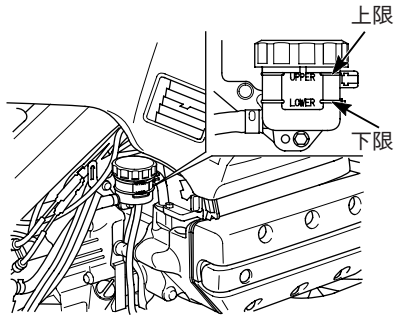
指定ブレーキ液：
Honda 純正ブレーキフルード DOT4

アドバイス
- 銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
  銘柄の異なるブレーキ液を使用すると､ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

［ブレーキレバー側］



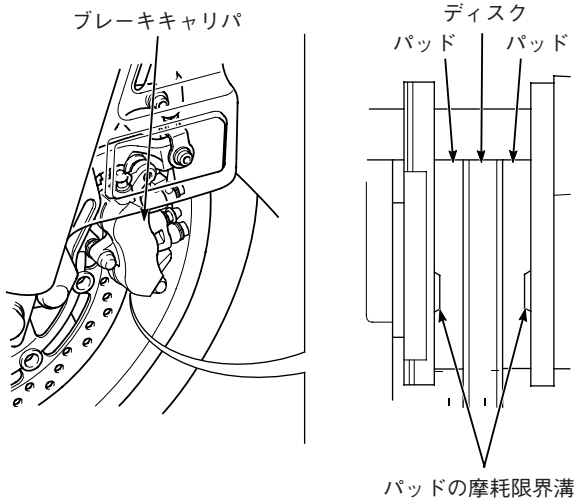
［ブレーキペダル側］



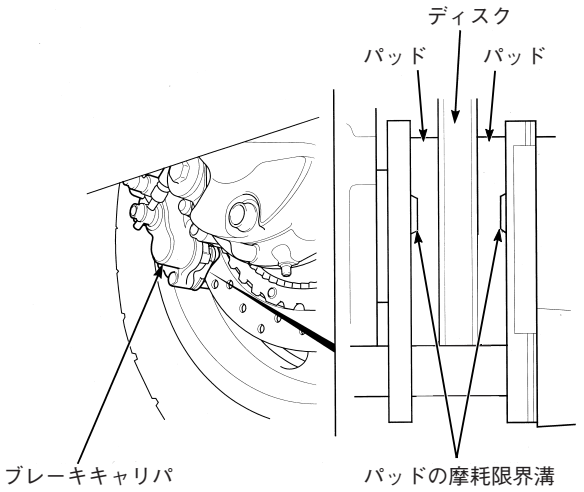
《ブレーキパッドの摩耗の点検》

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。
摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

［前輪］



［後輪］



タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。常に適正な空気圧を保ってください。また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

⚠ 警告

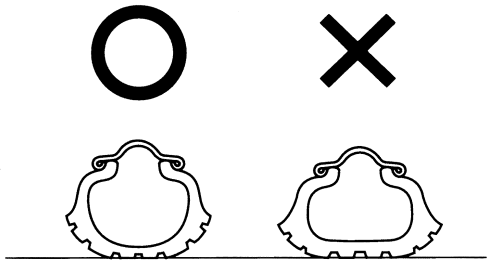
過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。



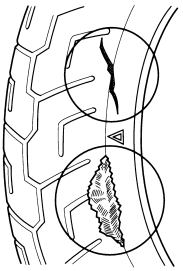
簡単なメンテナンス

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一ヶ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

タイヤの空気圧

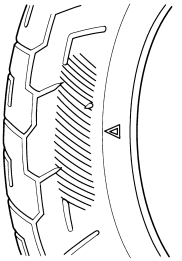
1 人乗車時	前輪	**250 kPa (2.50 kgf/cm²)**
	後輪	**280 kPa (2.80 kgf/cm²)**
2 人乗車時	前輪	**250 kPa (2.50 kgf/cm²)**
	後輪	**280 kPa (2.80 kgf/cm²)**

《亀裂と損傷の点検》
タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

《異状な摩耗の点検》
タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



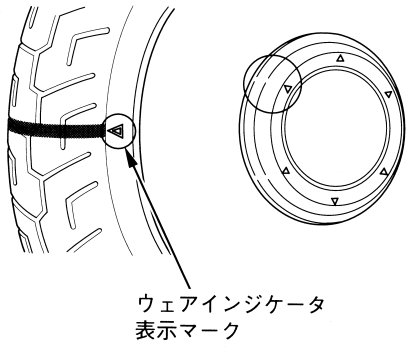
タイヤの状態が異状な場合は、Honda 販売店にご相談ください。

《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（スリップサイン）により確認します。ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

また、安全な走行のためトレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪　1.5 mm　　後輪　2.0 mm



《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは､操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

⚠ 警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前輪	サイズ	130/70R18M/C 63H
	タイプ	ダンロップ D250F チューブレス
		ブリヂストン G709 RADIAL チューブレス
後輪	サイズ	180/60R16M/C 74H
	タイプ	ダンロップ D250 チューブレス
		ブリヂストン G704 RADIAL チューブレス

クラッチ

《クラッチ液の量の点検》

平坦地でメインスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。

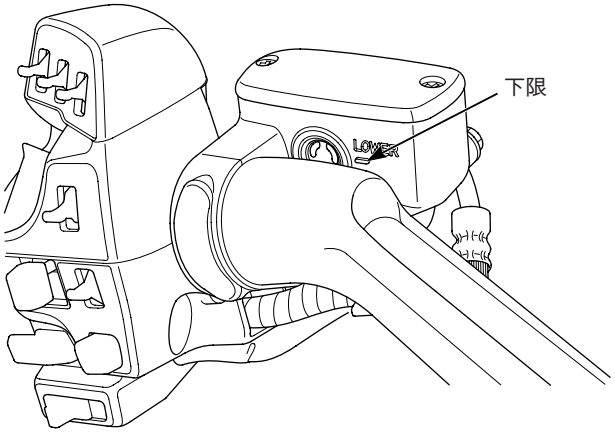
液面が下限(LOWER)以上にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合は、クラッチ系統の液漏れが考えられます。
異状箇所の修理やクラッチ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

指定クラッチ液：
Honda 純正ブレーキフルード DOT4

アドバイス

- 銘柄の異なるクラッチ液を使用しないでください。
  銘柄の異なるクラッチ液を使用すると、クラッチ液が変質したりクラッチ装置の故障の原因となることがあります。



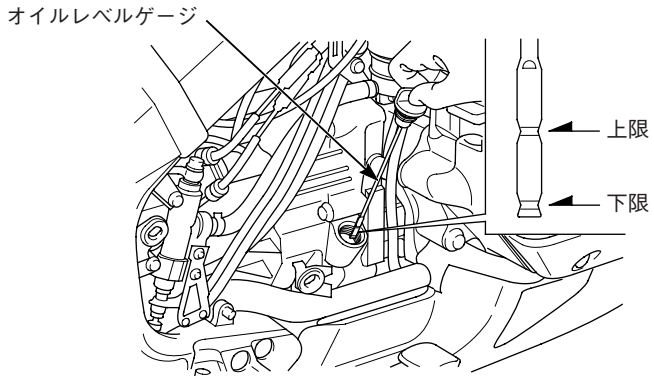
エンジンオイル

エンジンの性能を維持するためには、定期的なエンジンオイルの点検・補給が必要です。
汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早目に交換してください。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立て車体を垂直にしてください。
2. 右エンジンサイドカバーを外します。(118 ページ参照)
3. エンジンを 3 ～ 5 分間アイドリングさせます。
4. エンジン停止 2 ～ 3 分後にオイルレベルゲージを外します。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
6. オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
7. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
   オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
   エンジンオイルの補給は、次ページ参照。
8. オイルレベルゲージを確実に取付けます。
9. 右エンジンサイドカバーを取付けます。



《オイルの補給》

推奨オイル

Honda 純正オイル（4 サイクル二輪車用）

	JASO T 903 規格	SAE 規格	API 分類
ウルトラG1	MA	10W−30	SL級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- JASO T 903 規格（二輪車用オイル規格）：MA
- SAE 規格：外気温に応じ 148 ページの表から選択
- API 分類：SG、SH、SJ、SL 級相当

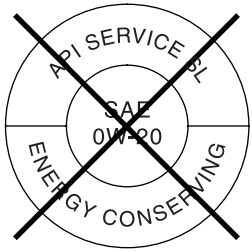
相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

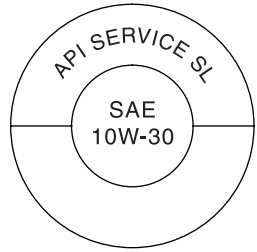
- クラッチは、エンジンオイルに浸されています。過度に摩擦を低減するエンジンオイルは、クラッチの滑りや始動不良などを発生させます。また、エンジン性能や寿命に悪影響を与える場合があります。
  - 必要以上に摩擦低減剤を含むエンジンオイルは、使用しないでください。
  - 必要以上に摩擦を低減する添加物は、加えないでください。
- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
  オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

アドバイス

- API規格マークの入っている相当品を使用する場合、エナジーコンサービングを取得したオイルには摩擦係数の低いものがあり推奨しません。



推奨しません



推奨します

知 識

- JASO T 903規格とは4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。

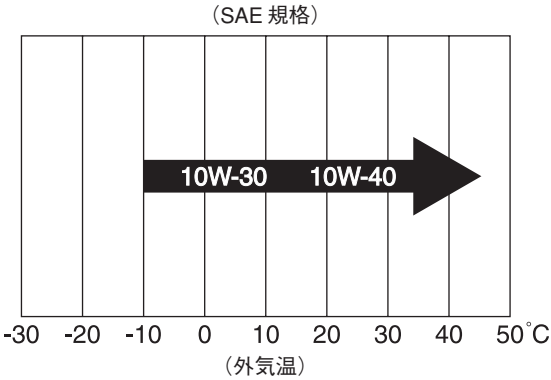
上段：オイル販売会社の整理番号

下段：性能分類の表示 MA性能であることを示しています

JASO T 903 適合品
本MA性能の品質保証者
本田技研工業株式会社

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは､外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



交換時期

初回：1,000 km または 1 か月
以後：10,000 km または 1 年ごと

エンジンオイルの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

補給のしかた

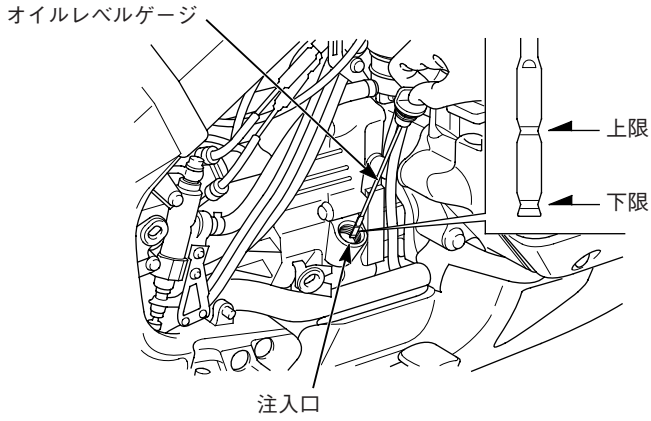
1. 平坦地でメインスタンドを立て車体を垂直にしてください。
2. 右エンジンサイドカバーを外します。(118 ページ参照)
3. エンジンを 3 ～ 5 分間アイドリングさせます。
4. エンジン停止 2 ～ 3 分後にオイルレベルゲージを外します。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
6. オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。

   補給するときは、注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

7. オイルレベルゲージを確実に取付けます。
8. 右エンジンサイドカバーを取付けます。

アドバイス

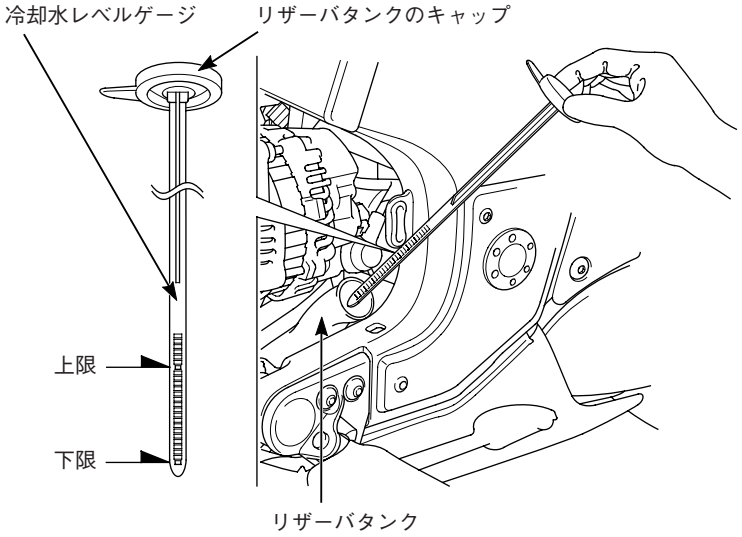
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。



冷却水

《冷却水量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立て車体を垂直にしてください。
2. 左エンジンサイドカバーを外します。(118 ページ参照)
3. リザーバタンクのキャップを外します。
4. リザーバタンクの冷却水量が冷却水レベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
   リザーバタンクのキャップをセットせず､冷却水レベルゲージを差し込んで確認してください。
   水量が下限に近かったら、上限まで補給します。
   冷却水の補給は、次のページを参照してください。



冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、キャップ、ホースなどからの水漏れが考えられます。
また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。
Honda 販売店にご相談ください。

《冷却水の補給》
補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。

⚠ 警告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

冷却水指定液
Honda 純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道（軟水）で下記濃度に薄めてお使いください。
指定濃度：30%（寒冷地は 50%）
濃度による不凍温度は、
30%の場合　－16℃　まで
50%の場合　－37℃　まで

アドバイス
- 指定以外のラジエータ液や不適当な水を使うとさびなどの原因となります。

補給のしかた
1. 平坦地でメインスタンドを立て車体を垂直にしてください。
2. 左エンジンサイドカバーを外します。（118 ページ参照）
3. リザーバタンクのキャップを外します。
4. 冷却水レベルゲージの上限まで冷却水を補給します。
5. キャップ、左エンジンサイドカバーを取付けます。

簡単なメンテナンス

バッテリ

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリを使用しています。
バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
バッテリのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリの取扱い

- バッテリ取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリ液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

⚠ 警告

バッテリには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリを、子供に手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目に付着したとき
  ・コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  ・電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  ・水、または牛乳を飲んでください。

応急処置後、直ちに医師の診断を受けてください。

アドバイス

- 密閉式バッテリですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
  バッテリの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

《バッテリターミナル部の清掃》

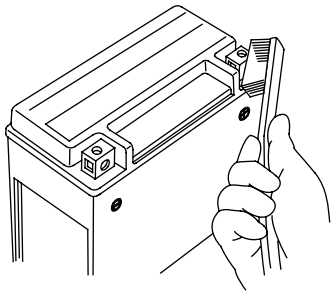
清掃のしかた

バッテリを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパで磨きます。

清掃後、バッテリを取付けます。

バッテリを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリをご使用ください。



《バッテリの取付け、取外し》

取外し

1. 左サイドカバーを取外します、(117 ページ参照)
2. クリップを外し、バッテリプレートを取外します。
3. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
4. バッテリホルダボルトを外し、バッテリホルダを外します。
5. ターミナルカバーをめくり、⊕側コード端子のボルトを外し、⊕側コードを外します。
6. バッテリを取外します。

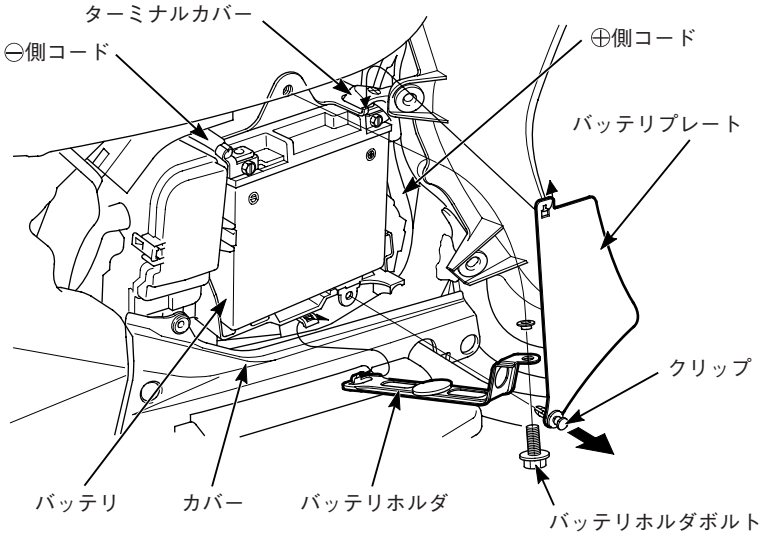
知 識

- バッテリホルダを外すときや、バッテリを取出すときにバッテリホルダがカバーに当たらないようご注意ください。

取付け

取外しの逆手順でバッテリを取付けます。

- バッテリコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。
  また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

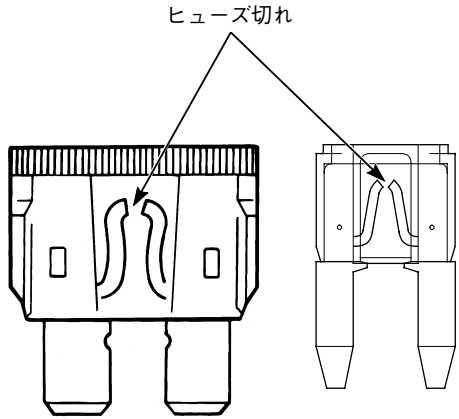
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

アドバイス

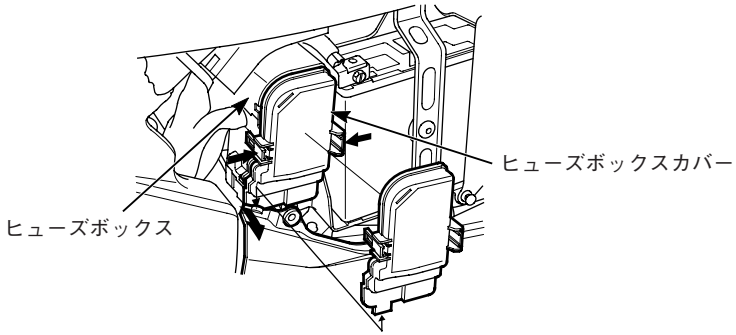
- 電装品類（ライト、計器など）を取付けるときは車種毎に決められている「Hondaアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりをおこすことがあります。

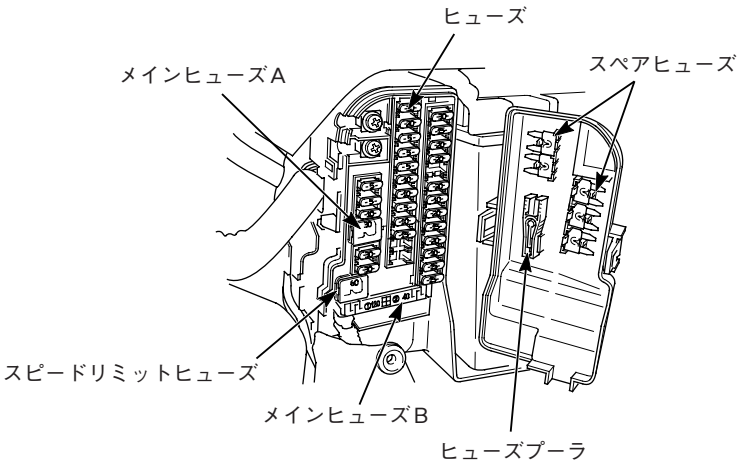


ヒューズボックス内のヒューズ

1. 左サイドカバーを取外します。(117 ページ参照)
2. ヒューズボックスカバーを外します。
3. 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスカバーの指示に従い確認します。
   ヒューズの取外しはヒューズプーラで行います。
   スペアヒューズはヒューズボックスカバーの裏にあります。
4. ヒューズボックスカバー、左サイドカバーを取付けます。

メインヒューズA、メインヒューズB、スピードリミットヒューズ切れは Honda 販売店へご相談ください。





エアクリーナ

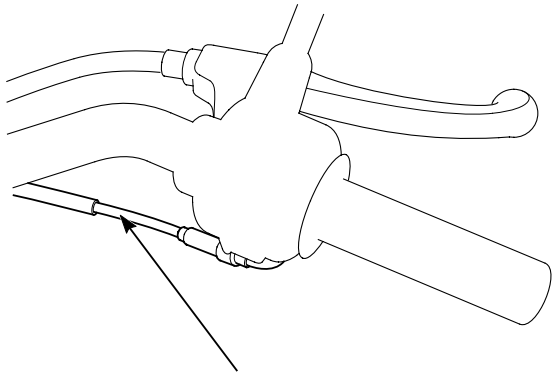
《エアクリーナエレメントの交換》

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカスタイプのエアクリーナエレメントが装備されており、点検・清掃は不要です。
40,000 km ごとに交換してください。
エアクリーナエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

ケーブル・ワイヤ類

《ケーブル・ワイヤ類の点検》

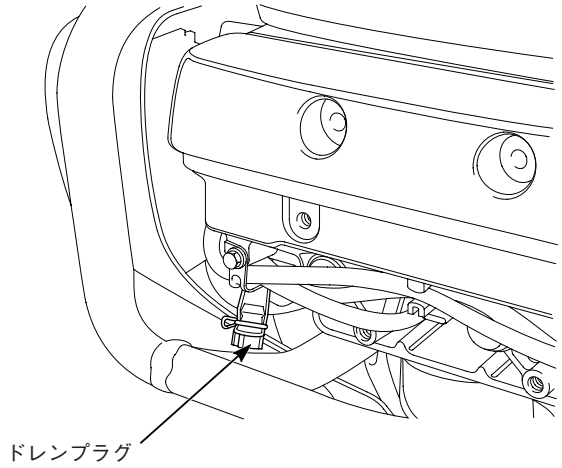
スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、スロットルグリップから手を放したときにグリップがスムーズに戻るかを点検してください。また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合は、Honda販売店にご相談ください。



ブリーザドレン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザドレンの清掃が必要です。
エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

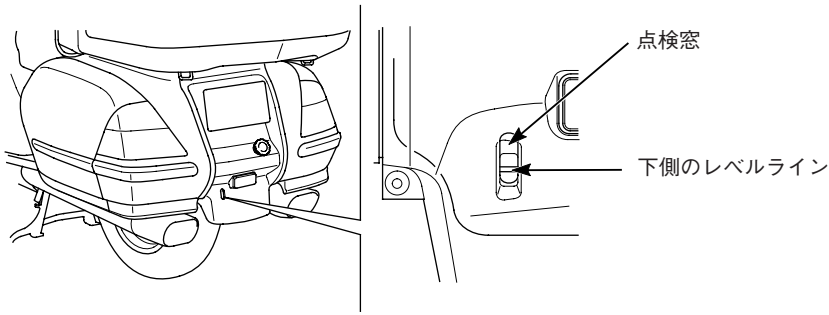
《ブリーザドレンの清掃》
（Honda 指定 1 年点検整備項目）
1. シリンダヘッドサイドカバーを外します。（119 ページ参照）
2. ブリーザドレンの下に受け皿等を用意します。
3. ドレンプラグを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
4. ドレンプラグを確実に取付けます。
5. シリンダヘッドサイドカバーを取付けます。



ウォッシャ液

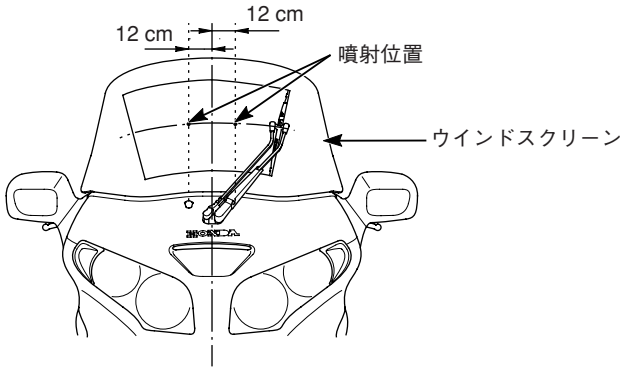
《ウォッシャ液の量の点検》

ウォッシャ液が十分にあることを点検窓で確認します。
液面が下側のレベルラインに達した場合は、ウォッシャ液を補給してください。(次ページ参照)



《噴射位置の点検》

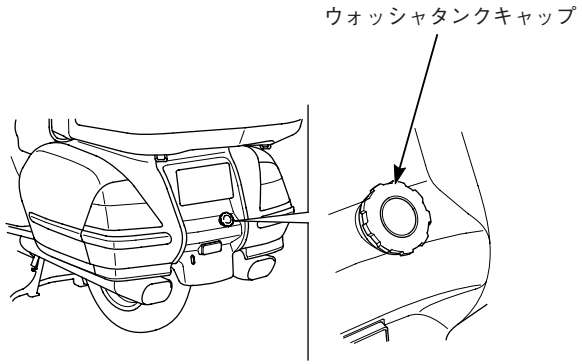
ウォッシャスイッチを押して、ウォッシャ液が図の噴射位置に当たることを確認します。また、ウインドスクリーンを越え後方に飛ばないことも確認します。



《ウォッシャ液の補給》

ウォッシャタンクキャップを外し、ウォッシャ液を補給します。
ウォッシャ液は、注入口の口元まで補給できます。
（ウォッシャ液の濃度については、次ページ参照）

ウォッシャ液を補給するときは、ゴミ、ほこりなどが入らないようにしてください。ノズルのつまりや故障の原因となります。
また、ウォッシャ液をこぼしたときは、布で拭き取ってください。



アドバイス

- 粗悪品、不凍液、石けん水および他のケミカル用品などをウォッシャ液に使用すると、樹脂部品や塗装面などに悪影響を与えます。
- 補給してもウォッシャ液が噴射しないときは、Honda販売店にご相談ください。

ウォッシャ液の濃度について

高濃度のウォッシャ液は樹脂部品に損傷を与えるため、この車には使用できません。

ウォッシャ液の使用濃度および注意事項は、ウォッシャ液の容器を確認してください。ただし、高濃度での使用については、この取扱説明書に従ってください。

- 凍結温度が－9℃より低いウォッシャ液は、高濃度のため使用できません。
- “Honda ウォッシャ液”の原液は、高濃度のため使用できません。“Honda ウォッシャ液”をご使用の場合は、下表に従い水でうすめてください。

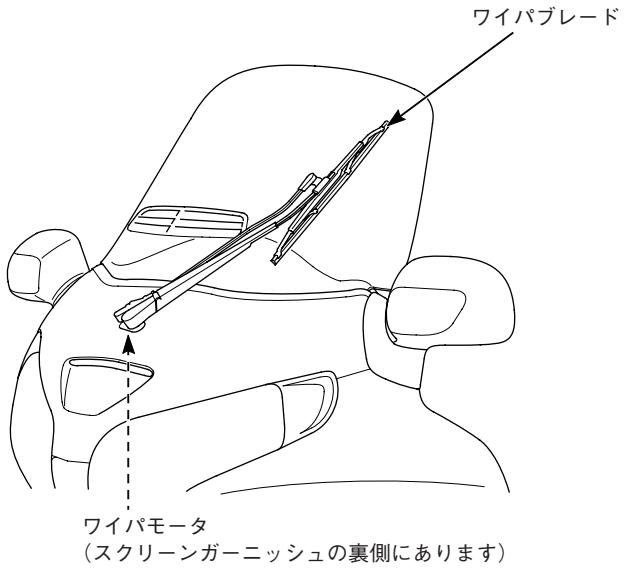
使用条件	うすめる割合		凍結温度	備　　考
	原液	水		
冬期	1	1	－9℃	1：1より濃くしないでください
夏期	1	3	－4℃	

ワイパ

《ワイパの点検》

ウォッシャ液を噴射させながら、ワイパを作動させ点検します。

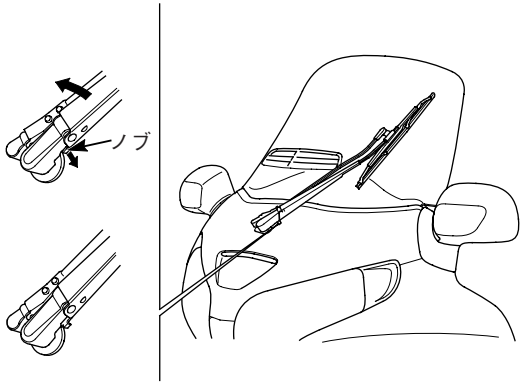
- ワイパの拭き取りが円滑かつ良好に行えることを確認します。
- ワイパモータやワイパブレードから異常な音が出ていないことを確認します。



《ワイパブレードラバーの交換》

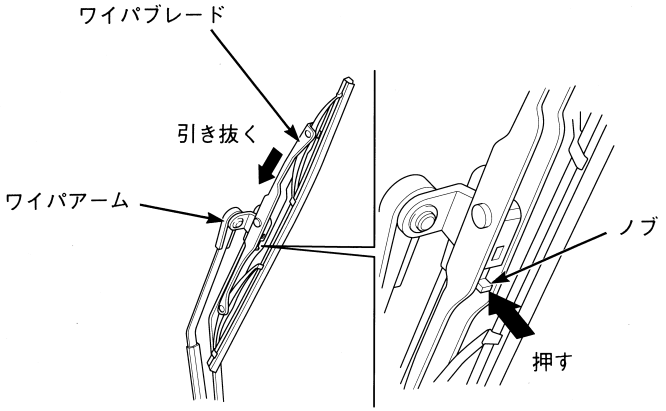
ワイパブレードラバーが傷んでいると、拭きむらがあるばかりでなくウインドスクリーンを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

1. ワイパアームを起こしノブを引きだして、アームを固定します。

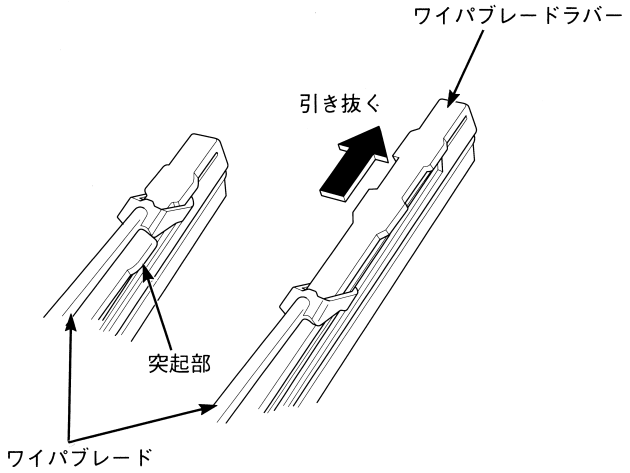


ワイパアームを
起こした状態

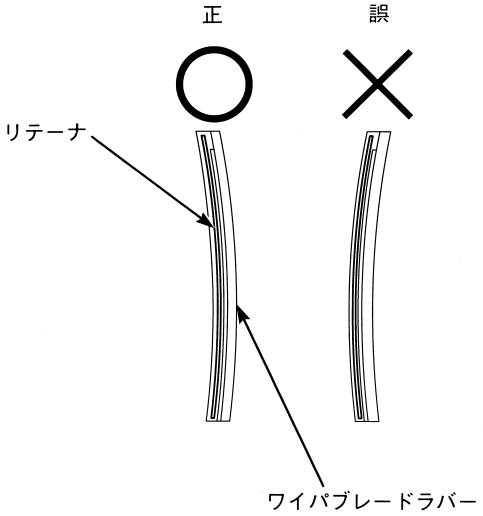
2. ノブを押しながら、ワイパブレードを下方に引いてワイパアームから取外します。



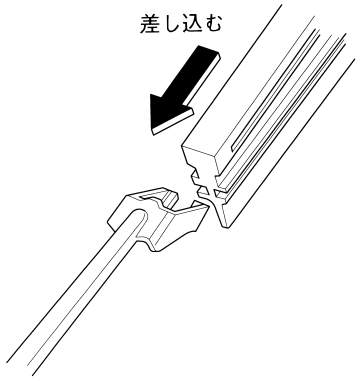
3. ワイパブレードラバーの突起部が外れるまでワイパブレードラバーを引き、そのままワイパブレードから引き抜きます。



4. ワイパブレードラバーにリテーナが正しく組付けられていることを確認します。
   リテーナはわん曲しています。図の「正」のように組付けます。



5. 新品のワイパブレードラバーを突起部の反対側からワイパブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



6. 取外しの逆手順でワイパブレードを取付けます。
7. ノブを押し込み、ワイパアームを戻します。

アドバイス

- ノブを引きだしワイパアームを起こした状態で走行しないでください。ワイパの故障の原因になります。

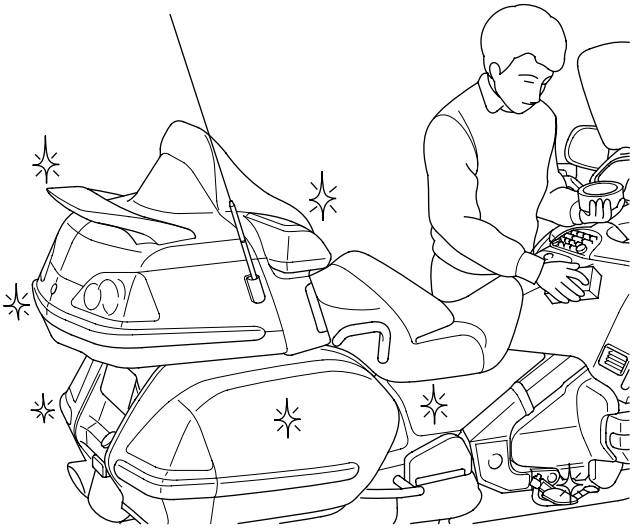
車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

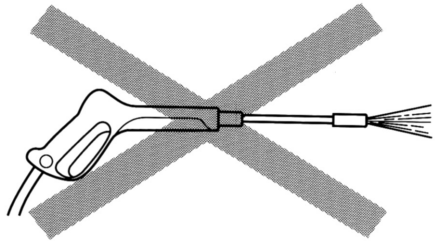
《洗車のしかた》

1. 水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。
2. 柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやクラッチレバー、スタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行ってください。

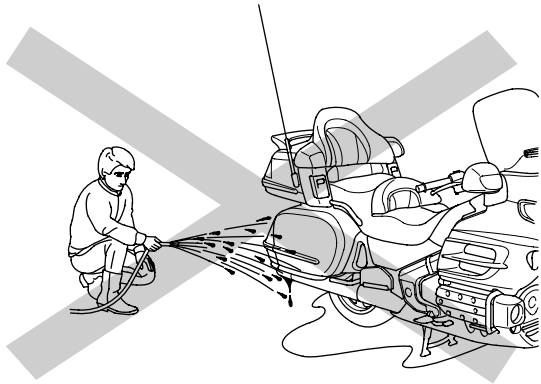


- 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。

- 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
  特に可動部や電装部品、オーディオシステムなどにかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。



- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。



車のお手入れ

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
  洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

- 洗車時、トランク、サドルバッグやフェアリングポケットなどに強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。

- 洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。

- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。

- ブレーキディスクやパッドにワックス、オイル等の油脂類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。

アルミ部品の取扱い

この車のホイール、フレームはアルミニウム合金を使用しています。
アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌います。また、他の金属部品と異なり、傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことをお守りください。

《アルミホイール》

- 砂入り石鹸や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。
- 縁石への乗り上げやすり当てはさけてください。

《アルミフレーム》

- 砂入り石鹸や硬いブラシは、アルミ部品を傷つけますので使用しないでください。

つや消し塗装の取扱い

つや消し塗装部品は、一般的な塗装と取扱いが異なります。
つや消し塗装を維持するため必ず次のことをお守りください。

《お手入れ》

- 汚れを落とす場合は、中性洗剤を使ってやわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。
  洗浄後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

《取扱い》

- 塗装面にコンパウンドやコンパウンド入りワックスを使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ご不明な点がありましたら、Honda 販売店にご相談ください。

エキゾーストパイプの取扱い

エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

エキゾーストパイプはステンレス鋼を使用していますので、油脂等の汚れが付着したままで、エンジンを始動すると焼けムラが起こります。

《お手入れ》

- 汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。
- 焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いた後、汚れが付着した場合と同じ要領で汚れを洗い落としてください。

ウインドスクリーンの取扱い

ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目をお守りください。

- ウインドスクリーンの表面が氷結している時は、スクレーパ、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は使用せず、多量のぬるま湯をかけ解氷させてから、ワイパで拭き取ってください。解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、有機溶剤を含んでいますのでウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ウインドスクリーンを清掃するときは、傷がつきやすいので多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落としてください。
  汚れのひどい時は、スポンジに薄めた中性洗剤を含ませ汚れを落とし、さらに十分な水で洗剤を洗い流してください。
  (洗剤成分が残っていると、ウインドスクリーンに亀裂が発生する場合があります。)
  乾いた状態で拭くと、ウインドスクリーンに傷をつけますので避けてください。
  ウインドスクリーンにワイパブレードの摩耗物が付着した場合も、同様に清掃してください。
- ガソリン、シンナーなどの有機溶剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ウインドスクリーンに悪影響を与えますので使用しないでください。
- コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ウインドスクリーンに傷をつけます。
- 油膜とり剤、はっ水剤などのケミカル用品は、使用しないでください。有機溶剤を含んだケミカル用品は、ウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液などの化学物質が、ウインドスクリーン、メータ、ボディカバーなどの樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。

車のお手入れ

ディスプレイの取扱い

ディスプレイは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の項目をお守りください。

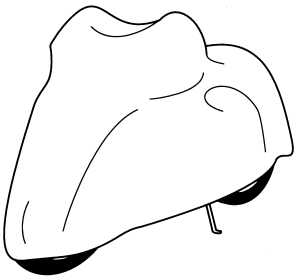
- ディスプレイを清掃するときは、傷がつきやすいので湿らせたやわらかい布か、スポンジで汚れを落としてください。
  乾いた状態で拭くと、ディスプレイに傷をつけますので避けてください。
- ガソリン、シンナーなどの有機洗剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ディスプレイに悪影響を与えますので使用しないでください。
- コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ディスプレイに傷をつけます。
- 油膜とり剤、はっ水剤などのケミカル用品は、使用しないでください。有機溶剤を含んだケミカル用品は、ディスプレイに悪影響を与えます。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液などの化学物質は、ディスプレイにかかると悪影響を与えますので、絶対にかからないようにしてください。

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知 識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 大事なお車をサビから守るために、保管する前にワックスがけを行ってください。また、雨上がりには一度ボディカバーを外し、車体を乾燥させてください。
- バッテリは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

地球環境の保護について

お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。
また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

《廃棄二輪車取扱店》
廃棄二輪車取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。

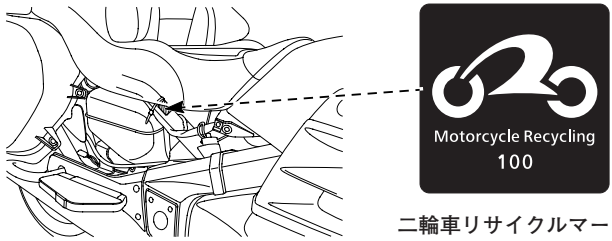
廃棄二輪車取扱店の証

《二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金》

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。
マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、右サイドカバーを外すと（117ページ参照）確認できます。



二輪車リサイクルマーク

《二輪車リサイクルマークの取扱い》

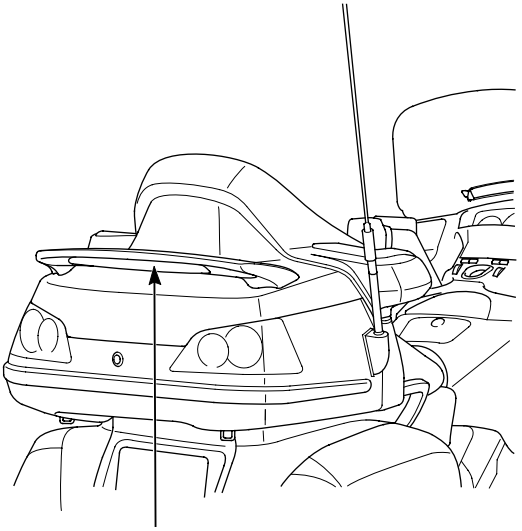
お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。
マークは車体から、剥がさないでください。
マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の（財）自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。
廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　03-3598-8075
受付時間　9:30 ～ 17:00
（土日祝日、年末年始等を除く）

ハイマウントストップランプについて

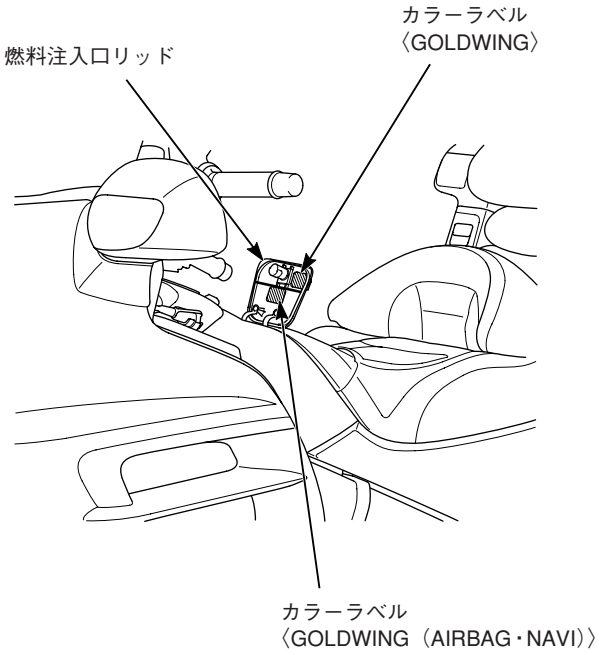
この車のハイマウントストップランプは、24個のLEDを使用しています。
もし、1個でも点灯しなくなった場合は、Honda販売店にご相談ください。



ハイマウントストップランプ

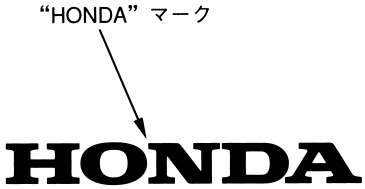
色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。
カラーラベルは燃料注入口リッドの裏に貼ってあります。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、Honda 純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。

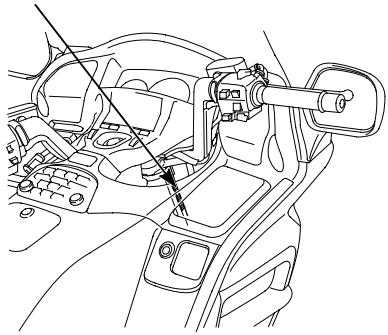


フレーム号機

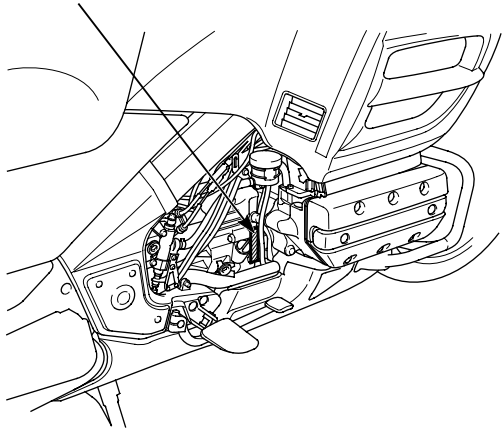
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。
また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛かりにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

- エンジン号機は、エンジン右側に打刻されています。右エンジンサイドカバー（118ページ参照）を取外すと、エンジン号機が確認できます。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止め、エンジンが冷えるのを待ちます。
2. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。
   - 水漏れがある場合：
     エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。
3. リザーバタンクの冷却水を確認します。（150 ページ参照）
   - 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに冷却水を補給してください。（151 ページ参照）
4. エンジンを始動し、水温計でエンジン冷却水の温度を確認しながら、ラジエータの冷却ファンが作動するか、作動音で確認します。
   - 冷却ファンが作動しない場合：
     故障が考えられますので走行せず、Honda 販売店にご相談ください。
   - 冷却ファンが作動する場合：
     走行可能です。ただし異常が再発するときは、Honda 販売店にご相談ください。
5. 異常が再発しない場合でも、なるべく早く Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。
- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- PGM-FI 警告灯は点灯していませんか。
  点灯している場合は、ただちに Honda 販売店にご相談ください。

これらに該当しない場合は、次のことを行ってください。
1. エンジンストップスイッチが “ ” (RUN) になっていることを確認します。
2. メインスイッチを “ON” にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. スロットルグリップを全開にし、スタータ／リバース (後退) スイッチを 5 秒間押します。
5. 次に 123 ページの始動要領でエンジンをかけてください。
6. エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合には、スロットルグリップを少し開けてください。
7. エンジンがかからないときには 10 秒間まってから、1 から 5 までの手順を繰り返してください。

以上の手順を行ってもエンジンがかからない場合には、お近くの Honda 販売店にご相談ください。

故障の修理
- お近くの Honda 販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早く Honda 販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

型式		EBL-SC47
長さ		2,635 mm
幅		945 mm
高さ		1,525 mm
軸距		1,690 mm
原動機種類／総排気量		ガソリン・4サイクル/1.832ℓ
車両重量		421 kg《428 kg》
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前輪	130/70R18M/C 63H
	後輪	180/60R16M/C 74H
最低地上高		125 mm
燃料消費率※		20.0 km/ℓ（車速60 km/h 定地走行テスト値）
最小回転半径		3.3 m
圧縮比		9.8
最高出力		80 kW (109 PS)/5,500 rpm
最大トルク		161 N·m (16.4 kg·m)/4,000 rpm
燃料タンク量		25ℓ

※燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

《 》内は、GOLDWING（AIRBAG・NAVI）の数値です。

点火形式		フル・トランジスタ式バッテリ点火
点火時期		BTDC2°/700 rpm
アイドリング回転数		700 rpm
点火プラグ	NGK	BKR5E-11 BKR6E-11 BKR7E-11
	DENSO	K16PR-U11 K20PR-U11 K22PR-U11
蓄電器（バッテリ）		12V-20Ah
機関から変速機までの減速比		1.591
クラッチ形式		湿式多板ダイヤフラムスプリング
変速機形式		常時噛合式
変速機操作方式		左足動式、右手動式（後退）
変速比	1速 2速 3速 4速 OD	2.375 1.454 1.068 0.843 0.685
第一減速比		1.028
第二減速比		2.750

サービスデータ

タイヤ空気圧	1人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
		後輪	280 kPa (2.80 kgf/cm²)
	2人乗車時	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
		後輪	280 kPa (2.80 kgf/cm²)
エンジンオイルの量	全容量		4.6 ℓ
	オイルフィルタ交換時		3.7 ℓ
	オイル交換時		3.6 ℓ
ヒューズ	メインヒューズⒶ		30A
	メインヒューズⒷ		120/40A
	スピードリミットヒューズ		60A
	ヒューズ		5A, 10A, 15A, 20A, 30A
点火プラグの点火すきま			1.0 – 1.1 mm
エアクリーナエレメント	形式		ろ紙式（ビスカスタイプ）
電球（バルブ）	ヘッドライト		12V 35W（内側）※1 12V 55W（外側）※2
	フロントウインカランプ 非常点滅表示灯		12V 21/5W
	リヤウインカランプ 非常点滅表示灯		12V 21W
	ストップ・テールランプ		12V – 21/5W
	ストップランプ		12V 21W
	ライセンスランプ		12V 5W
	フォグライト		12V 35W

※1：ディスチャージヘッドライト
※2：ハロゲンバルブ

ディスチャージヘッドライトおよびハロゲンバルブの交換は必ずHonda販売店で行ってください。

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、本田技研工業株式会社　お客様相談センターでもお受け致します。

全国共通フリーダイヤル　0120ー086819（オーハローバイク）　受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

〒351ー0188　埼玉県和光市本町８ー１

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日　②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日　④販売店名

MADE FROM 50% RECYCLED PAPER
MINIMUM 10% POST-CONSUMER CONTENT

HONDA

The Power of Dreams

30MCA670
00X30-MCA-6700

IPCXXX.2008.XX.9
©2008 本田技研工業株式会社